UTokyo

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号 東京大学入試事務室
Tel.03-5841-1222
(注)照会は志願者本人が行ってください。
https://www.u-tokyo.ac.jp

表紙：柏キャンパス 新領域環境棟

2026 東京大学で学びたい人へ

東京大学案内 THE UNIVERSITY OF TOKYO

THE UNIVERSITY OF TOKYO

東京大学
2026

東京大学で学びたい人へ

未知なるものとの「対話」の場へ

東京大学総長
藤井 輝夫

私たちが生きている世界はますます複雑になり不安定さを増しています。気候変動や国際紛争、飢餓、貧困、感染症など地球規模の問題のみならず、それぞれの地域における未曽有の困難や分断の顕在化など、課題が次々と生まれています。これらの課題は、既存の手法や態勢だけでは解決できません。新たな発想での学知の活かし方や方法知の開発が、必須のものとして求められています。これを専門的かつ多面的、複合的、そして根本的に究め提供できる場こそが大学であると私たちは考えます。

東京大学は、未知と向かいあい、問いかけ、知ろうとする「対話」を大切にします。対話は、他者の小さな声にも耳を傾ける多様性の尊重や、社会との大きな連携にもつながります。このような対話を通して形作られる信頼があってこそ、地球環境のような人類共有の財産を皆で守っていくとともに、社会に広がる閉塞感を乗り越えることができます。

人類が抱えるこうした課題に積極的に取り組む人材を育てることは、東京大学が社会から負託された使命です。多様な学問に基づく知を基盤に、学ぶものそれぞれがその好奇心を沸きたたせ、仲間との対話を豊かに織りなす機会を充実させるなかで、他者を尊重する精神と創造性を育みます。また、自らの学びが社会の中でどのように位置づけられ、また活用できるのか、これを知るための総合的な学びの機会も用意したいと考えています。

本冊子に紹介されているように、東京大学は教育・研究面はもちろん構成員の面でも多様性豊かで、さまざまな国や地域から、異なる考え方やバックグラウンドを持つ学生が入学しています。大学には、そうした多様な人びととの出会いの機会があります。さまざまな背景や特性を持つ人びとが集う環境で学ぶことは、学問を深め、学ぶものそれぞれが自らを高める絶好の機会です。その学びの中で、学内の同級生や先輩、教職員だけでなく、国内外の多様な人びとと対話し、構築したネットワークは、皆さんの人生にとって貴重な財産になることでしょう。

こうした大学での学びへの備えとして私たちが最も大切だと考えているのは、単に知識を量的に増やすことではなく、得た知識を組み合わせて創造的に使いこなす力や、未知の課題に遭遇した時に自らに不足する部分を積極的に学ぶ姿勢を身につけていることです。東京大学ではこうした力や、主体的な学びへの強い意欲を持った学生を幅広く受け入れるために多様な入学試験を実施しています。

全国各地、世界各国からやってきた皆さんの誰もが安心して学べるよう、今後も学びの機会を一層充実させていきたいと考えています。そして教育研究の水準をさらに高度なものとすることに努め、東京大学に入学した学生が、卒業するときに、「東京大学で学んでよかった」と心から思えるような大学にしたいと考えています。

東京大学で学問の扉を開きましょう。皆さんの挑戦を心から歓迎します。

撮影　尾関 祐治

東京大学アドミッション・ポリシー

東京大学の使命と教育理念

1877年に創立された我が国最初の国立大学である東京大学は、国内外の様々な分野で指導的役割を果たしうる「世界的視野をもった市民的エリート」（東京大学憲章）を育成することが、社会から負託された自らの使命であると考えています。このような使命のもとで本学が目指すのは、自国の歴史や文化に深い理解を示すとともに、国際的な広い視野を持ち、高度な専門知識を基盤に、問題を発見し、解決する意欲と能力を備え、市民としての公共的な責任を引き受けながら、強靭な開拓者精神を発揮して、自ら考え、行動できる人材の育成です。

そのため、東京大学に入学する学生は、健全な倫理観と責任感、主体性と行動力を持っていることが期待され、前期課程における教養教育（リベラル・アーツ教育）から可能な限り多くを学び、広範で深い教養とさらに豊かな人間性を培うことが要求されます。この教養教育において、どの専門分野でも必要とされる基礎的な知識と学術的な方法が身につくとともに、自分の進むべき専門分野が何であるのかを見極める力が養われるはずです。本学のカリキュラムは、このように幅広く分厚い教養教育を基盤とし、その基盤と有機的に結びついた各学部・学科での多様な専門教育へと展開されており、そのいずれもが大学院や研究所などで行われている世界最先端の研究へとつながっています。

期待する学生像

東京大学は、このような教育理念に共鳴し、強い意欲を持って学ぼうとする志の高い皆さんを、日本のみならず世界の各地から積極的に受け入れたいと考えています。東京大学が求めているのは、本学の教育研究環境を積極的に最大限活用して、自ら主体的に学び、各分野で創造的役割を果たす人間へと成長していこうとする意志を持った学生です。何よりもまず大切なのは、上に述べたような本学の使命や教育理念への共感と、本学における学びに対する旺盛な興味や関心、そして、その学びを通じた人間的成長への強い意欲です。そうした意味で、入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

入学試験の基本方針

したがって、東京大学の入試問題は、どの問題であれ、高等学校できちんと学び、身につけた力をもってすれば、決してハードルの高いものではありません。期待する学生を選抜するために実施される本学の学部入学試験は、以下の三つの基本方針に支えられています。

第一に、試験問題の内容は、高等学校教育段階において達成を目指すものと軌を一にしています。

第二に、入学後の教養教育に十分に対応できる資質として、文系・理系にとらわれず幅広く学習し、国際的な広い視野と外国語によるコミュニケーション能力を備えていることを重視します。そのため、文科各類の受験者にも理系の基礎知識や能力を求め、理科各類の受験者にも文系の基礎知識や能力を求めるほか、いずれの科類の受験者についても、外国語の基礎的な能力を要求します。

第三に、知識を詰めこむことよりも、持っている知識を関連づけて解を導く能力の高さを重視します。

東京大学は、志望する皆さんが以上のことを念頭に、高等学校までの教育からできるだけ多くのことを、できるだけ深く学ぶよう期待します。

Contents

01 総長メッセージ・東京大学アドミッションポリシー
02 高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと
06 沿革
08 特徴のある教育プログラム
10 学びのシステム（前期課程教育と進学選択制度）

前期課程（1～2年）
12 教養学部

後期課程（3～4年）
14 法学部
16 経済学部
18 文学部
20 教育学部
22 教養学部
24 工学部
26 理学部
28 農学部
30 薬学部
32 医学部

大学院・研究所等
34 大学院
36 附置研究所
38 附属図書館

学生生活
39 学生支援
42 合格者の声
46 学生生活
48 東大生の一日
50 女性の進学促進
52 国際教育
54 留学経験者の声
56 先輩からのメッセージ
58 卒業後の進路

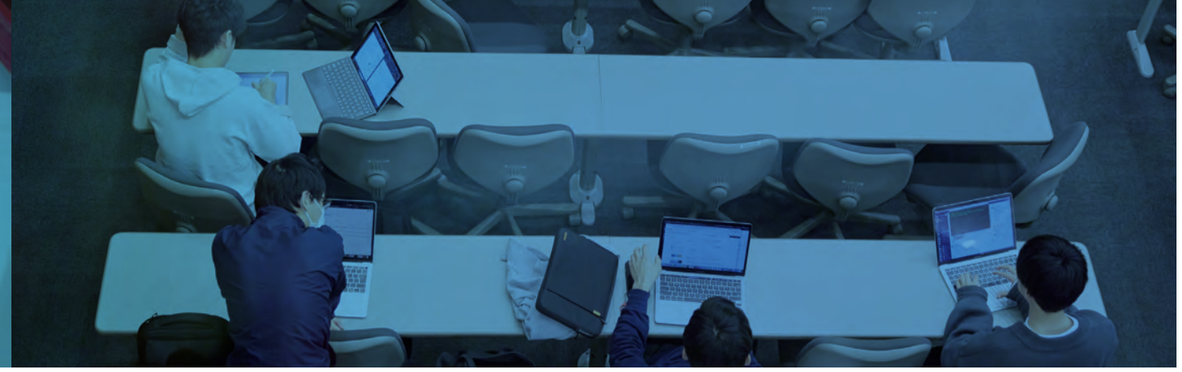
入試情報
60 入試情報
62 入試データ（令和7（2025）年度入試）
64 東京大学進学Q&A

キャンパスガイド
66 駒場地区キャンパス
68 本郷地区キャンパス
70 柏地区キャンパス

高校生・受験生のためのウェブサイト
72 キミの東大

高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと

東京大学を志望する皆さんには、前掲のアドミッション・ポリシーにも明示されているように、本学に入学するまでに、できるだけ多くのことを、できるだけ深く学んでほしいと思います。以下、本学を受験しようと考えている皆さんに向けて、高等学校段階までの学習において、特に留意してほしいことを教科別に掲げます。



国　語

国語の入試問題は、「自国の歴史や文化に深い理解を示す」人材の育成という東京大学の教育理念に基づいて、高等学校までに培った国語の総合力を測ることを目的とし、文科・理科を問わず、現代文・古文・漢文という三分野すべてから出題されます。本学の教育・研究のすべてにわたって国語の能力が基盤となっていることは言うまでもありませんが、特に古典を必須としているのは、日本文化の歴史的形成への自覚を促し、真の教養を涵養するには古典が不可欠であると考えるからです。このような観点から、問題文は論旨明快でありつつ、滋味深い、品格ある文章を厳選しています。学生が高等学校までの学習によって習得したものを基盤にしつつ、それに留まらず、自己の体験総体を媒介に考えることを求めているからです。本学に入学しようとする皆さんは、総合的な国語力を養うよう心掛けてください。

総合的な国語力の中心となるのは

1）　文章を筋道立てて読みとる読解力

2）　それを正しく明確な日本語によって表す表現力

の二つであり、出題に当たっては、基本的な知識の習得は要求するものの、それは高等学校までの教育課程の範囲を出るものではなく、むしろ、それ以上に、自らの体験に基づいた主体的な国語の運用能力を重視します。

そのため、設問への解答は原則としてすべて記述式となっています。さらに、ある程度の長文によってまとめる能力を問う問題を必ず設けているのも、選択式の設問では測りがたい、国語による豊かな表現力を備えていることを期待するためです。

地理歴史・公民

過去と現在、世界の各地域など、人間社会で一見バラバラに起こっている事象は相互に関連しています。それらについて一定の知識を身につけることはもちろん必要ですが、東京大学は細部にわたる知識の量ではなく、知識を関連づけて分析、思考する能力を重視します。そうした能動的で創造的な思考力は、暗記を目的とした勉強ではなく、新聞やテレビなどで報じられる現代の事象への関心や、読書によって養われる社会や歴史に対する想像力を通じて形成されます。そのため本学を志望する皆さんには以下の点を期待します。それに留意して学習に励んでください。

1）　総合的な知識

本学は、狭い特定分野の知識や能力（いわゆる「一芸」）ではなく、幅広く、総合的な知識を求めます。それが複雑な社会現象を理解する上での前提となるからであり、狭い視野から導き出される結論は独善的なものになりがちだからです。地理歴史の入試問題においても、幅広い分野からバランスよく出題するようにしています。

ただし、入学試験の解答に必要とされる知識の程度は、現行の高等学校学習指導要領を超えるものではありません。

2）　知識を関連づける分析的思考力

地理歴史・公民の各科目では、便宜上の理由から、様々な知識が細切れに習得されることになりがちですが、そのような各分野の知識を関連づけて理解する能力が求められます。そのためには、入学試験で選択する科目だけに偏ることなく、地理歴史・公民の各科目を高等学校段階で広く学習し、複雑な社会現象を捉える眼を養うことが期待されます。入試問題において、地図、図表などの資料を用いた問題の出題されることがあるのも、単なる知識の量ではなく分析的思考力を測るためです。

3）　論理的表現力

本学は、思考を論理的に表現する能力を重視します。入試問題においても、分析的思考力と論理的表現力の双方を的確に測る目的で、文章で解答する論述式の問題が出題されます。

4）　倫理的な問題への関心

現代の社会で人類が直面する様々な倫理的課題に対して、文科理科を問わず、古今東西の思想を学びつつ、広い関心を持って対応する姿勢を求めます。入学後、総合的な知識と分析的思考力と論理的表現力を活かしつつ、研究倫理に則って多くの角度から学問的知見を得るために、基本姿勢を身につけてもらいたいと希望しています。

数　学

数学は、自然科学の基底的一分野として、人間文化の様々な領域で活用される学問であり、科学技術の発展に貢献するだけでなく、社会事象を客観的に表現し予測するための手段ともなっています。そのため、東京大学の学部前期課程（1、2年生）では、理科各類の全学生が解析・代数を必修科目として履修し、文科各類の学生も高度な数学の授業科目を履修できるカリキュラムが用意されています。

本学に入学しようとする皆さんは、入学前に、高等学校学習指導要領に基づく基本的な数学の知識と技法を習得しておくことはもちろんのことですが、将来、数学を十分に活用できる能力を身につけるために、次に述べるような総合的な数学力を養うための学習を心掛けてください。

1）　数学的に思考する力

様々な問題を数学で扱うには、問題の本質を数学的な考え方で把握・整理し、それらを数学の概念を用いて定式化する力が必要となります。このような「数学的に問題を捉える能力」は、単に定理・公式について多くの知識を持っていることや、それを用いて問題を解く技法に習熟していることとは違います。そこで求められている力は、目の前の問題から見かけ上の枝葉を取り払って数理としての本質を抽出する力、すなわち数学的な読解力です。本学の入学試験においては、高等学校学習指導要領の範囲を超えた数学の知識や技術が要求されることはありません。そのような知識・技術よりも、「数学的に考える」ことに重点が置かれています。

2）　数学的に表現する力

数学的に問題を解くことは、単に数式を用い、計算をして解答にたどり着くことではありません。どのような考え方に沿って問題を解決したかを、数学的に正しい表現を用いて論理的に説明することです。入学試験においても、自分の考えた道筋を他者が明確に理解できるように「数学的に表現する力」が重要視されます。普段の学習では、解答を導くだけでなく、解答に至る道筋を論理的かつ簡潔に表現する訓練を十分に積んでください。

3）　総合的な数学力

数学を用いて様々な課題を解決するためには、数学を「言葉」や「道具」として自在に活用できる能力が要求されますが、同時に、幅広い分野の知識・技術を統合して「総合的に問題を捉える力」が不可欠です。入学試験では、数学的な思考力・表現力・総合力がバランスよく身についているかどうかを判断します。

理 科

理科は、文系・理系を問わず、自然科学、先端技術が関連する様々な分野において、問題の本質を見つけ、課題解決に導くための考え方の基礎となる教科です。このために、東京大学の学部前期課程（1、2年生）では、理科各類の全学生が物理・化学・生物を必修科目として履修し、理科および文科各類の学生が地学を含めた高度な自然科学の授業科目を履修できるカリキュラムが組まれています。本学を受験する皆さんには、高等学校で理科の各科目を広く勉強し、理科に関する基礎的な力を身につけることを期待しています。このために、入学試験では物理・化学・生物・地学の広範な科目の選択肢から以下の能力を判断するための問題が出題されますので、そのような力を養成する学習を目指してください。

1） 自然現象の本質を見抜く力
自然現象を深く観察し、実物に即して現象の本質を見抜く発見力・洞察力を重視します。

2） 原理に基づいて論理的にかつ柔軟に思考する力
自然現象に関する知識の正確さとともに、自然現象を科学的に分析し、深く掘り下げ、論理的に思考する能力を重視します。また、単なる計算力を問うのではなく、自然現象を定量的に考察する能力も重視します。求められる自然現象に関する知識は、現行の高等学校学習指導要領の範囲を逸脱することはありませんが、これらを十分に理解・消化し、論理的に組み合わせて活用する能力が求められます。

3） 自然現象の総合的理解力と表現力
自然現象は複合的な現象なので、一つの分野の特定の知識・技術のみではなく、幅広い分野の知識・技術を統合し総合的に理解する能力を重視します。また、得られた結論を、客観的に説明する科学的な表現力を重視します。

外国語

「ことば」は、人間が行うあらゆる知的活動の根幹にあります。とりわけ世界の諸地域の交流が盛んになった現代社会を生きる上では、様々な外国語の仕組みを理解し、適切に運用する能力は大きな助けとなりますし、母語や特定の文化に根ざすものの見方に縛られない柔軟な知性を身につけることができれば、自分の思考や視野の幅を広げることもできます。

東京大学の教育理念においては、外国語教育は教養教育（リベラル・アーツ教育）の中に位置付けられており、本学は複数の外国語による受験に門戸を開いています。具体的には、英語のほか、ドイツ語、フランス語、中国語等による受験が可能です。共通して求める能力は「外国語の総合的な運用能力」、すなわち、外国語を理解し、外国語で表現し、外国語を通じて人と交流するための総合的な力です。

いずれの外国語についても、本学で学ぼうとする皆さんは、高等学校までの教育課程の範囲内で、それぞれの言語の適切な運用に必要とされる知識と表現の仕方を身につけ、総合的に運用することが期待されます。また、そのような言語活動を支える論理的な思考力の養成にも努めてください。外国語による文章の理解や表現、文法的知識を問う問題は言うまでもなく、ときにその言語の背景にある社会・文化への理解を必要とする問題が出題されるのも、そうした努力の成果を見るためです。

ここで、外国語として選択されることの最も多い英語について若干付言します。英語の総合的な運用能力の中心となるのは、英語を理解する力と英語を用いて表現する力、そしてそのふたつを総合的に連動させる力です。

1） 英語を理解する力
知的内容のあるやりとりを英語で交わす場においては、英語によって表現された情報や話し手の思考を的確に理解する力が必要不可欠です。文字で表現されたものであれ、音声で表現されたものであれ、英語という言語の仕組みについての知識を用いて、文の構造、文章の流れを把握し、筋道立てて理解しなくてはなりません。

2） 英語を用いて表現する力
同様の場において、自分の意見や考え方を、相手にわかってもらえるように、正確な英語を用いて表現する力も必要不可欠です。英語を使って表現する力は、英語という言語の仕組みの理解の上に養われます。

3） 理解と表現を連動させ総合的に運用する力
現実のことばの運用では、情報は「発信」あるいは「受信」という形で一方向的に伝えられるわけではなく、誤解を解いたり視点を共有したりといった、参加者同士の協力による相互理解のプロセスが加わります。相手の立場や心の中を想像し、理解し、解釈しながら、自分の表現を模索するためには、1）と2）の力を連動させ、総合的に運用することが重要です。

東京大学の教養教育では、上記のような相互理解を可能とする総合的な外国語の運用能力を身につけるために様々なカリキュラムを提供します。本学を志望する皆さんは、高等学校学習指導要領の範囲内で、そうした外国語のカリキュラムに対応できる能力として、総合的な外国語の運用能力の基礎となる力をつけることを心掛けてください。

情 報

人間のすべての知的営為は、科学や芸術、社会活動、日常生活に至るまで情報と不可分です。近年の情報技術の発展により、扱う情報の量は膨大になっています。そのため情報やその処理に対する本質的な理解と、その理解に基づいた応用力が求められています。

東京大学の学部前期課程（1、2年生）では、東京大学で学ぶ学問の基礎のひとつとして、文科理科にかかわらず「情報」を必修科目にするとともに、様々な関連科目を提供しています。入学前には情報社会に主体的に参画することを見据えて、情報に関する科学的な見方・考え方の習得に努めてください。本学の入学試験では大学入学共通テストのみを課します。入学試験で求められる知識や技能は学習指導要領の範囲内になりますが、本学入学後には以下のような力の獲得が求められます。

1） 情報を解析する力
情報の量が飛躍的に増大する現代においては、対象を正しく捉えることが重要です。注目する対象を正確に理解するために、対象となるものや事象を必要かつ十分に表す情報を取捨選択するとともに、情報を適切に整理してモデル化する解析力が必要となります。

2） 情報の処理手法を構想する力
問題を解決するためには、取得された情報を利用して、未知の解を求めたり、最適な選択を行ったり、将来を予測したりすることになります。その際の情報処理に誤りがないだけでなく、限られた計算資源や時間で処理を完了する必要があります。問題の本質を見極めて情報を正確にかつ効率よく処理する手法や手順を構想する力が求められます。

3） 情報を表現する力
解析や問題解決によって得られた情報は、利用にあたって適切な形式で表現されなくてはなりません。たとえば、他者に提示するためには誤解なく容易に理解できる表現形式が求められますし、場合によって機密性など安全性への配慮が求められることもあります。目的や状況に応じて、情報を適切に表現する力が必要とされます。

これらの力を発揮するためには対象や目的に対する知識や考察力も欠かせません。高等学校での学習にあたっても、3つの力を念頭に、様々な科目を広く深く学ぶとともに、情報との関連性を意識していただきたいと考えています。

東京大学は、1877（明治10）年4月に創設されました

沿革

■ 1877（明治10）年

東京大学

東京開成学校と東京医学校が合併し、法学、理学、文学の3学部と医学部および予備門（第一高等学校の前身）で構成される東京大学が誕生しました。

当初は法、理、文3学部が神田錦町に、医学部が本郷元富士町にありました。

以後、工部大学校や東京農林学校等、さまざまな学校と合併しながら総合大学となり、何回か改称してきました。2004（平成16）年、国立大学が法人化され、国立大学法人東京大学になりました。（＊下図名称の変遷を参照）

現在、東京大学は、10の学部、15の大学院、11の附置研究所および学内共同教育研究施設、学際融合研究施設、附属図書館、文書館、国際高等研究所等がある他、医学部附属病院のように学部・大学院研究科、附置研究所にある附属施設等で構成されています。

また、施設等は、本郷・駒場・柏という3つのキャンパス以外にも、全国に広がっています。

東京第一大学区　開成学校開業式之図

■ 1886（明治19）年

帝国大学

教授は高い教壇から
西洋の学問を原語を交え
講義していました

1911（明治44）年
「SOUVENIR〔法科大学卒業記念写真帖〕」より

■ 1897（明治30）年

東京帝国大学

正門内の景観は、
関東大震災をへて、
大きく変化しました

1915（大正4）年「SOUVENIR ALBUM〔医学部卒業記念写真帖〕」より

■ 1947（昭和22）年

東京大学

■ 1949（昭和24）年

新制

東京大学

大講堂（安田講堂）は
1925（大正14）年に竣工、
シンボルとなりました

1941（昭和16）年
「東京帝国大学経済学部卒業記念」より

■ 2004（平成16）年

国立大学法人

東京大学

2000（平成12）年、
本郷・駒場に加え
新たに柏キャンパスが
設置されました

2000（平成12）年「宇宙線研究所・物性研究所竣工記念葉書」より

本郷地区キャンパスの歴史

江戸時代、本郷キャンパスはほとんどが加賀藩の江戸屋敷地であり、病院のある敷地は富山藩と大聖寺藩、弥生キャンパスと浅野キャンパスの大部分は水戸藩でした。現在の構内にも多くの史跡が残されていますが、赤門（正式名称：旧加賀屋敷御守殿門）や三四郎池（正式名称：育徳園心字池）はよく知られており、名所にもなっています。

東京大学医学部の前身である東京医学校が、本郷へ移転してきたのは1876（明治9）年。その後、法学部・文学部・理学部・工学部も相次いで移転し、次第に本郷キャンパスが大学の中核として発展、充実していきました。

しかし、明治期に建てられた校舎は、1923（大正12）年9月1日の関東大震災によって大部分が崩壊してしまいます。そこで、翌年から内田祥三（工学部教授、後の14代総長）を中心に復興計画が進められました。ウチダゴシックとも呼ばれる統一されたデザインの建築群が次々に登場し、昭和10年代には新規に取得した弥生・浅野キャンパスを加えて、現在の本郷地区キャンパスが形成されます。

こうしてつくりあげられた特徴的な光景は、戦争での被害も少なかったため、現在にも受け継がれ、最新の校舎と調和しつつ東京大学の顔となっています。

赤門前に整列した馬術部　1926（大正15）年

駒場地区キャンパスの歴史

古くは駒場野と呼ばれた駒場地区キャンパス一帯は、徳川8代将軍吉宗のころ（18世紀初め）から、将軍家の御狩場になっていました。薬草園もその一部にあったようです。この御狩場の広さは50haもあり、現在の駒場公園や先端科学技術研究センターなどの敷地も含まれていました。敷地内には湧水もあり、ささやかながらかつての武蔵野に思いを馳せることができます。

明治に入って、1882（明治15）年、この地に東京大学農学部の前身である駒場農学校が開かれました。これは、その後東京帝国大学農学部と改組されました。

この農学部時代の建物は、一部第2次大戦時に焼失し、その他はその後取り壊されて現在は残っていませんが、いま駒場キャンパスがゆたかな緑に包まれ、珍しい樹木が数多く見られるのは、こうした歴史によるものです。

1935（昭和10）年、本郷キャンパスの隣地、現在の農学部の敷地にあった第一高等学校と、当時の東京帝国大学とのあいだで敷地交換の話がまとまり、双方の移転が行われました。

戦後、第一高等学校が東京大学に継承されたのに伴い、このキャンパスが本学の敷地となり、教養学部等が設置されました。

駒場祭　1959（昭和34）年

柏地区キャンパスの歴史

江戸時代の柏地区キャンパス一帯には、幕府の軍馬育成機関、小金牧が広がっていました。ここには多くの野生馬が生息し、鹿狩りの舞台ともなる自然あふれる地域でした。明治維新後に、窮民対策のため開墾が開始されますが、水利のよくない土地柄で困難が多かったようです。昭和初期には、日本陸軍によって柏飛行場が建設され、首都東京の防衛に重要な役割を果たしました。終戦後、一時は引揚者入植地となりますが、朝鮮戦争勃発後に米軍に接収され通信所が設置されます。そして1979（昭和54）年に返還されると、跡地利用の一環として、東京大学の第三の核となる柏キャンパスがつくられました。

1990年代、東京大学は21世紀にむけた学問とキャンパスの再編を検討し、「三極構造」を提唱します。伝統的な学問の核をなす本郷と、学際的教育・研究を推進する駒場を既存の二極とし、「学融合による新しい学問領域の創造」をめざす拠点（第三極）として柏キャンパスを位置づけました。これにもとづき、1995（平成7）年に、通信所跡地の一部をキャンパス用地として取得、翌1996年に起工式を行いました。2000年の物性研究所、宇宙線研究所の移転・開所を皮切りに、現在も未来を切り拓く研究・教育の場として、機構・施設の拡充が続いています。

柏キャンパス移転記念一般公開　2000（平成12）年

特徴のある教育プログラム

東京大学では、国際感覚を鍛える教育の充実や主体的な学びの機会の提供を進めています。そのような教育プログラムの例として、初年次ゼミナール、初年次長期自主活動プログラム（FLY Program）、グローバルリーダー育成プログラム（GLP）、グローバル教養科目（Global Liberal Arts Courses）を紹介します。

▲詳細はこちらへ

初年次ゼミナール

初年次ゼミナール文科・理科は『「教え授ける」（ティーチング）から「自ら学ばせる」（ラーニング）への転換』を目指した取り組みの一環として設計されました。

学生は初歩的な研究課題に取り組むことで、基礎的な学術スキルを身につけます。また、高校までの知識を習得する学びの姿勢から、自ら知を生み出す大学での能動的な学習への転換を行います。学習成果はプレゼンテーションや小論文として発表し、ディスカッションも重視されます。学生の積極的な参加を促すため、1クラス20名程度の少人数制で、ほとんどの授業に大学院生のTA（ティーチング・アシスタント）が付き、丁寧な指導を行います。授業外にも能動的学習をサポートする体制を整えています。学術文献の検索や研究倫理など、分野にかかわらず共通性の高い内容については共通教材や共通授業で取り上げます。

初年次ゼミナールは大学に入学して最初のセメスターに開講される、すべての学生が受講しなければいけない必修授業です。先端の研究を行っているさまざまな分野の教員が、専門性を活かした課題を用意し、初学者でも楽しみながら取り組めるように工夫を凝らしています。文科生は初年次ゼミナール文科の授業群から、理科生は初年次ゼミナール理科の授業群から、シラバスとガイダンスを参考にして履修したい授業を選んで登録します。希望者が集中した場合は抽選になります。

■ 初年次ゼミナール文科

人文・社会科学のさまざまな分野の教員が、それぞれの専門分野に引きつけて授業を展開します。たとえば、対象となる学問分野の方法論を学び、それにそって課題設定・分析を行う「ディシプリン型」、基本文献を読み解きながらクリティカル・リーディングを身につける「文献批評型」、調査の方法を学んだ上で実際にインタビューやフィールド調査を行う「フィールド型」など、学問分野や授業テーマに応じて多彩なアカデミック体験が用意されています。最終的な授業成果として、学術論文に準じる「小論文」をすべての学生が執筆します。長文の読解や作成を通じて考える力を試す東京大学の文科系入試の独自性を活かし、それを大学での学びへと発展させてゆきます。

■ 初年次ゼミナール理科

全理系学部および附置研究所・センターから、第一線に立つ研究者である教員がそれぞれの専門性を活かした授業を担当します。初年次ゼミナール理科では、未知なる問いへのアプローチをする「アカデミック体験」、サイエンティフィック・スキルの習得、グループによる協同学習、プレゼンテーションやレポートによる発表などを行います。分野は多岐にわたり、基礎研究色の強いものから実学的なものまでさまざまです。「問題発見・解決型」「論文読解・演習型」「データ解析型」「ものづくり型」「フィールドワーク型」「現象シミュレーション型」「原理解明・伝達型」といったさまざまなタイプの授業の様子を、共通テキスト『科学の技法　第2版』（東京大学出版会）で紹介しています。

初年次長期自主活動プログラム
FLY Program（Freshers' Leave Year Program）

https://www.fly.c.u-tokyo.ac.jp

本プログラムは、入学直後の学部学生が、1年間の特別休学期間を取得したうえで、自らが独自に作成した計画に基づき、社会における主体的な活動を長期間体験することを通じて、従来の意識・価値観を相対化しつつ、大学での学びの意義・目的を深く考える機会を得るものです。

教養学部 教養学科 総合社会科学分科
国際関係論コース卒　寺尾 結衣

私は東大に入学したとき、「世界平和に貢献したい」という曖昧な夢しか持っておらず、大学で専門にしたい分野も決まっていませんでした。そこで、大学で勉強を始める前に世界で起こっている社会問題を自分の目で直接見たいと思い、FLY Programに参加して、ボランティアとして地域と関わりながら世界一周をする旅に出ました。インドで女性を支援し、タンザニアで農業をし、メキシコでは障碍者支援に携わりました。世界を知るという目的を達成するために自分で一から計画を立て、様々な人と交流し、幾多の困難を乗り越えてきた結果、元の目的よりもずっと大きなものが得られました。大学で何を勉強すればわからない人は、ぜひ「入学直後の休学」を選択肢に入れてみてください。

インドで女性自助グループのミーティングに参加
※後列左端

工学部 建築学科卒　楠瀬 礼

私は将来、地元の高知になんらかの形で貢献することを目標としています。大学で学びを深める前にこの目標に関する学外での経験をしておくことに意味を見出し、FLY Programを利用しました。具体的には、熊本県、宮城県において第一線でその地域のために活躍されている方々のもとでインターンをさせていただき、実際に地域のために働くということはなんたるかを学びました。他にも、語学研修、異文化理解、日本とは違った地域のあり方を見ることを目的に海外にも訪れました。入学直後の一年間の休学は不安が伴うものかもしれませんが、必ずや復学後の大学生活、そしてその後の人生を豊かにしてくれるでしょう。皆さんも挑戦されてみてはいかがでしょうか。

気仙沼での一枚

グローバルリーダー育成プログラム
GLP（UTokyo Global Leadership Education Program）

GLPは東京大学グローバル教育センター（GlobE）が提供する、世界が直面する課題を多面的に捉え、より良い社会の構築と変革を実現するためのリーダーシップを身につけるプログラムです。グローバルに活躍するキャリアやリーダシップ・スキルに関心がある東京大学のすべての学部学生の参加を歓迎します。GLPは、グローバルな課題に取り組む際に求められる、多様性（ダイバーシティ）と包摂性（インクルージョン）の観点と、分野を超えた問題解決志向のアプローチを重視しています。

■ グローバルリーダー育成プログラム-I
GLP-I (Global Leadership Program-I)

GLP-Iは2024年秋から新たに開始された、英語でリーダーシップを学ぶプログラムです。2014年度から実施されていたGLP-GEfIL(Global Education for Innovation and Leadership)を、より開かれたものとして発展させました。グローバル教養科目（GLA）、グローバルリーダー育成プログラム科目（GLC）、Global Capstone（学生主導型のプロジェクト）、Global Leadership Summit（成果発表）など、GlobEを中心に東京大学が英語で提供する授業等のさまざまな教育プログラムを通して、国際社会で活躍するためのリーダーシップ、ひいては国際総合力（p.53）を涵養することを目的としています。

GLP-Iは学部後期課程学生（3年・4年生）を対象としていますが、一部の構成要素は学部前期課程（2年生）のうちに取り組むことも可能です。募集・選抜型のプログラムではないため、構成要素となる授業等を主体的に履修・修了することによって、誰でもプログラム修了を目指すことができます。

https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/glpi.html

プログラムの特徴

- **異文化＋分野横断的：**国境や学部の垣根を越えて、留学生や他学部の仲間とともに学び合う機会が得られます。
- **英語での学び：**GLP-Iの構成要素となる授業やプロジェクトは英語で行われます。「SDGs」（持続可能な開発目標）に関する授業も数多く開講されており、グローバルな視座で学びを深めることができます。
- **東大×Minerva：**ミネルバ・プロジェクト＊との協働により特別に開発された授業（GLC）を受講することで、多様性、公平性、包摂性を伴ったリーダシップ・スキルとチームワークスキルを身に付けることができます。
- **学生主導のプロジェクト：**GLC等の授業での学びをベースに、グローバル課題に関するアカデミックな探究活動やGlobal Experiencesに取り組み、実践を通じてリーダーシップを学び、その成果を発表します。
- **Global Experiences：**GlobEを中心に東京大学が提供・紹介するさまざまなプログラムがGlobal Experiencesとして認定されます。
- **奨学金：**GLP-I参加学生はGLP-Iへの取り組み状況に応じて、Global Experiences参加のための充実した奨学金を最大2回受給することができます。
- **修了認定：**プログラムの修了者には GlobE が発行する修了証が授与されます。

＊独自の教育ツールを提供する教育企業。非営利組織であるミネルバ大学の経営も行っている。

■ グローバルリーダー育成プログラム-II（トライリンガル・プログラム）
GLP-II (TLP) (Global Leadership Program-II (Trilingual Program))

GLP-II (TLP)は2025年4月から新たに開始された、「日本語・英語に加え、もうひとつの言語」を高度に習得するプログラムです。2013年度から教養学部において実施されていたトライリンガル・プログラムをより開かれたものとして発展させました。すべての学部学生を対象とし、グローバル教養科目（GLA）、グローバル教養言語科目（L-GLA）など、GlobEを中心に東京大学が提供する国際関連の授業等を通して、国際社会で活躍するための高度な言語運用能力と文化理解を深め、ひいては国際総合力（p.53）を涵養することを目的としています。

GLP-II (TLP)では「もうひとつの言語」に一貫して取り組みます。学部後期課程（3年・4年生）での学修を必須としていますが、学部前期課程（1年生・2年生）での取り組みも一定の範囲で構成要素の一部として認定されます。募集・選抜型のプログラムではないため、構成要素となる授業等を主体的に履修・修了することによって、誰でもプログラム修了を目指すことができます。

https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/glpii.html

プログラムの特徴

- **多面的・多言語的な学び：**ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・韓国朝鮮語・スペイン語に対応しています。複数の言語を高度に習得するとともに、海外での学び（海外体験）などを通して、世界が直面する諸課題を多面的・多言語的に考えることで、グローバルリーダーに必要な知見と姿勢を体得することを目指します。英語での学習も必須となります。
- **様々な言語「を」／「で」学ぶ：**東京大学では様々な言語「を」学ぶ授業科目だけでなく、様々な言語「で」学ぶ授業科目も開講されています。たとえばグローバル教養科目(GLA)では、少人数で主にディスカッションなどを行う授業では、「SDGs」（持続可能な開発目標）に関する分野横断的なトピック（ジェンダー、ダイバーシティ、健康、貧困、GXなど）を扱います。
- **海外体験：**GlobEを中心に東京大学が提供・紹介するさまざまなプログラムのうち、「もうひとつの言語」で行われるものが海外体験として認定されます。学部前期課程（1年生・2年生）で実施されている海外研修プログラム（国際研修）（p.53）もそのひとつです。
- **奨励金：**GLP-II (TLP)に参加学生はGLP-II (TLP)にへの取り組み状況に応じて、海外体験のための奨励金を受給することができます。
- **修了認定：**プログラムの修了者には、GlobEが発行する修了証が授与されます。

グローバル教養科目
GLA (Global Liberal Arts Courses)

https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/globalliberalarts.html

グローバル教養科目は、交換留学生を含む全学部の後期課程学生・大学院生が、現代の世界が直面する喫緊の課題を英語ほかの言語で学ぶ授業です。特に「SDGs」（持続可能な開発目標）に関する分野横断的なトピック（ジェンダー、ダイバーシティ、健康、貧困、GXなど）をテーマとしています。クラスは原則20名程度の少人数制で、ディスカッションなどのインタラクティブな活動を中心に展開し、学問分野や国境などのあらゆる境界を越えて共に学び、考えるための創造的な場となっています。グローバル教養科目は、地球規模の重要な課題について、学生ひとりひとりが深く省み、その考えを英語で明確に説得力をもって表現すること、また異なった意見に耳を傾け、話し合いを通してよりよい道を探る方法を学ぶことを目指します。

授業の様子

学びのシステム

（前期課程教育と進学選択制度）

世界最高の学びの場

学生の主体的な学びを促し、世界の舞台で活躍する力を涵養

東京大学のすべての学生が最初の２年間を過ごす教養学部前期課程では、リベラルアーツ教育を重視した教養教育が幅広い知の世界を提供しています。ここで学生は学問の基礎と学びの技法を着実に自分のものにするとともに、さまざまな学問分野の最先端の研究に接することができるのです。知の興奮と喜びを体験し、それらを糧として自ら意欲をもって自己を大きく成長させる主体的な学びへと進んでいくことができます。このような学びの環境から、世界の舞台で多様な知恵を出し合い、連携協力の精神のもとに行動をおこすことのできる人材が育つことを期待しています。

三つの基礎力の鍛錬

1. 自ら原理に立ち戻って考える力
2. 忍耐強く考え続ける力
3. 自ら新しい発想を生み出す力

前期課程教育と進学選択制度

前期課程教育では、特定の専門分野に偏らない視野と総合的な判断力を養うリベラルアーツ教育を効果的に実践し、「自ら原理に立ち戻って考える力」、「考え続ける忍耐力」、「自ら新しいアイディアや発想を生む力」という三つの基礎力を鍛えるために、多様な授業科目が提供されています。その授業科目は、一つの学問領域を深く掘り下げるものから、複数の領域に越境することで新しい見地を切り拓くものまで、実にさまざまです。これらの授業科目は基礎科目、展開科目、総合科目、主題科目から構成されています。

東京大学では、すべての学生が、教養学部前期課程の６つの科類（文科一、二、三類、理科一、二、三類）に分かれて入学しますが、この科類に応じて基礎科目は定められています。この基礎科目は、広範な専門分野選択において通用する基礎的な知識・技能・方法を修得することを目的とします。展開科目は基礎科目での学びをさらに自ら主体的に展開させるための素地となる能力を涵養し、専門的学びへの積極的動機づけをはかります。総合科目は、現代において共有すべき知の基本的枠組みを多様な角度・視点から修得して、総合的な判断力や柔軟な理解力を養うための授業群です。高度な研究・教育を教養教育に還元するために先端的なトピックが扱われ、学問の多様性と奥行きを理解することができるようになっています。そして、主題科目は、研究所を含む全学の多種多様な専門分野の教員が、領域横断的、萌芽的、先端的テーマや時宜を得たトピックを設定し、学生の主体的関心にもとづく参加を求めることで、多様な専門分野と学問的アプローチ、最先端の知に接する機会を提供します。

一般選抜による入学者は、前期課程で得た広範な分野の知見と学びの基礎力をもとに、後期課程における自分の進むべき専門分野の学部・学科等を主体的に選択します。前期課程各科類から後期課程各学部への進学先はおよそ次ページの図のようなものです。また、各学部には指定科類以外のどの科類からもそれぞれ一定数の進学を許している「全科類枠」もあります。例えば、理科各類から経済学部や文学部に進学することも可能です。

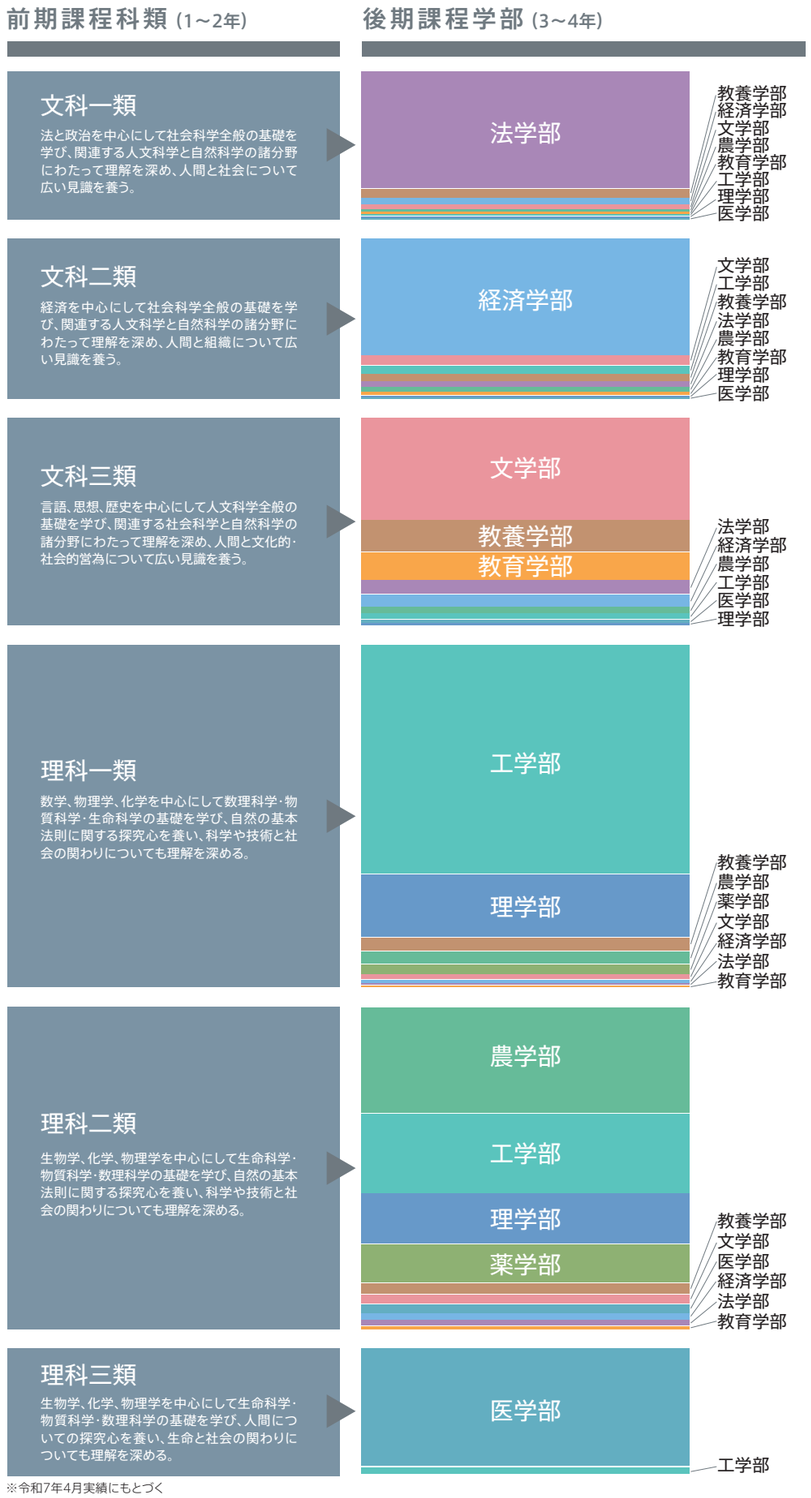
学校推薦型選抜による入学者は、入学後は教養学部前期課程の６つの科類のうちいずれかに所属することになりますが、前期課程修了後は出願時に志望した学部等へ進学します。

東京大学は、学問の発達や社会の変化に応じて、多様な学修と進路の選択が可能になるように、できるだけ柔軟な学びのシステムを構築するよう努力しています。このような学びの環境から、他者理解と自己相対化の力が育まれ、世界的な視野で「多様性を活力とする協働」を牽引する、世界最高の学びの場が生まれているのです。

科類の特徴と学部進学との関係

前期課程の各科類から主として進学できる後期課程の学部は右記の表のとおりですが、2006年度の新入生から、すべての科類からどの学部にも進学できる枠が設けられています。なお、全科類からの進学枠を含め、右記の表に示されていない進学の道もあります。

所属している科類に応じて後期課程で進む学部の大枠が決まっています



※令和7年4月実績にもとづく

前期課程

文科一類・文科二類・文科三類・理科一類・理科二類・理科三類

College of Arts and Sciences

教養学部

- 基礎科目
- 展開科目
- 総合科目
- 主題科目

https://www.c.u-tokyo.ac.jp/

前期課程におけるリベラルアーツ教育

東京大学の教育課程には、前期課程と後期課程とがあります。本学に入学した学生は、駒場キャンパスにおいて前期課程を過ごしたのちに、後期課程諸学部に進んで専門教育を受けます。この前期課程における教育の核となるのが、リベラルアーツ（Liberal Arts）教育です。

このリベラルアーツ教育は、大学入学時点の限られた知識・経験・思考の限界から、学生を文字通り解放（liberate）して、ありきたりの固定観念や先入観から自由で、他者の説を無自覚に受け売りしない、本当の意味で独立した思考の持ち主とするために行われるものです。そこで前期課程では、学生が特定の学問領域に偏ることなく社会・人文・自然を幅広く学び、自らの思考を理路整然と自在に展開できる能力を培うことに、その教育の重点を置いています。

東京大学では、学生が入学時点の限られた判断力に基づいて専門分野を決定するのではなく、まずは駒場キャンパスにおいて前期課程のリベラルアーツ教育を十分に受けたうえで、進学先の後期課程を主体的に選ぶことを尊重する「Late Specialization（遅い専門化）」を教育の基本方針としてきましたが、それは上記の理由によるものです。

これまで東京大学は、前期課程教育の活性化に継続的に取り組んできました。近年の例を挙げるならば、世界から優秀な人材の集うグローバル・キャンパスを形成し、構成員の多様化を通じて学生の視野を広く世界に拡大するという計画を具現化するものとして、2012年10月には英語プログラムPEAK（Programs in English at Komaba）がスタートしました＊。また、英語教育の充実のために、学術的な文章作成能力が身につく少人数授業として、理科生向けのALESS（Active Learning of English for Science Students）と文科生向けのALESA（Active Learning of English for Students of the Arts）が、それぞれ2008年度、2013年度から開講されています。さらに、英語で論理的かつ流暢に議論ができるようなスピーキング力の涵養を企図したFLOW（Fluency-Oriented Workshop）を2015年度から開講しています。

駒場における前期課程教育は、全学的な協力体制の下に実施されています。前期課程での学びの特長としては、右に説明するとおり、初年次ゼミナールなどにおける少人数教育の推進、習熟度別教育の展開、さらに前期課程の基礎科目と後期課程の専門科目とを架橋する展開科目（社会・人文・自然科学・文理融合ゼミナール）が挙げられます。また、多彩な講義が開講されている「総合科目」や「主題科目」は、学生が主体的に選択して履修できるように工夫されています。

学習環境の整備にも、東京大学は力を入れてきました。2006年度には、舞台芸術や音楽実習のための演習室、課外活動のための施設を備えた「駒場コミュニケーション・プラザ」が開館し、2014年度にはICT（Information and Communication Technology）を駆使して能動的な学習を行うスタジオ教室群を擁した21世紀型の教育棟21 KOMCEE（21 Komaba Center for Educational Excellence）も完成しました。

＊2026年度をもって学生募集停止

開講科目一覧

基礎科目
- 外国語
- 情報
- 身体運動・健康科学実習
- 初年次ゼミナール
- 社会科学
- 人文科学
- 自然科学

展開科目
- 社会科学ゼミナール
- 人文科学ゼミナール
- 自然科学ゼミナール
- 文理融合ゼミナール

総合科目
- L系列（言語・コミュニケーション）
- A系列（思想・芸術）
- B系列（国際・地域）
- C系列（社会・制度）
- D系列（人間・環境）
- E系列（物質・生命）
- F系列（数理・情報）

主題科目
- 学術フロンティア講義
- 全学自由研究ゼミナール
- 全学体験ゼミナール
- 国際研修

学びの特長

どの分野でも通用する「基礎力」を身につける

前期課程では、学問的なものの見方や考え方の基本を学び、将来、どんな分野に進んでも通用する基礎力を身につけるために、「基礎科目」と呼ばれる必修科目があります。大学における学問への導入の役割を果たすのが、入学直後から履修する初年次ゼミナール文科、初年次ゼミナール理科です。それから、文科生・理科生を問わず、外国語、情報、身体運動・健康科学実習が必修となっています。これらの科目の履修を通じて、異文化を理解し、対等に学び合える力、グローバル化する社会をリードする行動力・判断力を養います。それらに加えて、文科では、現代の人文科学・社会科学の基礎となるパラダイムや技法を、理科では、数理科学・物質科学・生命科学の幅広い基礎学力を修得できる授業科目を開講しています。

講義風景

21KOMCEEで学びのスタイルを変える

東京大学に入学する皆さんにとって、教養学部で過ごす2年間は、自らの学びを「学習」から「学問」へと変えていくための期間と言えます。将来どのような専門分野に進むかを決めるだけでなく、自分の学びのスタイルを確立する大切な時期です。駒場キャンパスは、そんな学びの支援にも工夫を凝らしています。

2011年度に竣工した21 KOMCEE Westは、能動的・活動的な学びである「アクティブラーニング」の環境を提供します。この新しい教育棟には、討論や発表、協調学習や身体表現の授業に適したスタジオ教室、学生と学生、学生と教員との交流を促すオープンスペース、レクチャーホールやカフェテリアが配置されています。2014年度に竣工した21 KOMCEE Eastは、実験室、教養教育実験スペース、講義室で構成されています。WestとEastを組み合わせることにより、授業と実験、そしてディスカッションが一連の空間で実施可能であり、学生の主体的な学びにつながると期待されています。

21KOMCEEでの授業風景

分野を横断した学習によって総合的な「理解力」を獲得する

教養教育の重要な目的のひとつは、広い観点から学問の広がりと奥行きを理解し、特定の専門分野にかたよらない総合的な視点や柔軟な理解力を獲得することです。そのために開講される「総合科目」では、「言語・コミュニケーション」、「思想・芸術」、「国際・地域」、「社会・制度」、「人間・環境」、「物質・生命」、「数理・情報」の７系列にわたって、多数の講義が用意されています。

その他にも、社会的課題や学際的テーマを多面的に掘り下げる講義や、体験を通じて学ぶことができる少人数クラスなど、多くの学習機会が提供されています。これらは「主題科目」と呼ばれ、学生が自由に履修できる「学術フロンティア講義」、「全学自由研究ゼミナール」、「全学体験ゼミナール」、「国際研修」があります。自らの問題意識に基づいて履修するゼミナールは、学生の満足度が最も高い科目となっています。

きめ細かな学習支援でキャンパス生活を充実させる

教養学部1、2年生の学生数は約6,600人、教員数は約490人です（2024年5月現在）。教員１人当たりの学生数は、教育の充実度合いを示す目安の一つですが、この比率が20以下の大学は世界でもあまり多くはありません。また、多くの授業で、大学院生がティーチング・アシスタント（TA）を務め、授業を補助しています。

これに加えて、教養学部では、学生相談所や進学情報センターを設置し、きめ細かく学習を支援する態勢を整えています。生活上の悩みや学習・進路に関する相談、進学先を考える機会となるシンポジウム等も実施しています。また、新入生に対する特別の初年次プログラムを用意するなど、活発な学習支援を行っています。

学習の支援に使われる初年次活動センター

少人数で学ぶ、習熟度別に学ぶ

文理を問わず、それぞれの学問領域における思考様式を身につけるうえで大切なのは、一つの問いについて多様な見解が競合することを意識しながら、各自が議論に加わり、その議論を通じて特定の問題についての理解を深めるという経験です。そのために前期課程では、1年次前半に開講される文理別の基礎科目の初年次ゼミナール、さらに前期課程の基礎科目と後期課程の専門科目を架橋する展開科目の社会・人文・自然科学・文理融合ゼミナールなど充実した少人数授業を整備しています。

また前期課程では、習熟度別の授業を展開している科目もあります。個々の学生にとっては、その学力・意欲等に応じて授業を選択することによって、何を、どこまで学ぶかを主体的に選択することが可能です。

自分の適性に合った進路を選択する

東京大学は、文科・理科それぞれ3つの科類に入学者を受け入れます。学生は、前期課程を修了した後に、各人の適性や志望に応じて10学部にわたる44（予定）の後期課程諸学科等に進学します。

前期課程での学習と自己形成の結果として進学先を決めるしくみは、Late Specializationという理念に基づく本学教育制度における大きな特徴です。本学の調査によると、東大を志望した動機は「入学後に進路を選べるから」と答えた学生が多く、この制度は学生の間でも幅広い支持を得ています。

後期課程

法学部

Faculty of Law

前期課程の科類との基本的対応関係　文科一類

- 第1類（法学総合コース）
- 第2類（法律プロフェッション・コース）
- 第3類（政治コース）

幅広い視野を持ち、法的思考と政治学的識見の基礎を身に付けた人材を社会に送り出すための教育と研究を行っています

法学部の起源は、1872年（明治5年）7月司法省設置の「法学校」と、1873年（明治6年）4月文部省設置の「開成学校法学科」に求められます。以後、今日まで一貫して日本における法学・政治学研究の中心として機能し、そのことに裏打ちされた高度の教育によって、外国人を含む多数の優れた人材を育成し、司法・行政・政治・経済・言論報道、そして学問等の各界に卒業生を送り出してきました。卒業生は7万人を超えています。

法学部では、法学だけでなく、それと政治学とが対をなすものとして研究され、教育されています。それは、近代社会においては、法と政治は、ともに不可欠であるだけでなく、政治が法を定め、実現し、そして、法が政治を形づくり、導くという意味で、両者は、相互に支えあう関係にあって、分かちがたく結びついているからです。

法学部では、司法・行政・立法という、巨大にして複雑な、そして人々の生活・人生・生命に直接かかわる重大な現象を、多種多様な角度から学びます。そして、学生は、法的思考や政治学的識見の基礎を、自らの物とすることが期待されています。法学部というと、法律家の養成のための学部というイメージがあるかもしれませんが、法律家を養成するためだけに存在する訳ではなく、本学部の卒業生の進路は多様です。法学・政治学は、法・政治自体に関する批判的な検討を行う学問として、法律家を目指す学生にも、そうでない学生にも意味を持ちます。現在の日本で通用している法の解釈のみをひたすら学習させるようなことは、本学部の教育のめざすところではありません。

法学部では、このような理念に対応して、法・政治に関わる基礎的な問題を考察する科目から現代の最先端の問題を考察する科目まで多様な科目が展開されています。学生は、中核的な科目については、必ず体系的に履修しなければなりませんが、それ以外は、多彩に用意された科目から自由に選択し、自分の力を伸ばしていくことが期待されています。

この理念を支えるものの一つとして、法学・政治学の専門図書館としては世界屈指のコレクションを有する図書室を挙げておかなければならないでしょう。蔵書数は80万冊近くにのぼり、その過半数は洋書です。膨大な蔵書を前にしたとき、学問の歴史と奥深さを感ぜずにはいられません。

https://www.j.u-tokyo.ac.jp/

学びの特長

法学部には3つの類があり、学生はいずれかの類を選択

法学部には、教養学部文科Ⅰ類から多くの学生が進学しますが、他の科類の学生にも約60名程度、法学部に進学する道が開かれています。もっとも文科Ⅰ類以外の学生の進学については、例年、希望者が多数に上るため、進学には極めて高い成績を要するのが通例です。また、文科Ⅰ類からの進学希望者も、全員が進学できるとは限りません。

法学部には、第1類（法学総合コース）、第2類（法律プロフェッション・コース）、第3類（政治コース）の3つの類が置かれており、学生は、その希望に応じて、いずれかの類に所属します。

類ごとに、必修科目、選択必修科目が異なっていますが、しかし、法学部の類は、他学部の学科のように、高い障壁で区切られたものではありません。将来の大学院進学や就職についても、若干の対応関係があるにとどまり、どの方向に進むにしても、それほど大きな支障はありません。第1類と第3類は必修科目が少なく設定されており、多彩な科目から自己の関心と志望に基づいて学習内容を自分で自由かつ個性的に編成できます。また、第1類では、履修のガイドラインとして「国際取引法務プログラム」・「公共法務プログラム」という二つのプログラムも設定されており、それへの参加も可能です。

法学部に進学した学生は、2年の修業年限を終え、所定の科目の定期試験に合格し、必要な単位数を取得したときに卒業を認められます。また、大学院等でさらに勉学を続ける成績優秀な学生は、進学後1年または1年半の修業で早期卒業することも可能です。法科大学院進学プログラム（法曹コース）に登録すると（所属する類を問わず登録可能）、プログラム修了予定者を対象とした法科大学院入試の特別選抜に出願できる他、早期卒業制度を合わせて利用して大学入学から5年で法科大学院までを修了することも可能になっています。

進学選択ガイダンス

学習相談室の設置をはじめとして、学生のための様々な取り組みを実施

法学部には、学部内の組織として、学習相談室が設置されています。同相談室は、本学の大学院修了クラスの学習相談員と、臨床心理士の資格を持った心理カウンセラーとが互いに協力し、法学部学生の学習面の相談から将来の進路や日常生活上の悩みに至るまで幅広く相談に応じています。こうした恒常的な活動に加えて、毎年、本学の卒業生を招いての進路選択講演会や、大学院生による学習セミナーを開催しています。

また、法学部には、法学部学生を普通会員、教員を特別会員とする緑会という組織があります。緑会は、学生生活の向上のための日常的な業務に加え、官庁による講演会の企画、進学生歓迎会や卒業祝賀会など学生相互の、及び学生と教員との間の交流を深める活動を積極的に行っています。

演習風景

学問の面白さと奥深さを感じることのできる多彩な講義と演習を開講

真面目に日々の生活を送るかぎり、法学部での学生生活の中心は授業になるでしょう。法学部の授業は、主に、講義と演習との2つによります。講義は、様々な規模の教室で、教員が語りかけるというのが基本です。

講義に加えて、ほぼすべての教授・准教授が、毎年、趣向を凝らした多種多様な演習を開講しており、学生は、どの類に属するかにかかわりなく、その中から関心のある演習を選択して履修できます。演習は、少人数で1つの机を囲み、特定の資料や課題をめぐって報告し、討論するというのが基本です。その演習の主題について、教員や友人と対話しつつ深く学ぶ機会であり、同時に文献を精読し、自ら調査し、発表し、質問し、回答し、議論するといった能力を磨く機会でもあります。演習が持つこのような利点をふまえて、法学部では、法学部に所属する間に、最低1つの演習に参加することを必須としています。

このほか、自ら調査し考えをまとめる能力を高めるための機会として、リサーチペイパーの執筆があります。これは、第3類には必須として求められており、他の類の学生も選択科目として執筆が可能です。

法学部のカリキュラムと授業内容の密度は高く、法学部の学生生活は相当に厳しいものであることは間違いありません。そのような環境の中で、学生の勉学意欲は高く、講義や演習に積極的に出席することはもちろん、自主的に勉強会を組織している例も少なくないようです。法学部としても、成績の優秀な学生を表彰する制度を設けています。

講義風景

開講科目一覧

- 憲法
- 民法
- 刑法
- 商法
- 民事訴訟法
- 刑事訴訟法
- 行政法
- 国際法
- 国際私法
- 労働法
- 租税法
- 経済法
- 知的財産法
- 社会保障法
- 消費者法
- アジア・ビジネス法
- 国際ビジネス法
- 民法基礎演習
- 国法学
- 法哲学
- 法社会学
- 法と経済学
- 日本法制史
- 日本近代法史
- 西洋法制史
- 東洋法制史
- 比較法
- 英米法
- フランス法
- ドイツ法
- ローマ法
- 中国法
- イスラーム法
- 政治学
- 日本政治
- 日本政治外交史
- ヨーロッパ政治史
- 現代政治理論
- 行政学
- 国際政治
- 国際政治史
- 比較政治
- 政治学史
- 日本政治思想史
- アメリカ政治外交史
- アジア政治外交史
- 経済学基礎
- 会計学
- 労働経済
- 財政学
- 金融論
- 国際経済論
- 国際経営
- 統計学
- 演習
- リサーチペイパー

後期課程

経済学部

Faculty of Economics

前期課程の科類との基本的対応関係　文科一類

- 経済学科
- 経営学科
- 金融学科

経済学関係では日本最高の図書を保有し、コンピュータやデータベースも充実するとともに、演習などの少人数教育を重視するなど、質量ともに日本最高の経済学教育の殿堂です

経済や経営についての専門的知識を備えた人材の社会的なニーズは高まっています。本学部を卒業した人の多くが、国際的な経済学者、ビジネスのリーダー、政府や国際機関等の中心的な人材として活躍しています。グローバル化が進み、経済活動が社会に及ぼす影響がますます大きくなる中で、優れた研究教育スタッフと設備を持ち、日本で最も優れた経済学教育を提供している本学部の存在意義は今後ますます高くなると自負しています。

経済学部は、基本となる経済理論等共通する科目を多く持ちつつも、以下の3学科から構成されています。経済学科は、財政、金融、産業、労働、国際経済等の様々な経済現象を、統計的、数理的、制度的、歴史的な分析手法を用いて把握・分析することを目指します。経営学科は企業の諸活動あるいは経営組織における人間行動をやはり多様な分析手法で把握・分析することを目指します。また、金融学科は金融工学、マクロ金融政策、企業財務、企業会計等についてより深く学ぶことを目指します。

経済学部の教育の特徴は演習（ゼミナール）等の少人数教育を重視していることです。学生の主体的なグループ学習を奨励するプロアクティブ・ラーニング・セミナー、卒業論文の個別指導、他の大学とのインゼミなど、多様な活動が行われています。社会科学である経済学は大教室の講義や書籍だけで身につくものではありません。そうした座学も重要ですが、実際に政策運営や企業経営の現場に接し、内外のいろいろな識者の話を聞き議論することが重要です。演習で工場見学をしたり、企業の方に産業事情の講義をしていただくなど、本学部の学生にはそのような機会が多く与えられています。

設備の面でも本学部は優れています。平成29年7月に国際学術総合研究棟が竣工され、多くの教室や演習室が新たに加わりました。また、図書館は経済学書の分野では日本はもちろん世界でも有数な規模を誇っており、ネットワーク検索等も利用しやすくなっています。学内には多数のコンピュータ端末が設置されており、それを利用してデータ検索や経済分析が可能になっています。

カリキュラム面でも通常の学部レベルの講義以外に、学部の学生が積極的に大学院初級のコースを受講できる併設授業があります。また学部プラス1年で修士号を授与する卓越プログラムが設けられており、社会の一線で活躍する即戦力の人材を育成しています。経済学研究科、公共政策大学院等の大学院に進学する学生も多くいます。

https://www.e.u-tokyo.ac.jp/

学びの特長

社会を見る目を磨く

経済学は複雑な社会現象を読み解く手法

内外の経済・社会は常に大きな変化を遂げています。バブル崩壊の不況で苦しんできた日本はこれから急速な高齢化の波にさらされます。近隣の中国経済の台頭の中で東アジアの政治経済環境は大きく変化してきました。国境を越えた企業の活動は拡大を続け、自動車やエレクトロニクス産業の諸企業は世界的な視点で開発・生産・販売体制を構築しています。海外からも多くの企業が日本に投資を行い、さまざまな分野で外資系企業の活躍が目立ちます。このように経済や社会が目まぐるしく変化するからこそ、そうした変化の根底にある潮流を冷静に見極め、正しい判断を行う知見が求められます。経済学とは複雑な社会を読み解く文法のようなものです。経済学の知識なしに現代の社会を理解することはできないと言っても過言ではないでしょう。

講義風景

経済学を通じて世界とつながる

グローバル化の中で求められる経済の専門家

経済活動がグローバル化するのと同様に、学問としての経済学もグローバル化しています。社会科学の中では最も国際標準化が進んでいる学問であると言ってよいでしょう。アメリカ、欧州、中国など海外の大学で学生が学ぶ経済学と、本学で教える経済学の内容には多くの共通性があります。こうした学問の国際標準化の結果、経済学という共通の言語で内外の人々の間でコミュニケーションが行われています。政府・国際機関・企業・マスコミなどあらゆる分野で、経済学の専門的な知識や分析能力を持った人が求められています。教育や研究の現場でもこうしたグローバル化の動きを感じることができます。本学では多くの留学生が学ぶと同時に、本学の学生や卒業生の多くも海外留学を経験します。また、日本を代表する研究拠点である本学部には海外から多くの研究者がやってきます。

広がる経済学の利用

社会の至る所で利用されている経済学

経済学の考え方は社会のさまざまな所で利用されています。政府、自治体、日本銀行等による政策決定や政策運営は経済学を抜きに語ることはできません。世界銀行や国際通貨基金などの国際機関では専門的な経済学の知識を持った人が多く働いています。国内外の民間企業の活動でも、金融市場分析、市場動向調査、景気判断などで、経済モデルが活用されることが少なくありません。こうしたモデルは時にコンピュータを活用して多くのデータを分析することにも活用されます。また、こうした専門的な知識とは別に、経済学的な思考が社会の中で果たす役割の重要性は増しています。年金、雇用、税、医療等生活に深く関わる多くの問題を正しく理解する上で経済学的な思考が求められます。また、国内外で起きているいろいろな現象も経済学的な見方を抜きに理解することが難しくなっています。

多様なアプローチ

経済学は間口の広い学問

経済学はさまざまな手法から構成されています。財政や金融等、経済の基本的な構造を理解するための制度的な分析から始まり、価格や市場の機能を深く理解するための純粋理論、統計データを駆使して市場や経済の現実を分析する統計的手法、歴史を検証することで得られる長期的な視野、具体的な企業や産業のケーススタディーを通じて行われる調査等、さまざまな手法があります。学問としての経済学を見たとき、一方では抽象的な数理分析を多用するという自然科学的な側面を持っていると同時に、他方では社会全体の経済問題から個別産業や企業の問題までさまざまなテーマを取り扱うという社会科学的な側面があります。学問としての経済学を学ぶ学生にとっては、理論・歴史分析・制度・統計手法等いずれの手法でも自分が関心を持つどれかに力点を置いて学ぶことができます。その意味で経済学は間口の広い学問で、いろいろな関心から学ぶことができます。

経世済民!

経済学でお金もうけ？

皆さんの中には、経済学を勉強すればお金もうけができると思っている人もいるかもしれません。たしかに、金融機関では高度な経済理論を駆使してできるだけ高い投資収益をあげようとしていますし、新しい企業を起こしてお金もうけをしたいという人にとって経済を読み解く手法としての経済学は役立つものでしょう。ただ、経済社会を見る目を養うことをお金もうけの手段としてだけでとらえるのは、あまりにも狭い見方です。経済学は、目先のお金に目が眩むことの愚かさを教えてくれる学問でもあります。また、お金の動きだけに限定することなく、より幅広い視野で経済社会を見る力を養うことで、個人の利得を越えて社会の繁栄、安定に貢献することに経済学の主眼があります。Economicsという英語を経済学と訳しますが、その語源は「経世済民」（世の中を治め、人民の苦しみを救うこと）であると言われています。

経済学部図書館閲覧室

開講科目一覧

専門科目1
- ミクロ経済学Ⅰ
- ミクロ経済学Ⅱ
- マクロ経済学Ⅰ
- マクロ経済学Ⅱ
- 統計Ⅰ
- 統計Ⅱ
- 経営
- 経済史Ⅰ
- 経済史Ⅱ
- ファイナンス
- ゲーム理論
- 会計

専門科目2
- 経済学史Ⅰ
- 現代資本主義論Ⅰ
- 日本経済Ⅰ
- 労働経済Ⅰ
- 都市経済Ⅰ
- 国際経済Ⅰ
- 開発経済Ⅰ
- 近代日本経済史Ⅰ
- 現代日本経済史Ⅰ
- 現代西洋経済史Ⅰ
- アジア経済史
- 計量経済学Ⅰ
- 経済学のための数学
- 産業組織Ⅰ
- 数理統計Ⅰ
- メカニズムデザイン
- 財政Ⅰ
- 金融Ⅰ
- 国際経済Ⅱ

専門科目3
- 経営科学Ⅰ
- 国際経営Ⅰ
- ICTマネジメントⅠ
- 技術経営Ⅰ
- フード・システムⅠ
- グローバル・ベンチャリングⅠ
- 計量経済学Ⅰ
- 経済学のための数学
- 産業組織Ⅰ
- 生産システムⅠ
- 経営戦略Ⅰ
- 雇用システムⅠ
- 経営史Ⅰ
- 日本経営史Ⅰ
- マーケティングⅠ
- 経営管理Ⅰ
- 財務会計Ⅰ
- 管理会計Ⅰ
- 経営財務Ⅰ
- 国際経済Ⅱ

専門科目4
- 保険数理Ⅰ
- プログラミング
- デリバティブ
- 金融機関のリスク管理
- 計量経済学Ⅰ
- 経済学のための数学
- 産業組織Ⅰ
- 数理統計Ⅰ
- メカニズムデザイン
- 財政Ⅰ
- 金融Ⅰ
- 生産システムⅠ
- 経営戦略Ⅰ
- 雇用システムⅠ
- 経営史Ⅰ
- 日本経営史Ⅰ
- マーケティングⅠ
- 経営管理Ⅰ
- 財務会計Ⅰ
- 管理会計Ⅰ
- 経営財務Ⅰ
- 国際経済Ⅱ

選択科目
- 経済学特論
- 統計学特論
- 地域研究特論
- 経済史特論
- 経営学特論
- 数量ファイナンス特論
- 演習
- 少人数講義
- プロアクティブ・ラーニング・セミナー
- 民法(1)
- 民法(2)
- 行政法
- 労働法
- 商法(1)
- 商法(2)
- 商法(3)
- 経済法
- 日本政治史
- 日本政治
- 産業事情

後期課程

文学部

Faculty of Letters

前期課程の科類との基本的対応関係　文科三類

●人文学科

時間と空間、言語や文化をこえて旅をしながら私たちが人間としてこの世界で生きることその根源を一緒に考え、対話する場です

文学部には27の専修課程があります。哲学、歴史学、文学といった「人文学」と呼ばれる諸分野に加えて、社会学、心理学のような社会科学や自然科学に近い分野も含めて、幅広く人間と社会について考察しています。いろいろな専門が雑然と並んでいる、そんな印象を受けるかもしれません。しかし、それが文学部の魅力であり、強みだと言えるでしょう。

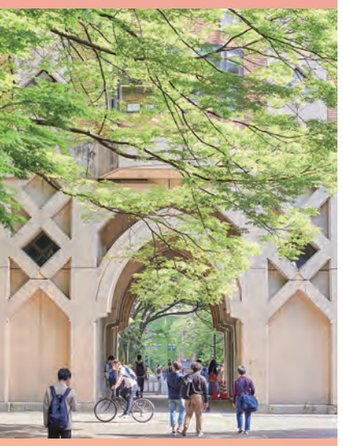
なぜなら、私たちが生きるこの世界は、けっして一つの尺度では割り切れず、一枚の全体像で捉えることも、唯一の答えを出すこともできない厄介なものだからです。実際、私たちが直面する地球規模の課題や社会と人間の諸問題は、複雑きわまりなく、解きほぐし難いことがわかっています。その状況に辛抱づよく向き合い、多角的に考えるのが、文学部の学問なのです。

学生はそれぞれ、思想、宗教、芸術、歴史、考古、文学、言語、社会、心理といった領域を扱う学問の手法を学びつつ、日本、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど多様な文化と歴史を横断して視野を広げていきます。そこに共通するのは、人間の文化の営みとしての「文献（テクスト）」を読み解く作業であり、そこで議論して私たち自身の問題として考えていく訓練です。

文学部での勉強は、ややもすると時間と手間ばかりかかる、現実から離れた迂遠な営みに見えるかもしれません。しかし、私たちがどっぷりと浸かって生きている現実は、現代社会の内側からは十分に見てとることはできません。そこから一旦身を離して、異なるさまざまな視野を経験することで、それが何なのかをはじめて認識できる、そんな対象なのです。文学部で学ぶことは、まさにそうした視野に立つことであり、根源にさかのぼって自分で考え生きる力を身につけ、実践していくことなのです。

一つ一つの専門分野は、広大な範囲と長い研究の歴史をもっています。人類が何千年も培ってきた叡智の集積だからです。その中から自分にもっとも合った問いとテーマを見つけて、とことん研究してみることが大切です。そのとき、異なる領域や関心で論じられていることの内容や意義に気づき、驚くこともあるはずです。

文学部は一人一人を尊重し、教員も学生も社会の人たちも一緒になって、互いに批判し啓発しあいながらあれこれ考える場です。この場に参加して、一緒に対話していく皆さんをお待ちしています。



https://www.l.u-tokyo.ac.jp/

学びの特長

心の財産

研究室という学問のコミュニティ

文学部生は必ずいずれかの専修課程に属します。文学部は大学院人文社会系研究科に接続していますから、一つの専修課程には学部3年から博士課程までの年齢層の異なる学生が教員や助教とともに同居することになります。大学院の学生の中には留学生も少なくありません。この空間を研究室とよびます。規模の大小はあるものの、研究室は日常的に学生と接する助教をリーダーとするコミュニティの観を呈します。どの研究室にも共同の辞書室あるいは学生談話室のような場所があり、そこでの予習や談論、自主的な勉強会を通して、進学当初は緊張し気後れしていた3年生もしだいに溶け込み、4年生になるころには知的にも人間的にも、しばしばたくましい成長ぶりを見せてくれます。同じ分野を専攻する先輩や同輩との語らいや友人関係は、卒業した後も貴重な財産となることでしょう。

研究室の様子

書を捨てないで外に出よう

実地に学ぶ

文学部というと、ひたすら本を読んでいるところと思われるかもしれません。しかし、それは違います。心理学ではさまざまな測定装置を使う実験が数多く行われていますし、社会学ではフィールドワークを含む社会調査が不可欠です。考古学の発掘はもとより、歴史学の文書研究でも、美術史の研究でも、じつにさまざまな場所に出かけていっての実習が行われています。また、文学部と地方自治体との地域連携協定や、海外大学との部局間交流協定などに基づく、体験活動や留学のプログラムも用意されています。文学部の学生は、研究室や図書館の外にも出ているのです。書を捨ててではなく、書を携えて。

常呂実習施設での発掘風景

知性と感性

古典を読んで新しい世界を開く

大学では英語以外にもさまざまな外国語が教えられています。とりわけ文学部では3・4年生を対象とする外国語教育に重点が置かれています。英独仏露の他、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ヒンディー語、中国語、韓国朝鮮語、アラビア語、ペルシア語、ラテン語、ギリシャ語、チベット語等があります。せっかく学んだ外国語、それを活用しない手はありません。文学部では、オリジナルの言語で書かれたテキストをきちんと読む力を養うために「原典」を読む授業や、「古典」を読む授業も多く開講しています。プラトン、スピノザ、ウィトゲンシュタイン、紫式部、朱熹、アリストファネス、シェイクスピア、ディドロ、チョムスキー等の作品や、『万葉集』『タルムード』『ニーベルンゲンの歌』等を読む演習もあります。古典をじっくりと読む経験から、必ずや新しい世界が開かれていくことでしょう。ここで培われた読む力は、大学を卒業した後も、一生を通して皆さんの知性と感性を高めてくれるに違いありません。

中村正直による1870年度版
J.S.Mill,On Libertyの翻訳（1871）

気後れなんて

演習で自分を鍛える

文学部の授業でとても重要なのが、各専修課程に必ず設けられている演習（ゼミ）と呼ばれる授業です。専修課程によってその内容は違っていますが、もっぱら教員が講義を行う授業とは異なり、テキストの輪読や調査の報告など、学生が主体的に参加するところに特徴があります。ふつう演習は、参加者全員の顔がわかるくらいの少人数で行われ、学生は自分で勉強してきたことを教員や仲間の前で発表し、教員を交えて質疑応答や議論を行うことになります。

はじめは気後れしたり、自分の間違いを指摘されることを嫌がったりすることもありますが、演習での「失敗」は必ず力になるものです。

2年間を通していずれかの演習に参加することにより、文学部の学生は卒業論文を書く力を身につけていきます。ときにはティーチング・アシスタントを務める先輩の大学院の学生が助けてくれるかもしれません。ゼミの仲間は、貴重な友人となるでしょう。

「演習」の授業風景

海の中へ

卒業論文という試練

文学部の学生にとっての最大の試練は、おそらくこの卒業論文の作成でしょう。その形式や内容は専修課程によって違いがありますが、学生生活の総決算にあたるもので、これがきちんと書けないと卒業することはできません。自分の考えていることを、その妥当性を吟味しつつ、説得力のあることばで過不足なく表現すること――それはとても難しく、苦しい営み。だからこそ心弾む作業なのです。

また、大学院に進学しようという学生は、卒業論文で自分の力をアピールしなければなりません。自分でテーマを設定し、問いをたて、先人たちの研究とは異なった新しさを打ち出しながら、学術論文の形式に従って、論文を書くというのは、決してなまやさしいことではありません。提出期限を間近に控えた4年次の1月は、とても正月気分にはなれないでしょう。しかし、テーマは何であれ、卒業論文は著者である学生の情報収集・解析能力、構想力、表現力、忍耐力、そして体力を高める絶好の機会なのです。この試練を乗り越えた学生は、どこに行っても立派な社会人として通用するに違いありません。

是非、文学部でこの試練にチャレンジしてください。質量ともに第一級の文献の海が、皆さんを待っています。

学科・専修課程一覧

人文学科
- 哲学専修課程
- 中国思想文化学専修課程
- インド哲学仏教学専修課程
- 倫理学専修課程
- 宗教学宗教史学専修課程
- 美学芸術学専修課程
- イスラム学専修課程
- 日本史学専修課程
- 東洋史学専修課程
- 西洋史学専修課程
- 考古学専修課程
- 美術史学専修課程
- 言語学専修課程
- 日本語日本文学（国語学）専修課程
- 日本語日本文学（国文学）専修課程
- 中国語中国文学専修課程
- インド語インド文学専修課程
- 英語英米文学専修課程
- ドイツ語ドイツ文学専修課程
- フランス語フランス文学専修課程
- スラヴ語スラヴ文学専修課程
- 南欧語南欧文学専修課程(※)
- 現代文芸論専修課程
- 西洋古典学専修課程
- 心理学専修課程
- 社会心理学専修課程
- 社会学専修課程

※2027年度よりイタリア語イタリア文学専修課程に改称予定

以下の専修課程開講科目以外に、全ての専修課程で特殊講義・演習が開講されています。

専修課程開講科目
- 哲学概論
- 西洋哲学史概説
- 中国思想文化学概論
- 中国思想文化史概説
- インド哲学概論
- インド哲学史概説
- 仏教概論
- 比較仏教論
- 倫理学概論
- 西洋倫理思想史概説
- 東洋倫理思想史概説
- 宗教学概論
- 宗教史概説
- 美学概論
- 芸術学概論
- 美学史講義
- 原典講読
- イスラム学概論
- イスラム史概説
- 史学概論
- 東洋史学研究入門
- 西洋史学研究入門
- 考古学概論
- 野外考古学
- 美術史調査方法論
- 言語学概論
- 音声学
- 比較言語学
- 国語学概論
- 国文学概論
- 日本書誌学概論
- 日本文学史
- 中国語学概論
- 中国言語文化論
- 印度語学概論
- 印度文学史概説
- 英語学概論
- 英文学史概説
- 米文学史概説
- ドイツ語学概論
- ドイツ文学史概説
- ドイツ語圏言語文化
- フランス語学概論
- フランス文学史概説
- フランス語圏言語文化
- スラヴ語学概論
- スラヴ文学史概説
- イタリア文学史概説
- 比較文学概論
- 現代文芸論概説
- 心理学概論
- 心理学実験演習
- 心理学統計
- 心理学研究法
- 社会心理学概論
- 社会心理学実験実習
- 社会心理学調査実習
- 社会心理学統計
- 社会学概論
- 社会学史概説
- 社会調査

後期課程

教育学部

Faculty of Education

前期課程の科類との基本的対応関係　文科三類

●総合教育科学科

教育学専修
教育学コース

教育社会科学専修
比較教育社会学コース
教育実践・政策学コース

心身発達科学専修
教育心理学コース
身体教育学コース

https://www.p.u-tokyo.ac.jp/

ようこそ、教育学部へ
教育を通して人々の幸福と
よりよい社会の実現をめざします

教育学部は、人が学び成長し発達する活動を促進する営みについて研究し、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学、社会教育機関等が社会や文化の発展に果たす役割や、人々の幸福とよりよい社会を実現する教育のあり方を様々な角度から探究しています。

教育科学は多様な学問を総合した科学です。教育の成り立ちを理解するためには哲学、倫理学、歴史学、人類学などの知識が必要ですし、教育の機能を認識するためには社会学、経済学などの知識が必要です。学びと発達の過程を知るためには心理学、生理学、脳科学の研究が基礎となりますし、授業や学びのコミュニケーションを理解するためには言語学、社会心理学、情報科学の研究が求められます。また、教育の制度や政策を検討するためには政治学、行政学、法学の知識を活用することになります。教育において派生する病理現象を認識するためには臨床心理学や精神病理学も必要となります。世界の教育の改革動向を探り国際貢献を求めるとすれば、比較教育学や開発教育学の研究が必要です。国語教育、外国語教育、数学教育、科学教育、人文社会教育、身体教育、芸術教育等を研究しようとすると各教科領域の内容について研究する必要があります。

このように教育科学は、人が学び発達する営みを実践的、制度的、政策的に分析する総合的な研究によって構成されており、どの分野の教育でも、教育を通して人々の幸福とよりよい社会の実現を求めている点では共通しています。教育学部では、教育学、比較教育社会学、教育実践・政策学、教育心理学、身体教育学という5つのコースを設け、各分野の最先端の研究に根ざした、総合的な教育科学の教育をめざしています。生きた人間を対象とする教育科学は、いつも社会と文化の現実を批判的に問い直し、私たち自身の考え方や生き方を吟味しながら学ぶところに最大の魅力があると言ってよいでしょう。

現代は、これまでのどの時代よりも教育の果たす役割が大きい時代だと考えられます。さらにコロナ禍において、教育の様々な面が改めて問い直されることとなりました。教育のあり方が子どもたちの将来と日本社会の未来を決定づけるものとなります。私たちは最先端の研究と最高の教育によってこの重大な使命を担い、教育の希望を育んでいます。

教育学部の卒業生たちは、大学院に進学し研究者になる者、学校の教育現場で教師になる者、新聞社やテレビ局や出版社に就職して教育に関するジャーナリストや編集者になる者、一般企業に就職して社内教育や人事を担う者、教育行政において教育政策の立案に携わる者など、多様な進路を歩んでいます。あなたも教育学部で、子どもたちと日本社会の未来を拓く教育科学を学んでみませんか。私たちは皆さんの入学を心から歓迎します。

開講科目一覧（抜粋）

教育学コース
- 教育学概論
- 教育哲学概説（教育思想論）
- 日本教育史概説
- 西洋教育史概説
- 教育人間学概説
- 教育臨床学概説
- 道徳と教育
- ダイバーシティ・インクルージョン概論
- Philosophical Issues in Education
- 教育学研究指導

比較教育社会学コース
- 教育社会学概論
- 高等教育概論
- 比較教育学概論
- 教育社会学理論演習
- 教育社会学調査実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- フィールドワークの理論と実践
- 日本社会の変容と課題
- 比較社会学の方法
- 学校はデータでどう描けるか
- 国際教育開発論

教育実践・政策学コース
- 教育研究調査法演習
- 社会教育論Ⅰ・Ⅱ
- 社会教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 情報資料論
- 学校教育学概論
- 教職論
- 教育方法学演習Ⅰ・Ⅱ
- 教育行財政学
- 教育行政・学校経営演習Ⅰ・Ⅱ
- 教育行政調査演習Ⅰ・Ⅱ

教育心理学コース
- 心理学統計法Ⅰ
- 公認心理師の職責
- 教育心理学実験演習Ⅰ
- 教育心理学実験演習Ⅱ（心理学実験）
- 教育心理学実験演習Ⅲ（心理学実験）
- 教授・学習心理学概論（教育・学校心理学）
- 発達心理学
- 教育心理学研究指導
- 質的心理学研究法Ⅰ
- 身体性と創造性

身体教育学コース
- 身体教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 教育の生理学
- 心と脳の発達
- バイオダイナミクス
- 教育の疫学入門
- 安全・安心教育
- 脳科学特論
- 機能解剖学（人体の構造と機能及び疾病）
- 栄養学概論
- 身体教育方法論

教職課程科目
- 教職に関する科目
- 各教科の指導法
- 教職実践演習
- 教育実習
- 学校体験活動

特設科目
- 学校教育高度化特設科目
- バリアフリー教育特設科目
- 発達保育実践政策学特設科目
- 芸術創造特設科目

学びの特長

教育学コース
「教育とは何か」を哲学・歴史・人間・臨床の4つの視点から考える

さまざまな教育問題が議論の的になり、教育の改革が叫ばれる現代の日本。しかし、「教育とは何か」という基礎的な問いをおろそかにしては、問題の解決も改革の方策もむなしいものにおわるでしょう。この「教育とは何か」をじっくりと考えるための多様な機会を提供するのが教育学コースです。そのために私たちは（1）哲学的な見方（教育哲学）、（2）歴史的な見方（教育史）、（3）人間学的な見方（教育人間学）、（4）臨床的な見方（教育臨床学）という4つのアプローチを用意しています。授業では、この4つのアプローチを身につけることをめざして、歴史資料や古典的テキストを読み込む、現代の最先端の思想や理論を学ぶ、教育問題を当事者とともに考える、といった活動を行います。私たちがそこで重視するのは徹底した議論、史料・原典の解読、問題を捉える感性の錬磨です。これらを通して教育についてのものの見方・考え方・感じ方を鍛え、広く教育的なコミュニケーションを理解し自らそれに働きかけるための判断力を養うことをめざします。

ゼミ風景

教育実践・政策学コース
学校教育から生涯学習・教育行政等、教育現場そのものへの実践的なアプローチ

このコースは、教育という現象あるいは作用を徹底的に「現場」から捉えたいあなたのためにあります。他のコースが特定の学問的方法を重視しているのに対して、このコースは小・中・高の学校、公民館・図書館・博物館等の社会教育施設、これらに行財政的に関わる教育委員会や文部科学省、そして地域における市民の自主的、相互的な学びの場、塾や専門学校等、さらには途上国の教育機関や団体等を直接対象にしています。

コースには、実際に国内外の教育機関における実践の参与観察を行い教育改善の方法を探っている教員、教育実践や教育政策に関する歴史資料の検証を通して教育の本質をとらえようとしている教員、教育委員会や学校の管理職を対象に聞き取り調査を行っている教員、生涯学習の現場で学習者と一緒に行動しながら研究をしている教員、日本中の図書館や博物館を訪問してどのような資料がどのように利用されているのかを研究している教員、「言語」の教育作用がどのように現れているのかをコンピュータを駆使して研究している教員など、多様な教員がいます。実践的な教育現場研究に参加しませんか。

フィールドワーク風景

比較教育社会学コース
「社会現象、文化現象」としての教育を社会科学の手法でとらえる比較教育社会学コース

なぜ教育格差が生じるのか、なぜ社会によって違う教育制度があるのか、そもそもなぜ教育は社会問題になるのか、皆さんはそんな疑問を抱いたことはありませんか。比較教育社会学コースでは、教育を、現代社会に深く複雑に組み込まれた「社会現象、文化現象」ととらえ、社会学を中心とした社会科学的アプローチにより、学際的に、しかも国際比較や異文化理解を含めた様々な視点から考察できる学生を育てていきます。そのために、調査テーマの設定からアンケート調査の実施、フィールドワーク、コンピュータによるデータ分析、報告書の作成等、社会調査の全過程を実際に体験し、量的および質的な社会科学的実証の方法を学びます。

このような考え方と方法を身につけることで、大学院で研究を続けることはもちろん公務員や教職、シンクタンクなどでの調査研究や発展途上国の開発に携わる仕事を選ぶ卒業生も少なくありません。

過去の調査実習のアンケート用紙と報告書

教育心理学コース
人間の学習行動や認知・情報活動とその発達、心理支援、心理検査まで幅広く学べる

教育心理学コースには、大きく分けて「教育心理学」と「臨床心理学」の2領域が含まれます。「教育心理学」では、人間の学習行動や認知・情報活動、子どもの発達、テストによる評価・測定をテーマとし、「臨床心理学」では、心理支援や心理検査をテーマとしています。大学院ではこの2つがそれぞれ独立のコースを構成していますが、学部段階ではこれら2つの領域の教員が協力して指導を行っています。そのため、所属学生は自分自身の興味・関心に応じて、広い範囲の講義ならびに研究テーマを選択することができます。

心理学は一般に、データに基づいて研究が進められる実証的な学問です。本コースでも、そうした実証的な態度やスキルが習得できるように、教育心理学の内容面だけでなく、実験やデータ分析の方法に関する授業にも力点が置かれています。演習やコース行事等では、教員や大学院生と交わる機会も多く、アットホームな雰囲気の中で積極的に学びたいという学生に適したコースです。

「教育心理学実験」の実習風景

身体教育学コース
「身体」を切り口に脳や心の問題まで含む多様なテーマを学びます

身体を理解する ── 身体の構造と機能を理解し、生活の中の身体の営みから、身体と心の理（ことわり）、両者の結びつきを考えます。個人の遺伝的要因、年代や性による特性、生活習慣や障がいとの関わり等、幅広い主題を身体の営みとの関連で考察します。

脳から身体を考える ── 運動、知覚、認知等脳の働きは身体の営みと不可分の関係にあります。さまざまな環境条件の中で、人間が発達し、学習すること、新たなものを創造すること、個性が作られていくことやそのメカニズム等を観察や実験を通して解明します。

身体を使う、整える ── 身体が目的を持った動作をする時に、神経、筋肉、骨格がどのようなメカニズムで働くのかを理解し、身体の使い方や整え方、トレーニング方法等を考えます。

身体を支える健康と安全 ── 現代の社会において、病気を予防し健康な毎日を送るための基盤は何か、それをどのように探求すれば良いかを考えます。さらにその成果を社会に還元する上で教育システムやカリキュラムとして何が必要かを考察します。最先端の研究施設や附属中等教育学校他で、多様な研究が行われています。

プロジェクト研究発表会（身体教育学演習Ⅲ）

後期課程

教養学部

Faculty of Arts and Sciences

前期課程の科類との基本的対応関係　文科一類・文科二類・文科三類・理科一類・理科二類

●教養学科

超域文化科学分科
文化人類学
表象文化論
比較文学比較芸術
現代思想
学際日本文化論
学際言語科学
言語態・テクスト文化論

地域文化研究分科
イギリス研究
フランス研究
ドイツ研究
ロシア東欧研究
イタリア地中海研究
北アメリカ研究
ラテンアメリカ研究
アジア・日本研究
韓国朝鮮研究

総合社会科学分科
相関社会科学
国際関係論

●学際科学科
科学技術論コース
地理・空間コース
総合情報学コース
広域システムコース

●統合自然科学科
数理自然科学コース
物質基礎科学コース
統合生命科学コース
認知行動科学コース
スポーツ科学コース

PEAK
(Programs in English at Komaba)
国際日本研究コース
(International Program on Japan in East Asia)
国際環境学コース
(International Program on Environmental Sciences)

https://www.c.u-tokyo.ac.jp/

教養学部の後期課程では、「越境する知性」の育成をめざして文系、理系、あるいは文理を超えた領域横断型の教育を行っています

教養学部は、東京大学の全学部に進学する学生の前期課程教育を担当する責任部局であると同時に、独自に専門教育を行う後期課程を擁しています。文系と理系を含むこの教養学部の後期課程では、東京大学の前期課程の精神をさらに発展させ、「学際性」・「国際性」・「先進性」をキーワードとして、複数の領域をまたいだ関心を持ち、異言語・異文化の環境に積極的に関与しつつ、新しい分野を開拓しようとする気概を持つ、「越境する知性」の育成をめざしてきました。1951年の教養学科の創設以来、伝統的な学問分野を超えた「国際関係論」等の分野をいち早く取り入れてきた駒場の後期課程ですが、さらに現代社会の要請や、時代の変化に対応するため、2011年に新たな改組を行い、既成の学科の大胆な組み替えを行いました。新たな教養学部後期課程は、「超域文化科学分科」、「地域文化研究分科」、「総合社会科学分科」の3分科からなる文系の教養学科、「科学技術論」、「地理・空間」、「総合情報学」、「広域システム」などのコースからなり文理融合分野をカバーする学際科学科、および「数理自然科学」、「物質基礎科学」、「統合生命科学」、「認知行動科学」、「スポーツ科学」の5コースからなる理系の学科である統合自然科学科の3つの学科から構成されており、それぞれ特色ある教育を行っています。

また、2012年10月から、教養学部では、英語での履修を基本とするPEAK(Programs in English at Komaba)というプログラムを運営しています。アドミッション・オフィス(AO)形式で入学した世界中の学生が、前期課程では「国際教養コース」(International General Education Program)で学び、後期課程では「国際日本研究コース」(International Program on Japan in East Asia)、「国際環境学コース」(International Program on Environmental Sciences)のいずれかに進学します。一般選抜で入学した学生も要件を満たせば後期課程のPEAKプログラムに進学することができます*。

教養学部には数多くの教員が所属し、さまざまな分野で研究を展開していることから、授業の多くは理想的な少人数の環境で行われています。文系では、多様な外国語教育が展開されており、特定の地域に偏らない国際的な視野を得ることが可能になっています。特に主要な言語については、高度な運用能力を身につけるプログラムが用意されています。国際的な発信力をもち、学問領域を横断する柔軟な発想力のある人材の育成を目標としています。また、理系の学科では、既成の学問分野にとらわれない独自の教育プログラムが展開され、複数の分野にまたがる専門的な知識や見識を獲得するだけではなく、それらを基礎に先進的な学問分野への道を進むことができます。さらに、文理融合分野では、文理を問わず柔軟な思考と適切な方法論を用いて、新しい課題に総合的な視点を持って対処できる人材の育成をめざしています。また、上記の学科・分科のカバーする分野に入りきれない領域横断的なカリキュラムとして、グローバル・エシックス、進化認知脳科学、科学技術インタープリター、グローバルスタディーズ、および東アジア教養学の学融合プログラムが用意されています。このように文理を問わず、多様な学問分野の越境を促すさまざまな仕組みが用意されているのが、教養学部後期課程の特徴です。

＊PEAKは2026年度をもって学生募集停止、4月入学生のPEAK後期課程への進学は2028年度進学まで。

学びの特長

教養学科 超域文化科学分科

学問領域や地域的境界、文化ジャンルを超え、文化とことばをダイナミックにとらえる

「文化人類学」、「表象文化論」、「比較文学比較芸術」、「現代思想」、「学際日本文化論」、「学際言語科学」、「言語態・テクスト文化論」の7コースで構成され、学問領域や地域的境界、文化ジャンルを超えたダイナミックで横断的な学際性・総合性がこの分科の特色です。伝統儀礼や民俗芸能から、異文化間の交流、情報化社会における芸術や文化、それらの根底にある言語活動や思想にいたるまで、研究領域は人類の文化の総体が対象になっています。各コースでは、具体的な対象に即した実地の作業が重視され、コース間の連携を図りながら活き活きとした教育研究を実践することを目標としています。

少人数で行われる講義風景

学際科学科

文理を問わずさまざまな方法論を駆使し、総合的に課題を解決できる人材を養成する

学際科学科では、柔軟な思考と適切な方法論を用いて新しい課題に総合的な視点をもって対処できる人材を育成します。そのために、多様な方法論、幅広い対象、それらの基礎となる空間、学問自体を対象とするメタな認識について幅広く、深く学んでいきます。このようなアプローチにはもはや文理の区別など最初から存在していません。専門性を高める分野としては、科学技術論コース、地理・空間コース、総合情報学コース、広域システムコース、国際環境学コースの5つのコースが用意されています。5つのコースに進化学を含めた6つをサブプログラムとして用意し、複数の専門を身につけることもできるようになっています。授業では少人数の演習や実習を多く用意し、人と協調し発信できる人材の養成をめざしています。

(左)文楽の計測実験、(右)屋外実習

教養学科 地域文化研究分科

グローバル化の時代だからこそ、地域から世界を理解する

「イギリス研究」、「フランス研究」、「ドイツ研究」、「ロシア東欧研究」、「イタリア地中海研究」、「北アメリカ研究」、「ラテンアメリカ研究」、「アジア・日本研究」、「韓国朝鮮研究」の9コースから成り立つこの分科では、各地域の特質を歴史学、政治学、経済学、社会学、哲学、文学、言語学などの研究方法を使って多角的に学び、広い視野に立って全体像をとらえる姿勢の育成をめざしています。「地域文化から世界へ」を基本姿勢とする一方で、重層化・複合化が進行する各地域で観察される「世界から地域文化へ」の方向性も重要なテーマです。学生に求められているのは、多様な地域文化を理解するために不可欠な言語の習得、具体的な知見を通した実践知の獲得です。

授業の合間に研究室でひとやすみ

統合自然科学科

自然科学の知を統合して新しい分野を開拓する人材を養成する

統合自然科学科では、従来の自然科学分野の発展を担いつつ、多様な自然科学の知を統合する人材を養成します。そのために数理科学、物質科学、生命科学、認知行動科学、スポーツ科学のそれぞれに重点を置いた「数理自然科学」「物質基礎科学」「統合生命科学」「認知行動科学」「スポーツ科学」の5つのコースを設け、それぞれの専門に立脚しつつも、多様な選択を可能とする教育システムが整備されています。それらによって、専門分野について深く学べるだけでなく、様々な学問領域を自由に越境・横断し、新しい分野を開拓し、幅広く豊かな自然科学的知性を身につけることが可能になります。また、教養学部他学科の講義との強く柔軟な連携により、さらに広い学問分野の知識体系の習得もできます。

実験に取り組む学生たち

教養学科 総合社会科学分科

国境を越え、学問の境界を超える

「相関社会科学」と「国際関係論」の2コースから構成され、社会科学の総合的研究とその現実社会・国際社会への適用をめざしています。両コースのカリキュラムは異なりますが、ともに経済学、法学、政治学、社会学など従来の社会科学の成果を尊重しつつも、その縦割り的な制約を超えて、グローバル化する現代社会の諸問題に対して領域横断的にアプローチしようとする点で共通しています。問題の複合化に創造的に対処しうる人材、さらにはその努力を具体的成果としてまとめあげることができ、国際的、社会的な諸分野で活躍できる人材の養成を目標としています。

後期課程

工学部

Faculty of Engineering

前期課程の科類との基本的対応関係　理科一類・理科二類

- 社会基盤学科
- 建築学科
- 都市工学科
- 機械工学科
- 機械情報工学科
- 航空宇宙工学科
- 精密工学科
- 電子情報工学科
- 電気電子工学科
- 物理工学科
- 計数工学科
- マテリアル工学科
- 応用化学科
- 化学システム工学科
- 化学生命工学科
- システム創成学科

https://www.t.u-tokyo.ac.jp/foe

工学は未来を拓く

東京大学工学部は、現代社会が直面する困難な問題に果敢に挑戦し、未来を切り拓こうとする気概に満ちた皆さんを歓迎します。世界最高水準の教育・研究環境のもとで、皆さんの可能性を大きく開花させていただきたいと思います。

新しい科学技術の創出や夢の実現のためには、既存の知識の習得や原理の理解に加え、「工学」を習得することが不可欠です。工学は、人類の幸福や健康、安心・安全のために新しいモノやコトを創る学問体系です。IoTやAIを駆使したデジタル革命の推進、量子コンピューティングや量子セキュリティ、平和利用の宇宙開発や深海フロンティアの資源開発、自動運転に代表される次世代モビリティ、超高齢化時代のまちづくりやヘルスケア、持続可能社会の実現にむけたクリーンエネルギーや新素材の探索など、いずれも現代の工学が取り組んでいる主要なテーマです。東京大学工学部では世界最先端の研究を行っています。皆さんは、工学部において、社会を根本から変革するダイナミックな「工学」の本質を学ぶことになるでしょう。

「工学」は創造の学問です。「工学」を修めることにより、無から有を創造することが可能となりますが、そのためにはものの本質を見極める力、挑戦するべき課題を見つけ出す力を涵養することが重要です。工学の現場において、答えは一つではありません。取り組む人の考え方やアプローチ、その個性によって異なるいくつもの解が存在します。「工学」は未来を切り拓くイノベーションの源泉となります。皆さんの創造する力を涵養するために、工学の専門性を深化させる講義だけではなく、課題解決型プロジェクト演習や自主的に取り組むことができる演習、インターンシップ、卒業研究などが用意されています。

皆さんは世界を舞台に活躍することが期待されています。工学部や関連する大学院には、留学生や海外からの研究員が多数在籍し、国際的な環境が整っています。国際的に活躍するための講義や演習に加え、数多くの海外派遣・受入プログラムも準備されています。

皆さんには専門力だけではなく、幅広い教養や倫理観を培い、自ら学ぼうとする意志と旺盛な好奇心、目標に向けて取り組み続ける忍耐力、ニーズを鋭く感じ取る知性・感性、課題を発見し解決する力、相互に意志の疎通を図るための高いコミュニケーション能力、他文化を積極的に相互理解しようとする包容力を獲得していってほしいと思います。

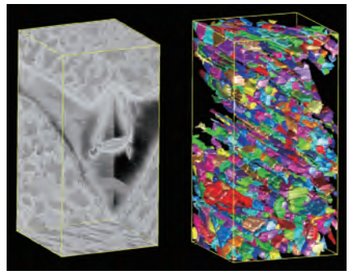
皆さんが「工学」を修め、未来を拓く先頭に立ち、グローバルに活躍されることを大いに期待しています。

学びの特長

カタチと機能の関係を解析する

波田野明日可講師
― 心筋細胞のマルチフィジックスシミュレーション

心臓は全身に血液を送る重要な臓器であり、その機能は約10億の心筋細胞一つ一つが収縮することで成り立っています。長さ約100μm程の心筋細胞を更に拡大してみると、2μmの筋節と呼ばれる収縮ユニットと、エネルギー供給を担うミトコンドリアが規則的に並んでいます。心臓の収縮機能の低下の際には、この規則的な構造が乱れていることが多数報告されていますが、因果関係は分かっていません。当研究室では、心筋細胞内の微細な立体構造を三次元の電子顕微鏡画像から再現し、その構造内で生じるイオンの動き、細胞膜の電気的活動、ミトコンドリアからのエネルギー供給、収縮ユニットで生じる力とそれに伴う変形を、コンピューター上で統合的に解析する研究に取り組んでいます。バイオの技術により1つのタンパク質の異常が心臓の機能をどう変えるか、実験的な解明が進んでいます。シミュレーションを用いて、機能の変化に至るメカニズムを明らかにしていきます。

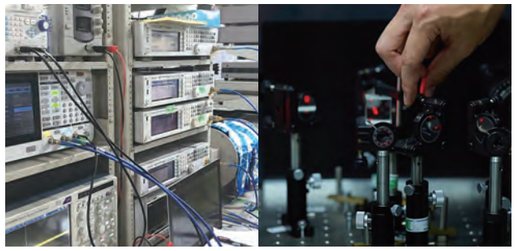


心筋細胞の電子顕微鏡画像と機械学習を用いて再構築されたミトコンドリア。異なる色が個別のミトコンドリアを表している。

量子物性が拓く未来

齊藤英治教授
― テクノロジーを駆使して「物理法則」を創る

従来、科学技術研究の中心は物質の性質を支配する「物理法則」の研究とその応用でした。しかし、今や私たちは、これらの「法則」を自ら創造できる時代に入っています。物質の性質は、その内部で自由に動ける電子のミクロな運動によって定まります。この運動を決定する主要な要素は、原子スケールからマイクロメートルスケールにおける対称性やトポロジーという特性にあります。現代の技術を用いてこれらを意図的に設計することで、様々な物質の性質を支配する基本ルールを創出し、新たな物質系の開発や、さらにはエネルギー変換や量子情報処理技術への応用につなげる研究を進めています。



（左）微細構造を人工的に設計した物質系の電気的・磁気的応答を超高速に測定する。写真は、人工ニューロンの信号を測定している様子。（右）フェムト秒（1000兆分の1秒）の速さで物質中のスピンを読み出す超高速レーザー測定装置の光学系。様々な物質中で電子が示す量子ダイナミクスを直接観測することができる。

留学生との協働による日本人学生の国際化

学生の英語力向上と多文化交流をサポート

工学部・工学系研究科では学生の国際化のための様々な活動を展開しています。アカデミック・ライティング、アカデミック・プレゼンテーションの授業では研究成果を発表するのに必要な英語力を鍛えます。英語論文やキャリアドキュメントへのフィードバックを行うライティングセンター（ERIC）も運営しています。課外授業としては、英語学校の提供する英会話・TOEFLの授業を放課後にキャンパスで受けられるSpecial English Lessonを運営しています。多文化交流のプログラムとして、お弁当を持ってラウンジに行くだけで留学生と交流ができるInternational Loungeを行っています。いずれのプログラムでも留学生がアシスタントとして本領を発揮し、本学学生に多文化を体験させてくれます。

日本人学生と留学生がランチを食べながら交流する様子

教育内容

社会基盤学科
- 国土学
- 交通学
- 景観学
- 水理学
- 自然災害と都市防災
- 開発とインフラ

建築学科
- 建築設計製図
- 建築計画
- 都市建築史
- 環境工学
- 建築構造解析
- 建築材料学

都市工学科
- 国際都市地域計画論
- 都市交通システム計画
- 都市デザイン概論
- 環境反応論
- 水環境学

機械工学科
- 流れ学
- 材料力学
- 熱工学
- 機械力学
- 機械分子工学
- 生体機械工学
- 機械設計
- システム制御
- 生産の技術
- 生産システム
- 設計工学
- 創造設計演習

機械情報工学科
- 機構学
- ソフトウェア
- メカトロニクス
- ロボティクス
- ヒューマン・インタフェース
- 知能機械情報学

航空宇宙工学科
- 空気力学
- 航空機力学
- 航空機構造力学
- 航空宇宙推進学
- 宇宙推進工学
- 航空宇宙システム学計画および製図
- 航空宇宙推進学計画および製図

精密工学科
- 精密計測工学
- ロボット工学
- メカトロニクス
- 生産加工学
- 設計情報システム

電子情報工学科
- コンピュータシステム
- 情報ネットワーク
- 情報セキュリティ
- メディア・コンテンツ
- 人工知能

電気電子工学科
- エネルギー・環境
- 制御・システム
- ナノ物理・光量子
- VLSI・MEMS
- バイオエレクトロニクス

物理工学科
- 量子力学
- 統計力学
- 電磁気学
- 固体物理
- 量子情報

計数工学科
- 数理工学
- 最適化手法
- 回路とシステム
- 認識行動システム
- 生体情報論

マテリアル工学科
- マテリアル熱力学
- マテリアル組織学
- マテリアル工学実験
- マテリアル設計学

応用化学科
- 物理化学
- 無機化学
- 有機化学
- 分析化学
- エネルギー化学

化学システム工学科
- 化学工学
- 反応工学
- 環境システム工学
- 分離工学
- 触媒工学

化学生命工学科
- 有機化学
- 高分子化学
- 生命化学
- 分子生物学
- バイオテクノロジー

システム創成学科
- システム創成学基礎
- 環境リスク論
- 災害シミュレーション工学
- 社会システム工学基礎

後期課程

理学部

Faculty of Science

前期課程の科類との基本的対応関係　理科一類・理科二類

- 数学科
- 情報科学科
- 物理学科
- 天文学科
- 地球惑星物理学科
- 地球惑星環境学科
- 化学科
- 生物化学科
- 生物学科
- 生物情報科学科

理学とは、森羅万象の理を解き明かす学問です。これまで人類が成し得なかった自然界の謎の解明に挑み、自分なりの答えを出す。それは、チャレンジと喜びが絶え間なく続く壮大な冒険とも言えるでしょう。

理学は「自然との対話」を通じ、自然界の原理や法則を探求する学問です。「なぜ？」「どうして？」という素朴な疑問から自然の神秘に迫ります。自然の理解が直ちに実社会での応用に繋がることもあれば、長い年月をかけて私たちの暮らしに大きな変革をもたらすこともあります。

たとえばミクロな世界を記述する量子力学。元はと言えば、「原子の構造はどうなっているのだろう」「光の本質は何だろう」という純粋な興味を追究することから生まれたものです。それが物質中での電子の振る舞いの理解を通して半導体技術を生み、コンピュータテクノロジーを生み、現代の情報社会に繋がっています。また、量子力学は化学結合の本質を明らかにし、分子の構造と化学反応の微視的理解を進め、さまざまな機能性物質の開拓を可能にしました。私たちの周りには、このようにして作られたものがあふれています。一方、分子の概念は生物にもおよび、DNAの二重らせん構造の発見を契機としてバイオテクノロジーの爆発的発展が起こりました。もしも理学の研究がなければ、現代社会で私たちが享受している利便性の多くは実現していないことでしょう。

理学の重要性は応用に対する基礎だけにあるのではありません。自然の理解は、私たちの自然観・宇宙観の根本となっているものです。私たちに自然と共存することの大切さを教え、ときにはその猛威に立ち向かう知恵も与えてくれます。理学の発展は、人類の自然観を豊かにし、未来を切り拓く原動力となるのです。

東京大学理学部には、数学、情報科学、物理学、天文学、地球惑星物理学、地球惑星環境学、化学、生物化学、生物学、生物情報科学の10学科があります。これら10学科は、皆さんの知的好奇心と探求心を満たし、それを世に伝えていく場所です。理学を志すなら、「知りたい」という探求心と大きな夢を持ってください。そして、それを解決できるだけの強い力を、先行研究を学ぶ中で身につけてください。そうすればきっと、自然から深い感動を受け取ることができるでしょう。

理学部の卒業生の多くは大学院に進学し、実際の研究を通してより高度な専門的知識を身につけ、大学、官公庁、企業での研究者をはじめ、社会のさまざまな分野での活躍をめざします。理学部で培われた論理的な思考力は、人類社会の抱えているさまざまな問題を解決する力に繋がります。今まさに世界的に深刻な問題である地球温暖化に対しても、理学的なアプローチは有効です。理学部での学びは、人類社会において大きな力となることでしょう。

https://www.s.u-tokyo.ac.jp/

開講科目（代表的なもの）

数学科
- 集合と位相演習
- 代数学Ⅰ－Ⅱ、XA－XH
- 幾何学Ⅰ－Ⅲ、XA－XH
- 解析学Ⅳ－Ⅷ、XA－XH

情報科学科
- ハードウェア構成法
- オペレーティングシステム
- アルゴリズムとデータ構造
- 計算量理論
- 言語処理系論
- 統計的機械学習
- 自然言語処理
- コンピュータグラフィクス論
- 量子計算科学

物理学科
- 量子力学Ⅰ－Ⅲ
- 統計力学Ⅰ－Ⅱ
- 固体物理学Ⅰ－Ⅲ
- 一般相対論
- 宇宙物理学
- 素粒子物理学

天文学科
- 銀河天文学
- 恒星進化論
- 宇宙論
- 系外惑星
- 星間物理学Ⅰ・Ⅱ
- 基礎天文学観測・実験

地球惑星物理学科
- 気象学・海洋物理学
- 地震物理学
- 比較惑星学基礎論
- 地球惑星物理学演習・実験・観測実習

地球惑星環境学科
- 層序地質学
- 自然地理学
- 地球環境学
- 地球惑星環境学野外巡検Ⅰ－Ⅲ
- 地形・地質調査法実習
- 造岩鉱物光学実習

化学科
- 分析化学無機化学実験
- 無機化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 有機化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- 天然物有機化学
- 構造化学
- 物理化学演習
- 基礎化学英語演習Ⅰ・Ⅱ

生物化学科
- 生物化学実験
- 細胞分子生物学
- 生体物質化学
- 分子生命科学
- 生物物理化学
- 分子遺伝学
- 細胞生理化学
- 酵素学
- 細胞情報学
- 生物化学実験法
- 定量生物学

生物学科
- 生物科学共通実習
- 人類生物学実習
- 動物学臨海実習
- 植物科学野外実習
- 生物統計学演習
- 細胞生物学
- ゲノム動態学
- 分子進化学
- 動物生理学
- 植物生理学
- 動物発生学
- 植物発生学
- 人類遺伝学
- 集団生物学
- 生態系機構論

生物情報科学科
- システム生物学
- 生物情報ソフトウェア論Ⅰ・Ⅱ
- 情報基礎実験
- 生命科学基礎実験
- オーミクス論
- ゲノム配列解析論Ⅰ・Ⅱ
- 生命情報表現論

学びの特長

フィールドワーク

現場へ赴きアクティブに学ぶ

理学部では、10ある学科がそれぞれの分野に応じた教育を行っています。

地球惑星環境学科と生物学科は、自然界の現場に身を置きアクティブに学ぶフィールドワークに力を入れています。

地球惑星環境学科は、地球や惑星の「環境」がどのように形成されたかを実証的に明らかにしていきます。地球や惑星の形成史や、それに関与する大気、水、生命などとの相互作用を解明することが大きな目標です。実地での観察を重視するため、1週間程度のフィールドワークを国内はもとより、イタリア、オーストラリアなど海外でも行います。またそこで採取した試料を、さまざまな地球惑星科学的分析や解析によって調べて行きます。

生物学科は、地球に生命が誕生してから40億年の間に進化した多様な生物の、生命活動や進化の法則の理解を目標にしています。植物、動物、人類学の全分野で直接、生物に接する機会を大切にしており、附属植物園や西表島での分類学、附属臨海実験所での海洋生物の実験、北海道での遺跡発掘や長野県での霊長類の行動観察等の野外実習を行っています。

地球惑星環境学科3年次には、国内外でさまざまな野外実習が行われる

演習・観測

自ら考えて解を求める

自ら問題を解く、データをとる演習・観測も理学の基礎的な力を養う重要な学びのスタイルです。特に**数学科**は、演習がカリキュラムの根幹に位置付けられています。紀元前からの長い歴史をもつ数学は、自ら進化すると同時にさまざまな現象を定式化することで幅広い汎用性をもっています。演習では問題を解いて説明・議論を行い、力をつけていきます。**物理学科**は、3年生までに4つの演習を必修にしています。各演習ではさまざまな基本問題を解き、他の学生に説明することで、将来の課題解決に不可欠な物理学の基礎をしっかりと身につけていきます。**天文学科**は、恒星や銀河、そして宇宙の仕組みを追究する学問です。観測実習では望遠鏡を用いて観測データをとり、コンピュータを用いて解析をします。一学年10名程度の少人数ならではのきめ細かい指導がされます。**生物情報科学科**は、実験を行い膨大なデータを扱うので、生物学と情報学の両者をマスターする必要があります。急速に進歩を遂げている分野で、これから学生になる方が分野を確立していく、そうした熱気のある分野です。

天文学では観測からデータ解析までを行う

実験

仮説を検証し論理を組み立てる

理学部の多くの学科が、実験を重視しています。プログラミング言語やアルゴリズム、機械学習などの分野がある**情報科学科**では、演習のほか、独自のハードウェアを設計し、その上でソフトウェアを動かす実験により、コンピュータの動作原理を体験してもらいます。**物理学科**は、素粒子・宇宙・物性物理学など幅広い分野を網羅し、理論から実験まで研究手法もさまざまですが、基礎的な実験はすべての分野で重要です。**天文学科**では、基礎的な光学および電子回路の実験を通して、宇宙から届く電磁波をとらえデータとして記録する仕組みを学びます。**地球惑星物理学科**では、物理学を軸に地球・惑星を対象として、大気海洋・固体地球・惑星宇宙のさまざまな現象を、理論と実験・観測を密接に関連させながら学べます。すべての物質を分子レベルでみる**化学科**は、実験をもっとも重視する学科のひとつです。3年次の午後は、主に実験に取り組みます。**生物化学科**は、生命現象を分子レベルで理解することを目標にし、神経科学、1分子・1細胞計測、非翻訳RNA、構造生物学と創薬など最先端の課題に焦点を当てた研究教育を行なっております。3年次の午前は、分子生物学、生化学、生物物理化学など最先端の生命科学に必要な講義を受講し、午後は基本的にすべて実験となっています。前半は分子生物学、生化学、生物情報解析学の基礎的な実験、後半は研究室ごとの特長を活かした応用的な実験を行ないます。

化学の実験の様子。様々な合成を行う実験ではゴーグルなどをつけ安全に注意している

世界とつながる

研究においても社会に出て活躍するにも、若いうちから海外経験を積むことは非常に重要です。理学部学生国際派遣プログラム（Study and Visit Abroad Program – SVAP）や理学部学生海外研究プログラム（Undergraduate Research Abroad in Science Program - UGRASP）では、選抜された理学部学生が海外へ渡航し、本人の希望する大学や研究機関で研究インターシップやサマースクールに参加することができます。また、これらの他に独自の海外派遣プログラムを用意している学科もあります。

このようにさまざまな海外派遣の機会が用意されているだけでなく、理学部には常日頃から多くの留学生や海外の研究者が滞在していますので、日本にいながらにして国際性が磨かれます。海外大学に所属する学部学生を対象とした6週間のサマーインターンシッププログラム University of Tokyo Research Internship Program（UTRIP）では、世界各国から来日する外国人学生との交流がはかられています。さらに、英語で学位が取得できるGlobal Science Course (GSC) では、海外の大学から編入した学生が内部進学生と肩を並べて勉学に励んでいます。理学部の国際的教育拠点としての役割はますます拡大しています。

サマーインターンシッププログラムUTRIPで来日した学生たちとの交流会

後期課程

農学部

Faculty of Agriculture

前期課程の科類との基本的対応関係　理科二類・理科一類

●応用生命科学課程
- 生命化学・工学専修
- 農業生物学専修
- 森林生物科学専修
- 水圏生物科学専修
- 動物生命システム科学専修
- 生物素材化学専修

●環境資源科学課程
- 緑地環境学専修
- 森林環境資源科学専修
- 木質構造科学専修
- 生物・環境工学専修
- 農業・資源経済学専修
- フィールド科学専修
- 国際開発農学専修

●獣医学課程（3～6年）
- 獣医学専修

https://www.a.u-tokyo.ac.jp/

人の営みを支える食料、資源、環境、生命について学び、未来を考え、生きものの力で社会を変える、それが農学です

農学部では、人類が生きていくために必要な食料、資源、環境、そして、その中での植物、動物、微生物等の生物と人類との関わり合いについて、広く深く学び、地球環境の保全と社会の持続的な発展に貢献できる人材を育成していくことを教育の目標としています。それはSDGs（持続可能な開発目標）の達成を後押しすることにもつながっています。

人が生きていくために最も重要なことは、まず食が足りていることです。最近の人口推計では、世界の人口は、2060年には約100億人を超えていると予想されていますので、今後、食料の安定供給がますます大きな課題になります。農学部では、このような食の課題の解決に向けた研究を推進しています。例えば、植物の生長効率や穀物の収穫量の向上、病害虫や環境変動に強い耐性を持つ作物の開発、家畜の感染症の予防技術開発、水産動物の養殖効率の向上、食料生産や加工への微生物や酵素の利用技術の開発、さらに農業や地域の経済と発展、食の安全と安心、そして食と健康等の観点に基づく研究を行っています。

近年、地球環境の保全が強く求められており、このことは安定した社会の持続的な発展のためにも重要です。20世紀には、石油や石炭等の化石資源を利用することで便利で豊かな社会を築いてきたと誰もが感じていました。しかしながら、今やこの化石資源の利用がもたらした大気中の温暖化ガスの増加に対しては、単に懸念するだけでなく、明確に削減する行動が世界的に求められています。地球環境を壊さず社会を持続的に発展させることのできる新たなプラットホームを構築すべきだと人々は考えています。

現代の農学は生物多様性の保全に配慮をしながら、生態系サービスを最大限利用できる社会の構築を目指しています。例えば、森林が大気中の二酸化炭素吸収源としての機能を発揮するために不可欠な健全な森林の育成と持続的な森林経営に必要な技術とシステムを開発することは農学の重要な課題の一つです。また、生物が生産する有機資源であるバイオマスを利用し、食の安定確保だけではなく、人々の生活に必要なさまざまなマテリアルとエネルギーを得るための新技術を開発し、これを社会普及することも農学の重要な使命です。

農学部は、本郷地区の弥生キャンパスにあります。ここは弥生式土器が発見されたことで知られる有名な弥生の丘です。緑が多く、木立の中に、木造のオーディトリウムやギャラリー等の素敵な建物もあり、四季の移り変わりの美しい、落ち着いたキャンパスです。農学部正門横のギャラリーの前に、ハチ公と、その飼い主で我が国の近代農業の礎を築いた一人である上野英三郎先生の銅像があります。この人と動物の触れ合う姿から、生きものがお互いを支え合う大切さを同時に感じ取る人も少なくないでしょう。このような感性を持って、地球、生命、人の未来を考える農学部は、皆さんを心からお待ちしています。

開講科目一覧

農学総合科目
- 人口と食糧
- 生態系の中の人類
- 土壌圏の科学
- 水の環境科学
- 環境と景観の生物学
- 生物の多様性と進化
- 環境と生物の情報科学
- 化合物の多様性と生理機能Ⅰ、Ⅱ
- バイオマス利用学概論
- 森林資源と木材利用
- 食の安全科学
- 放射線環境学
- 国際協力論

農学基礎科目
- 基礎有機化学
- 基礎分析化学
- 基礎微生物学
- 分子生物学
- 基礎生物化学
- 生物統計学
- 植物生理学
- 細胞生物学
- 遺伝学
- 植物分類・形態学
- 昆虫学
- 動物生態学
- 森林環境科学汎論
- 集団遺伝学
- 動物分類学
- 植物生態学
- 木質構造科学概論
- 流れ学
- 情報工学
- 基礎高分子化学
- 基礎物理化学
- 農業資源経済学汎論
- 農業史概論
- ミクロ経済学
- 動物生理学
- 応用動物科学概論

農学共通科目
- 農学リテラシー
- 環境倫理
- 生命倫理
- 技術倫理

農学展開科目
- バイオマス利用研究特論
- 生物配列解析基礎
- ゲノム情報解析基礎
- バイオスタティスティクス基礎論
- 構造バイオインフォマティクス基礎
- フードクリエーションサイエンス
- フロンティアライフサイエンス
- 生態統計学
- サイエンスコミュニケーション
- サイエンスコミュニケーション演習
- 自然再生事業モニタリング実習
- 農学現象の数理科学的理解
- ワン・アーソロジーⅠ、Ⅱ、Ⅲ
- Basics for Science Communication in English
- 共生型新産業創出コロキウム
- 共生型新産業創出コロキウム・発展編

学びの特長

広く、そして深い学びを実践する独特の教育カリキュラム

農学は、生命科学から生物資源学、環境科学、工学、経済学、社会科学まで、広範な学問分野が有機的に結びついた総合科学と言えます。これらの学問を幅広くかつ効率よく学ぶために、農学部では3つの課程を設けています。そしてその課程の下にある専修において、各専門分野での深い学びを実践するための独特な教育カリキュラムを編成して教育を行っています。

第1の応用生命科学課程には、生命化学・工学専修、農業生物学専修、森林生物科学専修、水圏生物科学専修、動物生命システム科学専修、生物素材化学専修の6つの専修を設けています。また、第2の環境資源科学課程には、緑地環境学専修、森林環境資源科学専修、木質構造科学専修、生物・環境工学専修、農業・資源経済学専修、フィールド科学専修、国際開発農学専修の7つの専修を設けています。さらに、第3の獣医学課程には6年制の獣医学専修があります。　農学部への進学が内定すると、2年生の後半には「農学総合科目」と「農学基礎科目」を通して農学での学びのプラットホームを構築します。続いて、3年生になると「課程専門科目」での講義と「専修専門科目」での実験、実習、演習授業を組み合わせて履修し、各分野で農学の学びを深めます。これらと併行して、「農学共通科目」でのリベラルアーツ教育を通して、農学に携わる人としての素養を高めていきます。さらに、4年生になると農学を担う研究者や社会人へのキャリアパスとして「専修専門科目」での卒業論文や「農学展開科目」等を通して、自ら考えて行動する力を身につけます。

演習林における野外実習

ラボやフィールドをベースに基礎科学と応用科学のバランスのとれた教育研究

農学が目指すところは、人類の幸福と地球上の生物や環境の保全・向上の実現です。その目的を達成するために、最先端の基礎科学を極めつつ、その成果に支えられた応用科学による解決を常に目指しています。例えば、食の安全確保と人間の健康向上、生物多様性の保全循環型バイオマス資源の利活用、東日本大震災からの復興、育種加速や環境変動予測のためのビッグデータ・AI利用と計測技術開発などは農学部の重要な教育研究上のミッションです。

農学部キャンパスで行われているラボ（実験室）とフィールド（試験地・現地）における活動は、教育研究の魅力を高めています。ラボ型研究室では実験動植物や培養された微生物と向き合いながら日夜実験に取り組んで世界の最先端の研究成果を上げています。フィールド型研究室では、東京大学が誇る100年を超える試験地で実験観測を続けたり、地球の奥地に分け入り、大海原を駆け抜けて現地で試料を採集したりするなど、世界の最前線での活動に励んでいます。また、ラボとフィールドが融合した研究室も数多くあります。これらの研究室は互いの特長を補完し合いながら、農学に課せられた課題の解決に向けた取り組みを進めているのです。

ラボとフィールドのインターラクション、そしてフィードバックにこそ、農学ならではの醍醐味が存在しています。農学部での教育研究を通じて、多様な学問、多様な生き様を体感することができます。それは農学部が幅広い数多くの専修や研究室から構成されるからで、人類社会への利活用と共生の観点から生物・生命活動を解明するため、自然科学から社会科学までの学術的基礎がフル装備されているのです。

生命科学の実験実習

農学部が保有する多彩な附属施設でのフィールド体験学習

農学部は東京大学の中で最大の土地保有者であり、多彩な附属施設を全国各地に保有しています。農学部にとって、これらの附属施設は教育や研究のための貴重なフィールドキャンパスなのです。北は北海道の富良野から南は愛知まで、7カ所にある演習林の総面積は、実に東京都23区の半分の面積に相当します。牧場や水産実験所は、それぞれの専門分野で大切な役割を果たしており、また西東京市にある生態調和農学機構では、耕地・緑地・林地におけるフィールド教育研究を行っています。

農学部に進学したすべての学生は、どの専修に所属しても、3年生のフィールド実習にいずれかの附属施設を活用しています。4年生での卒業論文研究に附属施設を利用している学生も少なくありません。また、前期課程の1年生や2年生全体を対象とした教育カリキュラム「全学体験ゼミナール」でも、農学部の附属施設がフィールド体験学習の場を提供しています。

人類の存続は、生態系のもつさまざまな機能によって支えられています。食料の生産だけではなく、気象の安定化、水資源の安定確保、環境保全、生物多様性等の多種多様の生態系の機能に関するフィールド教育研究の拠点として、農学部の附属施設の重要性は時代とともに増しています。

牧場における実習

世界と向き合う農学で未来への第一歩を踏み出す

国連は2015年の「持続可能な開発サミット」において、「持続可能な開発目標（SDGs）」で17の目標を定めました。そこで謳われている持続可能な開発とは、「将来の世代がそのニーズを充足する能力を損なわずに、現世代のニーズを充足する開発」と定義されています。

持続可能性は、まさに農学が追究してきた理念であり、SDGsで掲げられた目標の達成に向けて、多くの分野に農学は直接、間接関わることになります。もしかするとそれは人間中心主義的な理念に感じられることがあるかもしれませんが、しかしそうではありません。農学部での教育研究に触れたならば、生きとし生けるものすべてへの暖かな眼差しに満ちあふれていることに気づくはずです。2023年に生物多様性国家戦略に決定された「ネーチャーポジティブ（自然再興）」も農学が大きく貢献する分野です。

農学部では、学生の皆さんと共に、人類の直面する食料や環境における課題を解決するために世界を視野に入れた教育研究を進めていきます。例えば農業・資源経済学専修では、海外からの客員教員が最先端の海外農業や政策を英語で講義する科目を用意し、また国際開発農学専修では、海外実習や英語表現法等の授業科目を設けて国際教育を実践しています。さらに、獣医学専修においては国際標準を視野に入れた教育カリキュラムを実施するとともに、海外の大学との協定に基づく学生交流も推進しています。

浜名湖における乗船実習

後期課程

薬学部

Faculty of Pharmaceutical Sciences

- 薬科学科
- 薬学科（3～6年）

前期課程の科類との基本的対応関係　理科二類・理科一類

薬を中心に、「物質」、「生命」および「医療」としての側面から、生命科学を対象とした優れた教育・研究を行い、社会に貢献しています

薬を創るためには、生命のしくみを知り、病気になる原因を明らかにしなければなりません。しかし残念ながら、分子レベルから病態まですべての面において我々の知識は不十分であり、解明していかなければならないことが沢山あります。生化学、分子生物学、細胞生物学、生理化学、発生学、遺伝学、免疫学等の観点から生命現象を解明する必要があります。薬を合成するためには合成化学や反応化学が不可欠ですが、薬学部は歴史的に有機化学を中心に発達してきており、優れた業績を残しています。漢方薬を理解し、それを超えるものを創り出すためには天然物化学が必要ですし、薬の性状や生体との相互作用を分子レベルで解明するには分析化学や物理化学が必須です。薬を体の目的部位に到達させるためには、体内動態を解明し、製剤設計が必要になりますし、薬の生体作用を明らかにするために薬理学や毒性学が欠かせません。このように、基礎的な学問から応用的な学問まで、幅広い研究を集約する必要があります。また、従来の学問体系では分類できないような境界領域の研究も増えています。つまり、薬の創製はまさにこれら最先端科学の集大成といえます。

東京大学薬学部は、難易度の高く、かつ高い完成度の要求される「医薬品（薬）」について、「物質」、「生命」そして「医療」としての側面を探求する場としての役割を果たしてきました。つまり、薬が創られるまでの基礎研究に重点を置き、その専門家を養成するための教育に力を入れてきました。薬学部は講義も実習もカリキュラムは盛り沢山ですが、薬の専門家を養成するために必要です。さらには、医薬品に関わる経済問題、薬剤師や国民に対する適切な情報提供、薬学と経営学の視点をもったバイオベンチャーの人材育成にも力を入れています。こうした教育・研究を通じて実力を養った卒業生は、大学や研究所、製薬企業、医療行政などの分野で活躍しています。

2006年度に6年制教育の薬学科が新設されました。病院・薬局での長期実務実習等を通じて、従来以上に問題解決型の薬剤師教育を行います。また、薬科学科では従来にも増して優れた薬の研究者養成に力を入れていきます。しかし、研究者になる場合でも医療に触れる機会を作っていきます。薬学部は人数が少ないため家庭的な雰囲気があり、学生、院生、教員、事務職員が仲間意識を持って、協力し合い、お互い切磋琢磨しています。受験生の期待と夢を裏切らない学部です。

https://www.f.u-tokyo.ac.jp/

学びの特長

「薬科学科」と「薬学科」

薬学は、医薬の創製からその適正使用までを目標とし、生命に関わる物質およびその生体との相互作用を対象とする学問体系であり、有機化学・物理化学・生物化学を機軸に、境界領域を含む広範な研究分野から構成されます。学校教育法・薬剤師法の改正により、2006年4月に東大薬学部は従来の4年制「薬学科」を廃止して、4年制の「薬科学科」（定員72名）と6年制の「薬学科」（定員8名）を併設しましたが、この両学科では、引き続いて薬学がカバーすべき広範な分野についての授業・実習、そして卒業研究が行われます。

薬科学科は、旧課程の薬学科で進めてきた創薬科学・基礎生命科学分野で活躍する人材養成に重点を置く姿勢を引き継いで、高い能力を持った研究者の養成をめざします。薬学科は、さらに病院と薬局での約6ヵ月の実務実習等の授業・実習を通じて、高度で実践的な医療薬学の知識と技能、態度を身につけた、専門性の高い薬剤師資格を有する人材の育成をめざします（なお、薬剤師国家試験の受験資格は、この薬学科卒業者のみに与えられます）。

この2つの学科の選択は、教養学部から薬学部への3年進学時ではなく、3年生の秋から冬にかけて行われます。志望学科届に基づき、成績（教養学部・薬学部）、志望動機、及び面接等によって総合的に決定されます。2学科に分かれての教育課程の開始は、研究室で卒業研究が始まる4年進級時からです。

「卒業実習」に向けて「授業・実習」で広い知識・技術を身に付ける

薬学部への進学が内定する2年生の後半から、本郷キャンパスの薬学部において専門科目の講義が始まります。3年生に進学すると、午前は講義、午後は実習というスケジュールになり、講義は専門性の高いものになります。
教育の中心は、薬学者としての幅広い知識と考え方を身に付けるために、また、薬学の中のどの領域の専門家に将来なってゆくべきかを見極めるための講義と実習です。

特に、薬学実習は、薬学部における研究の多様さを反映して、多岐にわたっています。

有機化学的なディシプリンを学び、物理化学的なアプローチの仕方を身に付け、生物現象を分子レベルで捉え、生体機能を解析する方法を学ぶことができるように、全体が効率的にデザインされています。

4年生になると、各教室のいずれかに希望によって配属となり、研究の第一線に参加する「卒業実習」が始まります。

「卒業実習」は薬学部内の教室だけでなく、医学部附属病院薬剤部などで受けることもできます。研究に参加することを通して、薬学の最先端に触れる機会を得ることになります。

3年生の講義風景

3年生の実習風景

春・秋の陸上・水上運動会などで交流を深める

薬学部は、教職員、大学院生、学部学生が極めて親密で友好的な関係にあります。これは、学部学生を中心とするクラブ活動以外に、春・秋の陸上・水上運動会、薬友会総会、留学生歓迎会等の多くの機会が設けられ、学問以外の場でも人間関係を育んでいることによります。こうした環境は、学問における幅広い見識と研究上に新しい展開をもたらす背景ともなっています。

（左）陸上運動会／春・検見川総合運動場、（右）水上運動会／秋・戸田公園

開講科目一覧

④＝薬科学科必修科目
４＝薬科学科選択科目
⑥＝薬学科必修科目
６＝薬学科選択科目
＊＝指定なし

④⑥ 薬学概論
④⑥ 有機化学Ⅰ
④⑥ 有機化学Ⅱ
④⑥ 有機化学Ⅲ
④⑥ 有機化学Ⅳ
④⑥ 有機化学Ⅴ
④⑥ 有機化学Ⅵ
④⑥ 物理化学Ⅰ
④⑥ 物理化学Ⅱ
④⑥ 物理化学Ⅲ
④⑥ 分析化学Ⅰ
④⑥ 分子生物学
④⑥ 細胞生物学
④⑥ 機能生物学
④⑥ 機能形態学
④⑥ 薬理学Ⅰ
④⑥ 薬理学Ⅱ
＊⑥ 臨床薬理学
４⑥ 医薬品安全性学
④⑥ 薬物動態制御学
４⑥ 製剤設計学
④⑥ 医療薬学
４⑥ 医薬品情報学
④⑥ 放射化学
④⑥ 病理学
４⑥ がん細胞生物学・バイオ医薬品
４⑥ 免疫学
４⑥ 微生物学・化学療法学
④６ 医薬化学Ⅰ
４６ 医薬化学Ⅱ
④＊ 医薬化学Ⅲ
４⑥ 天然物化学
４＊ 構造分子薬学
４⑥ 衛生化学
④⑥ 分析化学Ⅱ
４６ 生物物理学
４６ 分子生理化学
４６ 発生遺伝学
④＊ 創薬科学
４６ 生物統計学
４⑥ 公衆衛生学
４⑥ 医薬品評価科学
４⑥ 薬事法・特許法
４⑥ 疾患代謝学
４⑥ 薬学特別講義
４６ インタラクティブ有機化学
④⑥ 薬学実習Ⅰ
④⑥ 薬学実習Ⅱ
④⑥ 薬学実習Ⅲ
④⑥ 薬学実習Ⅳ
④⑥ 薬学実習Ⅴ
＊⑥ 薬学実習Ⅵ
④⑥ 薬学実務実習Ⅰ
＊⑥ 薬学実務実習Ⅱ
＊⑥ 薬学実務実習Ⅲ
＊⑥ 薬学実務実習Ⅳ
④⑥ 薬学卒業実習

後期課程

医学部

Faculty of Medicine

前期課程の科類との基本的対応関係　理科三類（医学科）・理科二類・理科一類（健康総合科学科）

- 医学科（3～6年）
- 健康総合科学科

患者さんを全人的に治療する医療人を育成し ヒトの生命システムを解明し 新しい医学・医療を開拓する それが医学部

医学部というと皆さんはどのようなイメージを思い浮かべますか。白衣を着て聴診器を持ったお医者さんの姿でしょうか。それとも、実験室で試験管をふっている研究者でしょうか。医学というものは皆さんの予想を越えて、非常に幅の広いものです。医学は科学的な研究方法によって、ヒトの病気の治療と健康の増進に寄与することを最終目的とする学問分野です。そのためには対象とする分野は分子や細胞のレベルから臓器・個人のレベルを越えて、社会あるいは全世界を相手にするところにまで拡大しています。

医学部の大きな部分を占めるのは臨床医学です。医学生の多くは臨床医をめざして勉強をしています。臨床医学においては、究極の対象は患者さんという一人の人間です。もちろん分子レベルの知識や臓器についての深い理解は必要ですが、対象は自分と同じように人格を持った存在であることを片時も忘れてはなりません。自分自身と同じ人格を持った患者さんに、病気からの快復の手助けをするのが臨床医の役目です。医学は着実に進歩していますから、高度の知識や技術で患者さんが病気から快復するのに大きな力となることができます。それが臨床医として最も喜びとする所です。しかし、後で述べるように病気というのは、ときに強大な力となって私たちの運命を左右し、医学はそれに対して無力である場合もあります。そのような場合には、病気のメカニズムを解明し新しい治療法を開発することにより、将来の患者さんの病気に立ち向かう準備をすることができます。ただし、それも常に成功するとは限りません。ついには死にいく存在であるわれわれの仲間として、患者さんの誇りをまもっていくのも臨床医の務めといわなければならないでしょう。

医学の目標の達成のためには、分子や細胞のレベルでの研究は必須です。かつて細菌の研究が医学の最先端を走っていた時代には、病原菌のサイエンスは飛躍的に進みましたが、フレミングによるペニシリンの発見により感染症が原理的には克服可能なものであることが示されたのは、それから50年も後のことでした。現在は分子生物学が医学研究の中核となっています。その成果が実際の臨床医学に威力を発揮するまでには、まだかなりの時間を必要とすると予想されています。

このように医学に大きく寄与するためには、遠回りのようにみえても基礎的な研究は必須であり、また重要です。基礎研究においては生物現象を分子のレベル、細胞のレベルでとらえることが必要であり、また最近では遺伝子に操作を加えて、分子レベルの変化が個体の形の形成や行動にどう影響するかという、分子から個体レベルに至る研究が盛んになってきています。

一方、医学の領域には社会、ひいては世界を相手にしなければならない広い領域もあります。このような分野は社会医学と呼ばれています。今後、疾病構造の変化、人口の超高齢化の問題、産業廃棄物と健康障害の問題、先進国と発展途上国との健康格差の問題等、社会医学の研究の必要性はますます増大していくと考えられます。また、社会の変化とともに看護教育の改革が進行しており、医学部においても高度の看護教育を担える人材の育成に力を入れています。

以上のように、医学部の扱う対象は分子から世界に及ぶことがおわかりいただけたと思います。

もう一つ、医学の特徴をお話しします。それは医学には終わりがないということです。戦前には感染症による死亡が多く、平均寿命は50歳にも満たない状態でした。抗生物質の発見により感染症の大部分が解決されると、高血圧性脳内出血を中心とする脳卒中による死亡が第1位になりました。高血圧の治療や脳卒中の治療の進歩により、脳卒中による死亡が減少するとともに、今度はがんによる死亡が第1位になってきました。この傾向は現在でもつづいています。もしがんによる死亡を減少させる画期的な治療法が開発されますと、現在死因の第2、3位を占める動脈硬化性の脳梗塞や心筋梗塞が大問題となるでしょう。それも克服されたとしますと、アルツハイマー病を中心とする老化の問題が立ちはだかってくるでしょう。すなわち、一つの問題の解決が、つぎの難問の登場をうながすのが医学の大きな特徴なのです。

皆さんの中から、医学に興味を持って病気との闘いに参加される方がおおぜい生まれることを希望いたします。

2号館エントランス

学びの特長

先端医療をリードする附属病院が提供する優れた臨床教育の場

附属病院では、39の診療科と、診療や臨床研究を支える部門があり、1日平均して約900人の入院患者さん、約2,600人の外来患者さんの診療と、新しい治療法や診断法の開発が行われています。医学科の5年生、6年生になるとほとんどの実習は附属病院で行われます。また他学部と同じ本郷キャンパスにある地の利を活かして、他学部などと共同で新しい医療を開発する研究が日夜行われています。

医学部附属病院外観

医学教育と研究を支える多様な附属施設

医学教育国際研究センターでは医学教育の方法の開発や普及、発展途上国への医学教育支援を行い、疾患生命工学センターは工学と臨床医学や基礎医学との融合領域を研究し、国際交流室と医学図書館は留学生を含め学生の日常生活と学習環境をバックアップする、グローバルナーシングリサーチセンターは文理融合型の最先端の看護学研究に、理工学・人文社会科学領域の研究者と共にとりくむ等、多彩な学部附属施設が充実した医学教育と研究を支えています。

MD研究者育成プログラム、Ph.D.-M.D.コース、臨床研究者育成プログラム―明日の医学研究者を目指して―

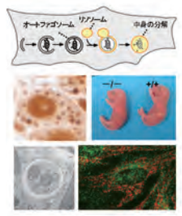
医学部では次世代の基礎医学・臨床医学研究者を育成する試みが活発に行われています。MD研究者育成プログラムは1学年およそ20～40名の学生が参加してゼミ形式の少人数育成を受け、基礎研究室での研究活動や学会発表・海外短期留学等を行います。学部での研究成果は修了論文とし、卒業後または医師臨床研修の後に博士課程大学院へと進学します。

より早期に研究者への道を進みたい学生のためにはPh.D.-M.D.コースがあります。ここでは医学部の2年または3年の医学教育を終えた後、直接博士課程の大学院に進学します。

臨床研究者育成プログラムは、大人数を対象とした講義形式のレクチャーコース、少人数での抄読会、学会への参加などを通して医学における臨床研究の重要性を学び、臨床研究者としての考え方の基礎を身につけることを主眼としたプログラムです。

世界をリードする基礎医学研究

医学部での基礎医学研究は、神経科学、免疫学、がん、細胞生物学などの研究が盛んであり、また、病気の発症のメカニズムや新しい治療法の確立へと応用可能な基礎研究が精力的に進められています。これらの分野はいずれも国際的に競争の激しい分野ですが、東大医学部の基礎医学は世界のトップレベルにあると言われています。実際、毎年多くの論文がネイチャー、セル、サイエンスを初めとする雑誌に掲載され、また、本学の教員の中にはこうした雑誌の編集者になっている人もいます。



基礎医学研究の例。細胞内の一部を分解するオートファジーの機能の多彩な生理的役割（代謝、発生、細胞内品質管理など）、ヒト疾患との関わり（神経変性疾患、がんなど）、その制御や膜動態の分子メカニズムなどが分野横断的に研究されている。

健康総合科学科について

医学部には、医学科と共に健康総合科学科があります。健康総合科学科は、多様な学問的アプローチで、高度に複雑化した現代社会の健康問題を解決する専門家・研究者を育成します。健康とは何か、保健医療は何をなすべきか、その最適解に到達すべくイノベーティブにとりくんでいます。生物学的人間（ヒト）と環境との相互作用に着目する環境生命科学、社会を構成する人間（人）全体から捉えてアプローチする公共健康科学、生活している個人や集団（ひと）の健康課題に具体的な支援を提供するための看護科学の3専修があり、交流しつつ学習を進めます。看護科学専修の4年次学生および卒業生は看護師国家試験受験資格の取得が可能です。

開講科目一覧

医学科（必修科目）
- 解剖学
- 生理学
- 生化学・栄養学
- 病理学
- 薬理学
- 衛生学
- 微生物学
- 法医学（医事法制を含む）
- 免疫学
- 公衆衛生学
- 放射線基礎医学
- 寄生虫学
- 人類遺伝学
- 統計学
- 健康管理学
- 消化器内科学
- 循環器内科学
- 呼吸器内科学
- アレルギー・リウマチ内科学
- 神経内科学
- 血液・腫瘍内科学
- 糖尿病・代謝内科学
- 腎臓・内分泌内科学
- 老年病学
- 心療内科学
- 感染症内科学
- 外科学
- 脳神経外科学
- 胸部外科学
- 整形外科学
- 産科学婦人科学
- 小児科学
- 眼科学
- 皮膚科学
- 泌尿器科学
- 精神医学
- 耳鼻咽喉科学
- 放射線医学
- 麻酔科学
- 形成外科学
- 臨床検査医学
- 口腔外科学
- 小児外科学
- 救急・集中治療医学
- 輸血学
- 臨床薬剤学
- リハビリテーション医学
- 総合診療学
- 地域医療学
- 臨床研究総論
- 医療情報学
- 医学序論
- 実験動物資源学
- 医用工学基礎論
- 感染制御学
- 基礎統合講義・基礎臨床社会医学統合講義
- 東洋医学
- 社会医学
- 臨床統合講義
- 臨床導入実習
- 手術部感染対策実習
- フリークオーター
- 医学学修入門
- 医療・医学領域におけるダイバーシティ&インクルージョンとコ・プロダクション
- エレクティブクラークシップ
- 医学英語 I
- 医学英語 II
- 医療倫理学
- 臨床研究
- 医療安全
- 医療機器管理学
- 病態栄養治療学
- 緩和医療学
- 予防医学

健康総合科学科（3専修共通必修科目）
- 健康総合科学概論
- 科学論文・表現技術
- 健康総合科学英語 I
- 解剖学
- 薬理学・毒性学
- 栄養学
- 生理学
- 生命科学・ゲノム学 I
- 人類遺伝学 I
- 生命科学実習 I
- 免疫と生体防御
- 環境と健康
- 疫学
- 生物統計学
- 生物統計学実習
- 国際保健学
- 人類生態学
- 社会と健康
- 生命・医療倫理 I
- 健康心理学
- 健康科学調査実習
- 感染症
- 病態疾患論
- 看護学概論
- 基礎生命科学（文系必修）
- 卒業論文

大学院
Graduate Schools

▲詳細はこちらへ

東京大学は、大学院にも重点がおかれ、
文系、理系、文理融合型と幅広い分野に渡って教育・研究が行われており、
合わせて15の研究科・教育部が設置されています。

法学政治学研究科
https://www.j.u-tokyo.ac.jp/

法学・政治学の高度な学修をめざすための研究科です。研究者などをめざす総合法政専攻、法律実務家をめざす法曹養成専攻があります。

法学政治学系総合教育棟

公共政策学教育部
https://www.pp.u-tokyo.ac.jp/

公共政策学教育部は、法学・政治学・経済学を横断した幅広いカリキュラムを通じて、実務家や政策コンサルタントを輩出しています。ダブル・ディグリーや交換留学ができる多様なプログラムを用意して、国際機関等でも活躍できる人材を育成しています。

学生活動風景

経済学研究科
https://www.e.u-tokyo.ac.jp/

経済学・経営学での多様な分野において、日本最高のスタッフと豊富なカリキュラムで、国際的に活躍する多くの優れた経済学研究者、官民のエコノミスト、ビジネスパーソンを育成、輩出しています。

講義風景

人文社会系研究科
https://www.l.u-tokyo.ac.jp/

人文社会系研究科は、人間と社会を探究してきた学問の伝統を継承、発展させるとともに、新しい学知の構築を目指して高度な教育と研究を行っています。

法文2号館

教育学研究科
https://www.p.u-tokyo.ac.jp/

教育の実践、政策、制度のアクチュアルな問題に学際的にアプローチし、人間と社会と文化のあり方を問い直す総合科学の大学院です。教育の実践やそれを支える基礎的な人間理解、また政策などの問題に、旺盛な知的好奇心と情熱を持って取り組みたい方にぴったりです。

教育学研究棟

総合文化研究科
https://www.c.u-tokyo.ac.jp/

文系・理系を横断・統合し、学際的・国際的な視野から新しい研究課題に取り組む先端的な総合型大学院です。

教養学部15号館

情報学環・学際情報学府
https://www.iii.u-tokyo.ac.jp/

大学院情報学環・学際情報学府は、情報の問題が、地球上の生命や人間、社会の動向を大きく規定する21世紀をむかえて誕生した、文理を越境した情報、メディア、コミュニケーションに関する教育・研究を担う新しいタイプの大学院です。

文理越境型ワークショップを数多く開催

新領域創成科学研究科
https://www.k.u-tokyo.ac.jp/

学融合を目指して1998年に設置された、修士・博士課程のみの大学院研究科です。基盤科学・生命科学・環境学の3つの研究系で構成され、未開拓の領域を研究・教育の対象としています。伝統的な学問体系では扱いきれなくなった領域横断的な重要課題に取り組み、分野の壁を越えて知の最前線を拓いています。

新しい「学び」のための最適環境：柏キャンパス

工学系研究科
https://www.t.u-tokyo.ac.jp/soe/

工学系研究科では、現代の複雑な課題に対処すべく、基礎から応用に至る工学のそれぞれの専門分野の研究を独立して深化させると同時に、相互に強く連携して様々な課題に取り組める体制を取っており、世界を牽引する成果を上げています。

工学部1号館

情報理工学系研究科
https://www.i.u-tokyo.ac.jp/

情報の中核を学問領域とする研究科です。ハードとソフトの先進化、機械学習・AI・自然言語処理など知能の実現、サイバー（バーチャル）とフィジカル（リアル）の融合による新たな可能性の探求、楽しい・便利と安全・安心の両立、新たな価値創造や社会課題解決など、理論から実践まで幅広く研究対象としています。

VR研究の風景

理学系研究科
https://www.s.u-tokyo.ac.jp/

理学系研究科では、理学を探究し、そこから科学技術へ応用できるシーズを得て、人類社会を発展させる知識を学びます。物理学、天文学、地球惑星科学、化学、生物科学の5専攻からなり、14の附属センターや研究施設を有し、世界でもトップクラスの研究と大学院教育が行われています。

安田講堂脇にある理学系研究科の建物

数理科学研究科
https://www.ms.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

最先端の数理科学研究を行う国際拠点。数学は数理的構造に光をあて、その本質を解き明かす学問で、今も絶えず発展を続けています。
未踏の領域に挑戦する次世代の研究者、数理科学を通して社会に貢献する人材を育成します。

数理科学研究科棟

農学生命科学研究科
https://www.a.u-tokyo.ac.jp

自然科学や社会科学にまたがる幅広い専門性を持つ12の専攻から構成されており、人類が抱える食料生産と消費、生物資源の利用や保全、地域や地球レベルの環境問題等、複雑かつ多様な課題に取り組む高い専門性と俯瞰性を持つ人材を育成します。

アグリバイオインフォマティクスの授業風景

薬学系研究科
https://www.f.u-tokyo.ac.jp/

創薬に関連した最高水準の研究・教育を通じて、創薬基礎科学の研究者を育成します。

薬学系総合研究棟

医学系研究科
https://www.m.u-tokyo.ac.jp/

基礎医学、臨床医学、社会医学、健康科学・看護学、国際保健学、公共健康医学を柱とし、医学医療を切り開く研究者を輩出しています。

医学部本館と教育研究棟

附置研究所

詳細はこちらへ▶

東京大学には附置研究所が置かれており、例えば先端医療を開発したり、地震研究で災害の軽減に貢献したり、また文化や社会科学など幅広い研究活動を推進しています。附置研究所は各分野における研究の拠点としての役割を果たし、生み出した成果を社会に広く還元することをめざしています。それと同時に、東京大学大学院の教育機関として、優れた人材の養成にも取り組んでいます。また全学センターは、各専門分野における研究の活性化や、産学連携の促進等、多岐にわたる目的で設置されています。

医科学研究所

https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/index.html

研究所附属病院と生命科学スパコンを擁し、基礎臨床循環型の先端医科学研究を推進する

■ **研究部門**：感染・免疫部門／癌・細胞増殖部門／基礎医科学部門
■ **研究所附属研究施設**：ヒトゲノム解析センター／システム疾患モデル研究センター／先端医療研究センター／幹細胞治療研究センター／感染症国際研究センター／国際ワクチンデザインセンター／遺伝子・細胞治療センター／実験動物研究施設／奄美医科学研究施設／疾患プロテオミクスラボラトリー／アジア感染症研究拠点／遺伝子解析施設／附属病院

緑豊かな白金台キャンパス（医科学研究所1号館と研究所附属病院）

地震研究所

https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/

地球との対話を通じて地震・火山災害の軽減につなげる

■ **研究部門**：数理系研究部門／地球計測系研究部門／物質科学系研究部門／災害科学系研究部門
■ **研究所附属研究施設**：地震発生予測研究センター／火山噴火予知研究センター／海半球観測研究センター／高エネルギー素粒子地球物理学研究センター／計算地球科学研究センター／地震火山研究連携センター／観測開発研究センター／日本列島モニタリング研究センター

地震研究所全景

東洋文化研究所

https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/

世界最先端のアジア研究拠点

■ **研究部門**：汎アジア部門／東アジア部門／南アジア部門／西アジア部門／新世代アジア部門
■ **研究所附属研究施設**：東洋学研究情報センター

18世紀イスタンブルの世界地図
（キャーティブ・チェレビ『ジハンニューマ』より）

社会科学研究所

https://jww.iss.u-tokyo.ac.jp/

法学・政治学・経済学・社会学を横断する「社会科学の総合知」の創出

■ **研究部門**：比較現代法部門／比較現代政治部門／比較現代経済部門／比較現代社会部門／国際日本社会部門／地域力創発デザイン（第2期）社会連携研究部門※2025年度～2027年度
■ **研究所附属研究施設**：社会調査・データアーカイブ研究センター

社会科学研究所 本館

生産技術研究所

https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/

新技術を創出し、社会・人類が持続的に発展する道を提起し続ける「もしかする未来の研究所」

■ **研究部門**：基礎系部門／機械・生体系部門／情報・エレクトロニクス系部門／物質・環境系部門／人間・社会系部門／高次協調モデリング客員部門／非鉄金属資源循環工学寄付研究部門／ニコン 光・精密フロンティア寄付研究部門／エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門／都市街路スマート・モビリティ学社会連携研究部門
■ **研究所附属研究施設**：大規模実験高度解析推進基盤／価値創造デザイン推進基盤／持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター／革新的シミュレーション研究センター／グローバル水文予測センター／マイクロナノ学際研究センター／海中観測実装工学研究センター／オープンエンジニアリングセンター／災害対策トレーニングセンター／インタースペース研究センター／複雑社会システム研究センター／ディベンダブル社会情報プラットフォーム研究センター／工学とバイオ研究センター／食料生産技術研究センター／ハーモニック・モビリティ研究センター／LIMMS/CNRS-IIS（IRL 2820）国際連携研究センター

生産技術研究所 研究棟

史料編纂所

https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/

日本史基幹史料の編纂を進める、歴史学研究の拠点

■ **研究部門**：古代史料部門／中世史料部門／近世史料部門／古文書・古記録部門／特殊史料部門
■ **研究所附属研究施設**：画像史料解析センター／前近代日本史情報国際センター／史料学協創センター

明治34年刊行の「大日本史料」（第六編・第十二編）
「大日本古文書」（編年文書）

定量生命科学研究所

https://www.iqb.u-tokyo.ac.jp/

世界と伍する基礎研究で生命科学の新たな地平線を切り開く

■ **研究部門**：先端定量生命科学研究部門／応用定量生命科学研究部門
■ **研究所附属研究施設**：生命動態研究センター／高度細胞多様性研究センター

定量生命科学研究所　本館

宇宙線研究所

https://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/

宇宙線、ガンマ線、ニュートリノ、重力波などを観測し、宇宙と素粒子の謎に挑む

■ **研究部門**：宇宙基礎物理学研究部門／高エネルギー宇宙線研究部門／宇宙ニュートリノ研究部門
■ **研究所附属研究施設**：神岡宇宙素粒子研究施設／重力波観測研究施設／カナリア高エネルギー宇宙物理観測研究施設／宇宙ニュートリノ観測情報融合センター／乗鞍観測所／明野観測所

柏キャンパスの宇宙線研究所

物性研究所

https://www.issp.u-tokyo.ac.jp/

電子・原子・分子レベルから物質の性質の原理を解明し新しい物質を創造する

■ **研究部門**：凝縮系物性研究部門／物性理論研究部門／ナノスケール物性研究部門／機能物性研究グループ／量子物質研究グループ／社会連携研究部門（データ統合型材料物性研究部門）
■ **研究所附属研究施設**：物質設計評価施設／中性子科学研究施設／国際超強磁場科学研究施設／計算物質科学研究センター／極限コヒーレント光科学研究センター

学生にも開かれた、世界トップクラスの豊富な実験・研究環境

大気海洋研究所

https://www.aori.u-tokyo.ac.jp/

海洋・大気・気候・生命圏のしくみや変動の解明から、持続的な地球の未来へ

■ **研究部門**：気候モデリング研究部門／気候変動現象研究部門／海洋物理学部門／海洋化学部門／海洋底科学部門／海洋生態系科学部門／海洋生命科学部門／海洋生物資源部門
■ **研究所附属研究施設**：国際・地域連携研究センター／共同利用・共同研究推進センター／地球表層圏変動研究センター

大気海洋研究棟

先端科学技術研究センター

https://www.rcast.u-tokyo.ac.j p/ja/index. html

社会と異端をつむぎ合わせる実験場として、すべてが尊ばれ調和する未来を拓く

■ **研究部門**：極小デバイス理工学／理論化学／高機能材料／量子物質科学／超精密製造科学／情報生体工学／超域分子機能化学／新エネルギー／宇宙環境・惑星圏科学／気候変動科学／エネルギーシステム／グローバル気候力学／地球環境化学／宇宙惑星物質進化学／水素エネルギー／生物多様性・生態系サービス／減災まちづくり／地域社会システム工学／知能工学／身体情報学／先端データサイエンス／生命情報計測光学／マシンインテリジェンス／先端アートデザイン／光量子イメージング／航空宇宙モビリティ／動物言語学／ニュートリオミクス・腫瘍学／炎症疾患制御／構造生命科学／ゲノムサイエンス＆メディシン／細胞連関医科学／構造生命機能工学／学際バリアフリー研究／当事者研究／インクルーシブデザインラボラトリー／社会包摂システム／包摂社会共創機構／ルール形成戦略／政治行政システム／グローバルセキュリティ・宗教／国際安全保障構想／科学技術論・科学技術政策／グローバル合意形成政策
■ **研究所附属研究施設**：エネルギー国際安全保障機構、附属包摂社会共創機構

先端科学技術研究センター外観

附属図書館

詳細はこちらへ▶

東京大学には、本郷地区キャンパスに総合図書館、駒場地区キャンパスに駒場図書館、そして柏地区キャンパスに柏図書館があります。さらに各学部や研究所等にも27の部局図書館があり、これらを総称して、「東京大学附属図書館」と呼んでいます。附属図書館全体では、2023年度末に国内の大学図書館としては初めて蔵書数が1,000万冊に達しました。年間約14,200種類の雑誌を受け入れるとともに、様々な電子資料（データベース、電子ジャーナル、電子ブック等）も提供しています。

総合図書館（本郷）

https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general

総合図書館は所蔵資料数や建物面積など東京大学の中で最大規模の図書館で、蔵書数は約140万冊です。創建から間もなく100年となる本館は、赤絨毯が敷きつめられた大階段や、レリーフの施された梁や柱など歴史的な意匠を有する建物です。貴重なコレクションから最新資料までを幅広く所蔵し、荘厳な雰囲気の閲覧室のほか、PCルーム、個人用防音ブースなど様々なタイプの学習スペースも備えています。また、図書館前広場の地下に広がる別館には、会話・議論をしながらグループ学習や研究交流が行える学習空間「ライブラリープラザ」と蔵書収容数300万冊規模の自動書庫があります。本館、別館を併せ持つ総合図書館は、大学の教育と研究を支援する知の拠点となっています。

総合図書館 本館

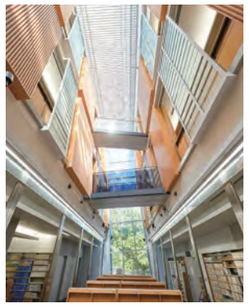
総合図書館 別館

駒場図書館

https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/komaba

駒場図書館は2002年10月に開館しました。自然光を取り入れた光廊下と開放的なラウンジが特徴の館内には、幅広い分野にわたる蔵書約71万冊と約1,100席の閲覧席を用意して皆さんの利用を待っています。前期課程学生が入学後、最初に出会う大学図書館として充実した駒場ライフが送れるようサポートします。

また後期課程学生・院生・教職員の皆さんのために駒場地区キャンパスで展開される多彩な授業や研究・教育をサポートする研究図書館として、様々なサービスを提供しています。


駒場図書館内観

駒場図書館外観

柏図書館

https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/kashiwa

柏図書館は2005年に開館しました。蔵書数約49万冊、自然科学分野の雑誌のバックナンバーを集中的に収納する自動書庫を併設しています。館内にコミュニティサロンやメディアホール等の会議施設を有し、柏地区キャンパスの学生・教職員にゼミや講演会等で活用されています。また、自動書庫に所蔵する雑誌バックナンバーは学内の図書館ネットワークを通した論文提供等で広く利用されています。このほか、柏図書館友の会などを通じて地域社会との連携にも積極的に取り組んでいます。

柏図書館外観

自動書庫の内部

学生支援

詳細はこちらへ▶

東京大学は、学生の皆さん一人ひとりに充実した学びと学生生活、そして理想の卒業後の進路を実現してほしいと考えています。そのために、奨学金や授業料免除等の経済的支援、学生宿舎から体と心のサポートを含めたキャンパスライフ支援、そして、学部等による就職支援やそのセーフティネット機能を果たすキャリアサポート室によるキャリア形成支援など、きめ細やかなバックアップを行っています。

高等教育の修学支援新制度

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/welfare/h05_01.html

2020年4月から、学部学生を対象とした「大学等における修学の支援に関する法律」に基づく新たな修学支援制度が始まりました。

この制度により、住民税非課税世帯又はそれに準ずる世帯の学生は、その世帯の区分に応じて入学料及び授業料の全額又は一部が免除され、給付型の奨学金を受給できる場合があります。2025年度からは、条件を満たした多子世帯の学生も授業料等減免支援の対象となりました。

東京大学も本制度の適用を受ける大学として、文部科学大臣の認定を受けていますので、本制度による支援を希望する場合は、文部科学省及び日本学生支援機構の以下のページから制度の詳細をご確認ください。

募集は高等学校での予約採用のほか、大学入学後の在学採用も実施しています。なお、東京大学では、日本学生支援機構給付奨学生に採用された者は、支援区分によらず授業料は全額免除となります。

【文部科学省　高等教育の修学支援新制度】
https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm

【日本学生支援機構　奨学金WEBサイト】
https://www.jasso.go.jp/index.html

以下のページの「給付奨学金シミュレーション」では、国の新しい給付型奨学金制度の対象になるかを調べることができます。

【日本学生支援機構　進学資金シミュレーター】
https://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/shogakukin-simulator.html

奨学金制度

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/welfare/h02.html

東京大学で取り扱っている奨学金には、以下のように日本学生支援機構の奨学金と地方公共団体及び民間団体の奨学金があります。募集等のお知らせは、掲示及び東京大学WEBサイト中「教育・学生生活」コーナーの「奨学金」ページ等で行います。

日本学生支援機構

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/welfare/h02_01.html

〈貸与〉

無利子の「第一種奨学金」と有利子の「第二種奨学金」（上限年利率3％）があり、どちらも卒業後の返還が義務づけられています。なお、大学院第一種奨学金の採用者は「特に優れた業績による返還免除制度」に申請可能です。

1. 第一種奨学金

区　分		学　年	貸与月額（円）	
大学	2018年度以降入学者	1～6年	自宅通学	**20,000、30,000、45,000**から選択※
			自宅外通学	**20,000、30,000、40,000、51,000**から選択※
	上記以外		自宅通学	**30,000、45,000**から選択
			自宅外通学	**30,000、45,000、51,000**から選択
大学院	修士・専門職学位課程	1・2年	**50,000、88,000**から選択	
	博士課程	1～4年	**80,000、122,000**から選択	
	法科大学院	1～3年	**50,000、88,000**から選択	

※最高月額は、奨学金申込時の家計支持者の収入が一定額以上の場合、利用できません。
※日本学生支援機構給付奨学金を併せて受給する場合、第一種奨学金の貸与を受けられる月額は調整されます。

2. 第二種奨学金

区　分		貸与月額（円）				
大　学		**20,000～120,000のうち 1万円単位**				
大学院	修士・専門職学位・博士課程・法科大学院	**50,000**	**80,000**	**100,000**	**130,000**	**150,000**

※法科大学院で150,000円を選択する場合は、40,000円または70,000円の増額貸与が可能です。

3. 入学時特別増額貸与奨学金

奨学金の貸与を受ける学生に対し、一定条件のもと、希望により審査の上、基本月額に定額を増額して貸与する制度があります。

10万、20万、30万、40万、50万円から希望額を選択することができます。

4. 授業料後払い制度

大学院修士課程・専門職学位課程を対象とした在学中は授業料を納付せず、修了後の所得に応じて後払いする制度です。併せて生活費奨学金の貸与を受けることができます。

■ 募集時期について

区　分		募集予定時期	初回振込み予定月
大　学		4月	7月
大学院	修士・専門職学位・博士課程・法科大学院	3月下旬～4月上旬	6月

※秋季にも募集を行うことがあります。

■ 予約採用について

大学院入学の前年の9～10月（予定）に、入学希望者を対象とした奨学金の募集も行っています。詳細についてはWEBサイトをご確認ください。

〈給付〉（学部学生のみ）

2025年度から所得に関する制限なく多子世帯（扶養する子供が3人以上の世帯）を対象として授業料が全額免除される新しい区分が新設されます。詳細についてはWEBサイトをご確認ください。

区　分	自宅通学	自宅外通学	募集時期	備考
第Ⅰ区分	**29,200 (33,300)**	**66,700**	4月及び秋季	受給者は、授業料減免の支援の対象となります。
第Ⅱ区分	**19,500 (22,200)**	**44,500**		
第Ⅲ区分	**9,800 (11,100)**	**22,300**		
第Ⅳ区分	**7,300 (8,400)**	**16,700**		
上記に該当しない多子世帯	**授業料減免のみ**			

※生活保護を受けている生計維持者と同居している人及び児童養護施設等から通学する人は上表のカッコ内の金額となります。

地方公共団体及び民間団体の奨学金

出願の条件及び奨学金の額、貸与・給与の別についてなど、それぞれの奨学金によって異なります。また、大学を通じて推薦するものと学生が直接出願するものがあります。

東京大学の奨学制度

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/welfare/h02_04.html

東京大学さつき会奨学金

本学女子卒業生同窓会「さつき会」の発案から寄附によって設立された、返還義務のない給付型の奨学金です。本学に入学を希望し、入学後に自宅外通学となる女子学生（学部新1年生）を対象としています。入学から卒業までの4年間（6年制課程では6年間）、毎年60万円が支給されます。申請方法は前記URLから各自で募集要項をダウンロードし、11月に出身高校を通じて申請をし、1月に採用結果の通知が届き、一般・学校推薦型選抜での本学入学後に正式な採用となります。詳細についてはWEBサイトをご確認ください。

東京大学学部学生奨学金

寄附によって設立された、返還義務のない給付型の奨学金です。本学に入学を希望し、経済的な理由により進学困難な学生（学部新1年生）を対象としています。入学後1年間、50万円が支給されます。

申請方法は前記URLから各自で募集要項をダウンロードし、1月に出身高校を通じて申請をし、2月に採用結果の通知が届き、一般・学校推薦型選抜での本学入学後に正式な採用となります。詳細についてはWEBサイトをご確認ください。

国際化の促進

■ **東京大学外国人留学生特別奨学制度**（呼称：東京大学フェローシップ）

大学院における優秀な私費外国人留学生に対し、研究奨励費を支給することにより、学位取得を目指した本学での学修・研究への取り組みを支援するとともに、特に優秀な私費外国人留学生の受入れを促進することを目的としています。学則に定める標準修業年限まで月額20万円の奨励費を支給します。

■ **東京大学海外派遣奨学事業**

学生が国際的な理解を深めることを推奨し、「世界を舞台として行動する人材」の育成に資することを目的として、短期（3ヵ月以上１年以内）・超短期（３ヵ月未満）の海外留学等を行う学部学生・大学院学生に対し、１人あたり月額６～10万円の海外留学等奨学金を支給します。

入学料免除

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/tuition-fees/h01_02.html

入学前1年以内に、学資負担者が死亡した者、風水害等で被災した者及び生活保護世帯については、本学が審査の上、入学料の全額又は一部を免除する制度があります。詳細は学費免除のWEBサイトをご確認ください。

授業料免除

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/tuition-fees/h01_02.html

高等教育の修学支援新制度の対象者に該当しない場合で、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる者については、本学が審査の上、授業料の全額又は一部を免除する制度があります。

2025年4月以降、年次進行で授業料が改定されるため、改定後の授業料が適用される学生に対しては、授業料免除の対象が拡大されます。

【2024年度以前学部入学者（改定前の授業料適用者）】

世帯の総所得金額が218万円以下（給与収入の場合は400万円以下）の者は全額免除が許可されることがあります。

【2025年度以降学部入学者（改定後の授業料適用者）】

世帯の総所得金額が358万円以下（給与収入の場合は600万円以下）の者は全額免除が許可されることがあります。

また、世帯の総所得金額が642万円以下（給与収入の場合は900万円以下）の地方出身学生は1／4免除が許可されることがあります。

※新入生については、入学試験の合格をもって学業優秀という基準に適格するものとみなします。詳細は学費免除のWEBサイトをご確認ください。

学生宿舎等

地方出身者や外国からの留学生等のために、本学では学生宿舎等を用意しています。入居者の募集や入居資格等の詳細についてはWEBサイトをご覧になるか、担当に直接お問い合わせください。

【学部の新入生用の学生宿舎】

担当：教養学部等学生支援課厚生チーム（駒場）／TEL：03-5454-6077、6078

https://www.c.u-tokyo.ac.jp/campuslife/housing/

■ **三鷹国際学生宿舎（男子・女子）**

洋室1人部屋（13㎡、鉄筋）。総定員605人。なお、2024年度からフロアの一部をオールジェンダーフロアに変更しています。

【学部の後期課程および大学院生用の学生宿舎】

規則等の改正により経常費月額が改定される場合があります。

担当：奨学厚生課厚生チーム（本郷）／TEL：03-5841-2546、2554

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/welfare/h04.html

■ **豊島国際学生宿舎Ａ棟（男子・女子）**

洋室1人部屋（12㎡程度、鉄筋）。総定員200人。

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/welfare/h04_03.html

■ **豊島国際学生宿舎Ｂ棟（男子・女子）**

洋室1人部屋（8㎡程度、鉄筋）／1ユニット5～10人のシェアタイプ。総定員300人。

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/welfare/h04_08.html

三鷹国際学生宿舎

豊島国際学生宿舎B棟

【学部新入生、学部学生および大学院生用の学生宿舎】

担当：資産企画課ハウジングオフィス

https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/housing-office/ja/housing/shukusha/mejirodai.html

■ **目白台インターナショナル・ビレッジ（男性／女性フロアの別あり）**

洋室1人部屋（10㎡程度、鉄筋）／1ブロック約20人のシェアタイプ、全704室
および独立型居室 単身・夫婦タイプ（15㎡～）、全80室

なお、豊島国際学生宿舎および目白台インターナショナル・ビレッジでは、性別を問わず、誰でも入居可能な宿舎居住エリアを2025年10月から設置することを予定しています。

【女子学生向けの住まい支援】

本学に入学する自宅からの通学が困難な女子学生のために、キャンパス至近で本学が提携する民間賃貸物件及び本学目白台インターナショナル・ビレッジに居室を用意し、家賃支援を行います。

【対象】2026年4月に本学教養学部前期課程に入学する女子学生で、自宅から本学（駒場キャンパス）までの通学時間が90分以上であること

【支援内容】月額家賃の一部補助（最大30,000円／月）

【支援期間】2026年4月1日から最長2年間を補助（最大720,000円の補助）

支援の詳細は、本学WEBサイト等で2025年7月中旬頃にご案内する予定です。

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/welfare/h04_11.html

保健・健康推進本部（保健センター）

https://www.hc.u-tokyo.ac.jp/

保健・健康推進本部（保健センター）は、学生皆さんの健康の保持・増進を推進しています。

入学時の新入生健康診断、その後の学生定期健康診断を実施します。また、内科（一般内科・トラベルクリニック・ワクチン相談）・精神科・歯科・耳鼻咽喉科・女性診療科・皮膚科・整形外科の診療、健康相談を行っています。実習・留学・就職活動・アルバイト等で必要になる診断書・健康診断結果証明書の発行や応急処置なども保健・健康推進本部で相談ができます。※大学が実施する規定の定期健康診断は無料です。各科受診の際には一部費用が発生します。

学生相談所

本郷・柏　https://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/scc/

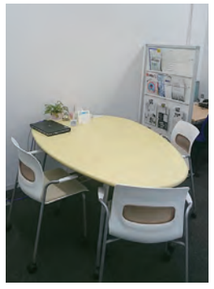
駒場学生相談所　https://kscc.c.u-tokyo.ac.jp/

高校までの勉強では問題の答えが既知で、生き方の幅も比較的狭かったのではないでしょうか。しかし、大学や大学院における学習・研究では、多少なりとも答えが未知の問題に取り組んでいくことになり、生き方の幅もかなり多様になるでしょう。このような大学生活を送る過程では、進路に迷いが生じたり、学習・研究意欲が低下したり、対人関係で強いストレスを感じたり、不安や緊張が続いたりといった心の問題が生じることがあるかもしれません。そんなとき、自分なりの道を探す上で、「心の専門家」と気軽に話すことができるのが「学生相談所」です。

コミュニケーション・サポートルーム

https://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/csr/

「コミュニケーション・サポートルーム」は、人付き合い、他の人と違う考え方・感じ方、スケジュール管理、注意力に関する悩みなどについて相談・支援する窓口です。発達障害・神経発達症（自閉スペクトラム症や注意欠如多動症など）に関する相談もできます。お話をうかがい、必要な場合には心理検査などを活用して、自己理解を深め、困り事に対する環境調整や工夫などの方策を一緒に考えます。なお、ご家族や教職員から、学生に関するご相談も受けています。



総合窓口

https://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/nsc/

相談支援研究開発センター総合窓口では、どんなご相談でもうかがいます。また、どこに相談したら良いかわからないときも、ご利用ください。

大学職員、臨床心理士・公認心理師や精神保健福祉士、及び精神科医がチームでお話をうかがい、問題解決へ向けての提案や、学内外の適切な施設へのご紹介をいたします。学生だけでなく、教職員やご家族からの相談も可能です。

詳しくはWEBページをご覧ください。

ピアサポートルーム

https://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/psr/

ピアサポートとは、学生生活上で支援を必要としている学生に対し、仲間である学生同士で支え合う活動です。ピアサポートルームは、一定の研修を受講したピアサポーターを組織し、学生による学生を支えるためのさまざまな支援活動を行っています。

ピアサポーターによる月例会の様子

ハラスメント相談所

https://har.u-tokyo.ac.jp/

東京大学では、ハラスメントのないキャンパスをめざして、防止と問題解決のための体制を整えています。

ハラスメント相談所は、セクシュアルハラスメントやアカデミックハラスメントなど、ハラスメントに関する相談を受けており、学生および教職員など東京大学の全ての構成員が利用することができます。相談のプライバシーは厳守され、臨床心理士や精神保健福祉士など専門の資格をもった相談員が、相談者の立場に立って共に解決の道筋を考えます。

相談室は本郷・駒場・柏の各キャンパスにあり、どのキャンパスの相談室でも利用できます。

ハラスメント防止リーフレット

キャリアサポート室

https://www.careersupport.adm.u-tokyo.ac.jp/

キャリアサポート室は、目的に応じてさまざまな支援を行っています。

— やりたいことってなんだろう？

卒業後の進路をイメージできるように、社会で活躍する東大卒業生にお越しいただき、人生やキャリア観、業界や企業などについて話を聞くことができる座談会形式のイベントを行っています。

— 働くってどういうこと？

先輩の進路情報や、インターンシップ・求人票のご案内、また合同企業説明会などのイベント開催時に各社での働き方などについて、情報提供していただいています。

— 就職活動って何から始めればいいんだろう？

キャリアガイダンスやワークショップ、専任のアドバイザーによる個別の相談を行っています。キャリア相談は、就職に限らず進路に関する内容全般にお応えしていますので、お気軽にご利用ください。

バリアフリー推進オフィス

https://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/

バリアフリー推進オフィスは、「東京大学憲章」の精神に基づく全学のバリアフリー化推進のための専門部署です。

駒場Ⅰキャンパスの教養学部8号館と本郷キャンパスの学生支援センターに支所を置き、障害のある学生が円滑に教育を受けることができるよう、学生の所属する学部・研究科等と連携して様々な支援を行っています。

障害のある学生の修学上、障害を理由とする不利益が生じないようにするためには、ハード・ソフト両面から適切な対応が必要です。東京大学では、視覚障害のある学生には、教科書や資料の文字拡大加工・点訳・電子データ化等を、聴覚障害のある学生には、ノートテイカー・パソコンテイカー・手話通訳者の派遣等を、肢体不自由のある学生には、教室での優先席の確保や施設のバリアフリー化等の支援を行っています。また、内部障害、発達障害、精神障害、その他の障害のある学生についても、それぞれの障害特性に応じた支援を行っています。

また、オープンキャンパス時には、障害のある高校生や既卒生を対象に、入学後のバリアフリー支援に関する個別相談を行っています。

バリアフリー推進オフィスには専門知識を有するスタッフが常駐し、障害のある学生・教職員や、支援を行う各部局・研究科等支援実施担当者の相談窓口として機能するほか、バリアフリーに関する全学的な理解、啓発も進めています。また、バリアフリー推進オフィスでは、サポートスタッフの養成講座やスキルアップ研修等も随時行っています。

保健体育寮（スポーティア）

https://www.undou-kai.com/sportia/

愛称スポーティアで知られる保健体育寮は、恵まれた自然環境の中、合宿・研修等を行える施設で、静岡県に1寮（戸田）、山梨県に1寮（山中）、長野県に1寮（乗鞍）の計3寮が設置されています。目の前が浜辺で、潮風が心地良い「戸田寮」。富士山の麓、森と湖に抱かれた「山中寮内藤セミナーハウス」。そして日本アルプス乗鞍岳の中腹にある瀟洒な山小屋の「乗鞍寮」。いずれの施設も、心身をリフレッシュするのに最適なロケーションです。

山中寮内藤セミナーハウス

戸田寮緑陰館

乗鞍寮

御殿下記念館

https://www.undou-kai.com/goten/

御殿下記念館は、東京大学創立百年記念事業の一環として、本学の学生および教職員の健康増進を図るため本郷地区キャンパス内に建設された総合スポーツセンターです。

同施設には全天候式・夜間照明完備の人工芝グラウンド、専任トレーナーを配したトレーニング室、最新滅菌システムの導入により水の透明度の増した温水プール、多様なスポーツ種目に対応できるジムナジアム等、様々な体育設備が整備されています。またエアロビクスや太極拳、ヨガ、ピラティス、サバット、ボルダリング等の多彩な運動プログラムも開催されており、多くの学生・教職員等に利用されています。

温水プール

ヒップホップダンス講座

検見川総合運動場・セミナーハウス

https://kemigawa.rprojectjapan.com/

検見川総合運動場は千葉県千葉市に所在し、広大な敷地内にサッカー場をはじめとして、アメリカンフットボール場、ラグビー場、野球場、ホッケー場、テニスコート、クロスカントリーコース、体育館等の運動施設や、各種AV機器を備えたセミナー室・最大178名収容の宿泊室・食堂を擁するセミナーハウスがあり、広大な敷地内にスポーツ合宿、研修会、ゼミ合宿等に最適な環境が整っています。

検見川セミナーハウス

検見川総合運動場

一般選抜合格者の声

文科一類
忠平 法大

公民の授業で法律に興味をもち、法律の成立過程をはじめ裁判や調停の中で、法律がどのように機能するかを学びたいと思っています。大学では第二外国語で選択した中国語にも力を入れて取り組みたいです。またサークルでは15年近く続けているピアノやバンドなど音楽系の活動を広げてみようと思っています。高校生のみなさん、大学入学そのものが目標でもいいと思うので、そのために短いスパンでの目標を立てて積み重ねていくことを大事にしていってください。

文科一類
野澤 由貴奈

文科一類を選んだのは、貧困や労働、女性の役割といった社会問題を自分事として感じたことがきっかけで、政治の分野を専攻したいと思ったからです。また東大には多方面で個性を発揮する先輩がいることにも魅力を感じました。大学には興味のあるサークルがたくさんあり、アイドルダンスやK-POPダンス、アナウンス、そしてゼミなど、やりたいことはつきません。将来は国際的に活躍できる人になりたいので、さまざまな経験をしながら、夢を広げていきたいです。

理科一類
岡 凜太朗

ハードウェアとソフトウェアの両方に興味があり、中高時代ではロボコン部の活動に力を入れていたので、東大でもロボティクスやプログラミングを学びたくて理科一類を選びました。前期課程では「量子論」や「AIエンジニアリング」など工学全般に触れ、教育臨床心理学など異なる分野も幅広く学んでいきたいです。将来はどんな社会であっても自分の好きなことを続けながら流動的なキャリアが描けるように、まずは大学時代で基礎のある人間になりたいと思っています。

理科一類
川口 翔大

有機ELという薄く柔軟な伸縮性のあるフレキシブルな素材に興味をもったことがきっかけで、その分野に特化している東大の研究室で研究したいと思い、理科一類を志望しました。前期課程では、研究につながるような学びはもちろん、論文の発表で必要になってくる英語の授業もしっかり受けたいと考えています。モチベーションが高い仲間たちに出会えたことがうれしいです。大学生活を通して、人生の中で一緒に協力できるような仲間を探していきたいと思っています。

文科二類
安齊 陽菜

前期課程で興味があるのは「文化人類学」の授業です。また、今はあまり使われなくなった日本の言葉や方言、言葉そのものが好きなので、言語系の授業もこれから履修してみたいと思っています。高校時代は学校紹介動画を作成して自分たちの学校をPRしたり、イベントで受験生との対面相談や校内ツアーを担当したり、自主的に活動に取り組んできました。受験生のみなさんも一度きりの高校生活なので、勉強以外のことも全力で取り組んでほしいです。

文科二類
杉山 太翼

東大を志望したのは、東京六大学野球という舞台に憧れたからです。中学から始めた野球が大好きで、大学でも野球部に入ろうと思っています。また中学・高校の時にはR-1グランプリの予選に挑戦し一回戦を突破したこともありました。正直なところ勉強が嫌いで好きなことに打ち込んだため現役の時は落ちましたが、浪人の一年間で勉強の中に自分なりの面白さを見い出せたことで合格することができました。将来は経済学部ならではの知識を活かし選択肢を広げていきたいです。

理科二類
加藤 由太郎

受験勉強では物理・化学が自分に向いていると思って選択しましたが、幼い頃から生物が好きでたくさん触れてきたことから、東大の理科二類で生物化学をもっと勉強したいと思いました。部活では、中高6年間フェンシング部だったので、続けようと思っています。またIMOPROJECT、コーヒー同好会、スパイス同好会など飲食料理系サークルも豊富にあって楽しみです。将来はまだ漠然としていますが、専門知識をもちながら研究だけではない道に進むことも考えています。

理科二類
弓削 千賀子

最初は医学部をめざしていましたが、人間や動物に限らず、広く生物全体を対象にした研究がしたくて理科二類を選びました。また、高校時代に競技クイズをしていて、東大のクイズ研究会に入りたいと思ったことも東大をめざしたきっかけのひとつです。前期課程では生物学の研究につながっていくような憲法、社会制度系、いわゆる政治系の授業を履修しようと考えています。将来は、研究活動と教育活動を両立して、大学で研究することをイメージしています。

文科三類
長谷川 碧

高校の探究学習では、自分が知らない物事に対する問いを解明することが好きで、楽しさを見いだしながら探求をしました。大学では教育学系を中心に社会問題や環境問題など文科三類で幅広く学んでいきたいです。また高校時代に女子中高生の進路選択を支援するコミュニティに支えられたことから、それを運営している「ichihime」という東大発のNPO法人で活動したいと思っています。将来は研究職に就き、社会に対して研究成果を還元するためのアクションを起こせる人になりたいです。

文科三類
森 美沙希

東大を本格的にめざしたのは高3の夏休み。焦りはありましたが、受験への不安は友達に共有して、あまり追い込みすぎず、基礎を積み重ねていきました。私は広く浅くたくさんのことに興味があるタイプで、将来のイメージも漠然としていたため、東京大学の前期課程で学びを自由に選択できるところが魅力でした。今は「現代教育論」や「認知の科学」、「教育心理」などの教育と心理の学びが掛け合わされた分野に興味があり、学んでみたいと思っています。

理科三類
武石 航輔

幼いころから数学と医学に興味があったのですが、将来は医学研究をしたいと考えるようになり、最先端の研究が行われていて、研究施設も充実している東京大学を志望しました。大学では、新しいことに挑戦をしていきたいので、サークルは鉄門のゴルフ部に入ろうと思っています。高校時代の一番の思い出は、3年の文化祭運営でコント班に所属して半年以上ネタを書いたこと。勉強も楽しみ続けることが合格への一番の近道だと思います。受験生のみなさんも頑張ってください。

理科三類
吉原 里香

高校時代にアメリカへ留学した際に、現地の高校生が受験にとらわれずに、自分の夢に向かっている姿に感銘を受けました。その経験が「小児がんを治したい」という思いにつながり、将来は臨床医の道に進みたいと考えています。前期課程の二年間は、自分が今学んでいることがどういう役割があるのか、目の前のことに取り組むだけでなく、客観的に見つめながら勉強をしたいです。また学業だけでなくアルバイトや部活にも打ち込んで大学生活を楽しみたいと思います。

学校推薦型選抜合格者の声

文科一類（法学部）

鵜川 心楓

平和学習やボランティア活動を経験してきたことから、高校では平和に関するテーマで研究活動を行ってきました。平和を考える上では、国際法への理解なしには考えられないと思い、国際法研究に伝統がある東大で法学を学びたいと思いました。法的な思考力を鍛えながら、平和というテーマへの切り口を広げ、哲学や歴史、芸術など、前期課程での幅広い学びを通して、さまざまな観点や視点を増やしていきたいです。将来は一人ひとりに向き合える国際弁護士として、国をまたぐ問題や難民支援、平和につながる活動がしたいです。

文科二類（経済学部）

藤居 星

小学生の頃からプログラミングに興味をもち、高校3年まで情報オリンピックに参加しました。課題に対して適切なアルゴリズムを作り、設計してコードを実装するといった経験から、マッチング理論やゲーム理論を用いた制度設計を、経済学部のマーケットデザインの分野で活かしていきたいと思っています。今はまだ社会実装の例が少ない新しい分野ですが、複雑な条件や制約の中で、より良いマッチングをするためにも取り組んでいきたいです。一見すると学部と関係ないような経験でも、自分が追求したいものがある人は学校推薦型選抜に挑戦してください。

理科一類（理学部）

市川 まどか

小学生のときに買ってもらった図鑑を読んで、気づいたら天文学が好きになっていました。研究を体験するようになってからは、光の強度や、波長、色など限られた情報源からデータを引き出し、分析する、その努力の過程が天文学の面白さだと思っています。大学ではこれから研究することを見極め、まだよく解明されていない球状星団を観測的に見ながら、宇宙の歴史の解明につなげていきたいです。高校生のみなさんも、やりたいことに出会えるまではいろんなことにチャレンジしてください。そして、思い切って自分の好きなことを追究してほしいです。

理科二類（農学部）

相木 春人

もともと釣りが好きで、夏場に海に行くとたくさん釣れるキュウセンという魚が、性転換を行うことを知り、興味をもちました。高校では、キュウセンとニシキベラの2種を対象魚として性転換と血球数の関係について調べ、発表をしました。将来は大学院に進学し専門知識を深め、身についたスキルを柔軟に展開していけたらと考えています。僕は研究が好きで、好きなことを続けていたら、東大の学校推薦型選抜につながったので、学校推薦型選抜に挑戦しようと考えている高校生のみなさんも、自分の好きなことをどんどん突き詰めてほしいです。

文科三類（文学部）

森木 将慧

中学3年のときに一冊の本と出会い、そこで複雑な社会を体系的に捉える見通しの良さに感動したのが社会学に興味を持ったきっかけです。特に関心があるテーマは「家族」です。日本の家族の現状や課題について、社会学に限らず、哲学や思想、歴史など、さまざまな分野から考察しながら深く学んでいきたいです。自分の目で見た社会を理論に反映させたいという思いが強いので、フィールドワークや質的調査で社会を知りつつ、自分のやりたいことを活かせる分野を見つけたいです。

文科三類（教育学部）

渡邉 佳歩

人がどうすれば互いに分かり合うことができるのか、ナラティブや物語という観点をもって、臨床心理を学んでいこうと教育学部を選びました。将来は、他人との相互理解の促進に向けて、何かできたらと考えているので、大学では専門性を高めながら、学びを広げていきたいです。私は、高校時代はもともと理系でしたが、日本語形容詞の通時的な意味変化の傾向を研究したことで、自分のテーマを見つけ文転しました。高校生のみなさんも、変化を恐れずにいろんなことに挑戦しながら高校生活を過ごしてください。

理科二類（薬学部）

山谷 優衣

多くの人が関わり、長い年月をかけて完成する創薬のプロセスの中で、自分も研究者の一人として携わりたいと考え薬学部を選びました。高校時代は研究成果の発表会や政策提案型のディベートなど、面白そうだと思うことには挑戦してきましたが、その中でも頑張っていたのは生物部での研究です。食品保存料であるナイシンとの相乗効果を示すような物質を探索し、どの構造が作用に関係するのかを調べました。前期課程では薬学に偏らず、幅広く学んで視野を広げていきたいです。高校生の皆さんもいろんなことに挑戦して、楽しみながら頑張ってほしいです。

理科三類（医学部医学科）

関 櫻子

将来は医学研究の道に進み、最先端の研究をリードする第一人者になりたいと考えていたので、東大の学校推薦型選抜に挑戦しました。推薦生は早期から研究者に向けての専門教育を受け、研究室を見学して研究の現場に関わることができるので、とても楽しみにしています。私はエボラ出血熱や狂犬病などウイルス感染症の分野に関心があり、新型コロナウイルス禍を経てからはパンデミックがもたらす影響にも興味が広がりました。大学ではウイルス感染症を研究テーマの軸に据えて、AI活用の可能性なども考えながら、新しい挑戦をしたいと考えています。

理科二類（教養学部）

桑畑 裕太朗

高2の時に「高校生と大学生のための金曜特別講座」を受講したことで、教養学部の統合自然科学科という進路を見つけることができました。最も関心のあるテーマは、高校時代に課題研究でも取り組んだ植物微生物間の共生です。生物や数理、科学哲学等にも幅広く興味があるので、前期過程では分野を問わず幅広い知識基盤を得た上で、生物を軸として分野にとらわれずに未知を追究するパイオニアになれるよう学んでいきたいです。東大に行きたいという強い思いが苦しい時も自分を助けてくれました。自分の進みたいと思った道を最後まで諦めないでください。

理科一類（工学部）

澤近 大地

高校では部活動でロボット開発の研究をし、バイオミメティクスという生物の特長を工学技術に活かすことをテーマにしてきました。生物が営む、非常に低エネルギーでありながら効率のいい生命活動がいかにして生まれ、どういう仕組みで進化したのかを考えるために、工学部では進化学など自分の興味ある分野を幅広く学んでいきたいです。また研究だけでなくアカデミックとビジネスをつなげたいと考えていて、東大には多様な興味をもつ人がたくさんいるので、仲間を集めて起業を経験してみたいと思っています。

理科二類(医学部健康総合科学科)

藤井 由紀子

私は生物部でヒトの健康に関する研究を精力的に行ってきました。その一つが抗変異原性を有する化合物の探索です。私の出身の秋田県ではがんの罹患率、死亡率が全国上位であり、特に消化器系のがんが多いことが喫緊の課題です。そこで、細胞のがん化の第1段階である遺伝子突然変異を抑制する物質を食品に使われる物質から発見できないか探究しました。生物統計学を活用したがんなどの疾患研究に関心があるので、将来は健康科学の研究者を目指し、人々の健康に寄与したいと考えています。そのためにも学びの場を最大限に活用し、学問を深めていきます。

ホームページでも推薦生インタビューを紹介しています

キミの東大　検索

https://kimino.ct.u-tokyo.ac.jp

学生生活

入学後、数々の催しとともに、次々と増えていく貴重な思い出。それは東京大学という場を自分のホームベースとし、充実の時間を過ごした確かな証しでもあります。青春の血を注いでの課外活動、大いに燃える五月祭・駒場祭でのひととき、日頃の努力を結実させるスポーツ大会など、いずれも本学に入学した者だけが体験し、経験できる、輝きの時間です。いつでも、何にでも、一生懸命になれる。そんな集中力、挑戦心も、この充実した学生生活を通じて培われていきます。

五月祭

https://gogatsusai.jp/

1923年5月5日の大園遊会が起源とされる五月祭は、学生の自主的な学術・文化活動の場として、本郷地区キャンパスで行われる催しです。入学後１か月余りの新入生を主体とするクラス模擬店から、3・4年生や大学院生を主体とする研究成果発表まで、実に多様な企画に彩られるキャンパス内には、学生はもとより、教職員、その家族や地域の人々など、例年約15万人が訪れます。これほど大規模な行事を学生自ら企画・運営する伝統も、東大らしさの表れといえるでしょう。

駒場祭

https://www.komabasai.net

東京大学教養学部の駒場Ⅰキャンパスを会場に、毎年11月下旬の3日間にわたり実施されるのが、駒場祭です。教養学部設置後の1950年に始まり、2025年度で76回目の開催となります。祭りの中心となるのは、日頃駒場Ⅰキャンパスに通う1・2年生。展示・発表や講演会、音楽演奏やパフォーマンス、喫茶店や模擬店といった企画が例年400以上出展され、開催期間中、キャンパスは非常に賑やかな雰囲気に包まれます。

学生表彰

2002年度に創設された「東京大学総長賞」は、「本学の学生として、学業、課外活動、社会活動等において特に顕著な業績を挙げ、他の学生の範となり、本学の名誉を高めた者」（個人又は団体）について、総長が表彰を行うものです。「学業」分野と「課外活動、社会活動等」分野に分けて推薦募集・選考を行い、2006年度からは特に顕著な者に総長大賞を授与しています。例年、3月に実施される授与式では、受賞者による成果発表も行われ、その各分野への強い情熱、全国的ないし国際的な展開、将来性の高さなど、本学学生の多彩かつ顕著な活躍ぶりが感じられます。

運動部・サークル活動（課外活動団体）

本学では、学生の自主的・自律的な運営のもと、数百に及ぶ課外活動団体*が活動しています。自ら選んだ活動に打ち込む濃密な時間と、その共有から生まれる熱い友情、様々な人との交流を通じた深い経験は、生涯にわたり貴重なものとなることでしょう。

運動部

https://services.undou-kai.com/clubs/

本学には、東京大学運動会所属の部*が47部（除く総務部）あり、大学の代表という気概をもち試合等に励んでいます。

【屋外競技】

硬式野球部

春と秋に大学野球の聖地・神宮球場で行われるリーグ戦での勝利を目指し、日々練習に励んでいます。学生野球最高峰の舞台で、強豪に相対します。

ヨット部

［クルーザー］1951年創部。昨年世界選手権（米・シアトル）に出場しました。［ディンギー］1932年創部。昨年は1992年以来32年ぶりの七大戦総合優勝を果たしました。

アメリカンフットボール部

1987年の創部以来関東学生リーグ一部の座に君臨し、「学生日本一」の目標を掲げて日々練習に励んでいます。

陸上運動部

1887年創部、初心者から全国レベルまで、100名を超える部員が在籍しています。関東インカレや七大戦などの対校戦での活躍や自己ベスト更新に向けて日々練習に励んでいます。

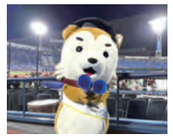
【運動部全体をサポートし、盛り上げる】

応援部

1947年創部。選手を鼓舞し、見る者に感動を与えることで、東京大学の勝利と発展に尽くすべく、日々練習に励んでいます。

総務部

東京大学をスポーツで盛り上げるべく、運動部全体の総括、各種競技体験イベントの実施を担っています。



【屋内競技】

躰道部

2001年創部。比較的新しい運動部ですが、現在全国学生大会で16連覇中と実力ある部活動です。さらに、前回の世界大会では、金・銀メダルを獲得しています。

体操部

初心者からインカレ出場者まで幅広いレベルの部員が所属しています。昨年の旧帝大による七大戦では男女総合にて連覇を果たしました。

スケート部（アイスホッケー部門）

大学からアイスホッケーを始める選手も多いですが、経験者・未経験者共に活躍し、昨年の旧帝大による七大戦での優勝を含め様々な大会で上位の成績を収めています。

届出学生団体等

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/clubs/h09_01.html

本学におけるサークルの在り方は実に多彩ですが、ここでは本学学生を主な構成員とする届出学生団体*から、10団体を紹介します。

【音楽・芸術】

音楽部管弦楽団

1920年創立の歴史あるオーケストラ楽団で、入学式・卒業式での奏楽や学外公演も担い、「東大オケ」の異名をとる団体です。

音楽部合唱団コールアカデミー
音楽部女声合唱団コーロ・レティツィア

1920年創立の男声合唱団に、2009年には女声合唱団も創立され、入学式・卒業式では「東京大学の歌」合唱を担っています。

美術サークル

1967年創立。絵画、立体、現代アート等、多彩な分野で自由な美術創作を行い、国公立大学連合文化会の美術展にも出展しています。

【文化・学術】

茶道部

1949年創立。茶道を学ぶことで日本の伝統文化に触れ、茶会によりそれを外部発信することを目的に活動しています。

東京大学E.S.S.

1947年創立。英語によるスピーチ、ディベート、ディスカッション等の活動を通じ、英語力の向上や幅広い交流を図っています。

東大襖クラブ

1954年設立。伝統技術の継承と、襖及び障子の張替活動による地域貢献を活動理念としています。

【公益・広報】

五月祭常任委員会

各学部等から選出の学生が委員となり、各参加団体や大学と協議を重ね、全国有数規模の学園祭「五月祭」を統括・運営しています。

東京大学アルバム編集会

学生自ら卒業アルバムの撮影・編集を行い、学生自身の目線に立った卒業アルバムを制作し、その販売を行っています。

FairWind

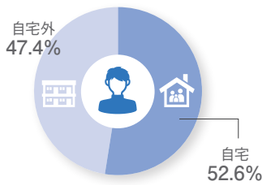
地方高校生が感じる「進学上の壁」を取り払うために、地方出張セミナーや東大ツアー等を企画し、交流・情報発信を行っています。

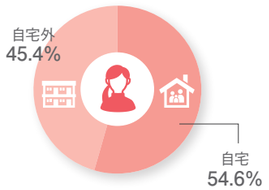
*本学では、「課外活動団体に関する規程」に基づき、顧問教員等を定めて大学へ届け出た課外活動団体を「届出学生団体」、（一財）東京大学運動会の加入団体を「運動部」と呼んでいます。

東大生の一日

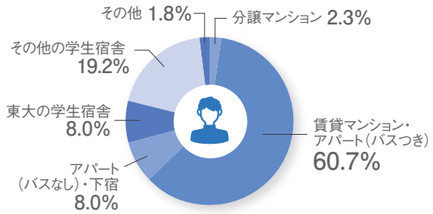
どんなところに住んでいるの？

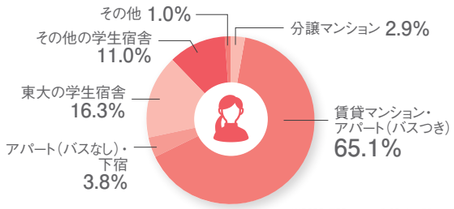
居住形態





住居区分（自宅外）





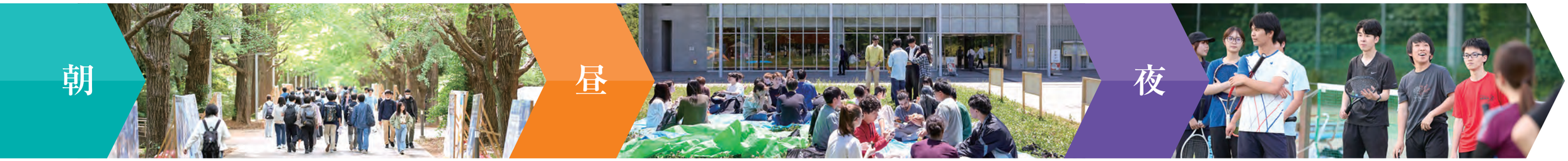
※2023年度学生生活実態調査による

授業風景って どんな感じなの？

前期課程では大教室で学ぶ科目が多くあります。これは大学の法学への入り口となる「法Ⅰ」の授業。伝統的な900番教室（講堂）で行われ、東大の歴史を感じつつ、法律学を学ぶために必要な基礎的な知識・思考方法を学べます。

理系に進むと、2年生のS1タームで必修になる「物性化学」の授業。電子の軌道について、定性的な理解から、式を使って理論的に考えていきます。高校では触れない内容で難しいですが、暗記していたことを式で理解できるという楽しみがあります。

研究室では、教員や先輩、同級生、後輩たちとたくさん議論しながら研究を進めます。試行錯誤しながら実験や解析を進める経験を積むことで、科学的且つ論理的に考える力や専門知識を養います。



どんなキャンパスグルメがあるの？

表中の価格は変更になる場合があります。キャンパス内には他にも多数のカフェやレストランがあります。

カフェテリア若葉

駒場コミュニケーションプラザ1階の食堂。週替わりで限定メニューが登場し、九州沖縄フェアでは熊本ラーメンなどご当地メニューが楽しめます。チュロスやチョコパイなども販売しているのでカフェタイムにも人気です。

ルヴェ ソン ヴェール

駒場キャンパスの緑に囲まれたカジュアルフレンチ料理のお店。人気はサラダビュッフェ付き日替わりランチ。メインディッシュは肉料理、魚料理、野菜料理から選ぶことができます。

中央食堂

安田講堂前の地下にある中央食堂は2018年春にリニューアルをしました。人気の赤門ラーメンなどの定番メニュー以外にも、定食、ハラル推奨メニュー（ケバブライス）など豊富なメニューが揃う学生の憩いの場です。

第2食堂

本郷キャンパスの附属病院近くにあるのが第2食堂。丼もの、ラーメン、定食をはじめハラル対応メニューも複数あります。総菜の種類が豊富で安価なので、主菜に自由に組み合わせて栄養バランスのよい食事を楽しむことができます。

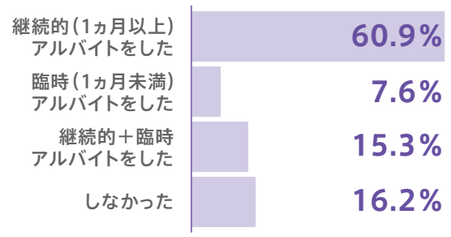
カフェ

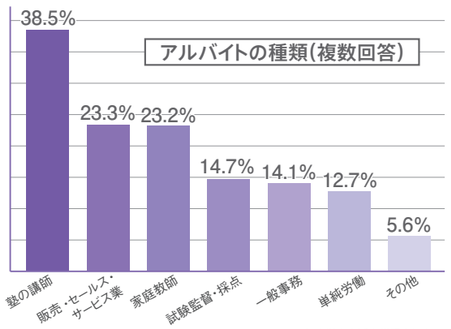
キャンパスには個性豊かなカフェがたくさんあります。本郷キャンパス赤門にほど近い『UTカフェ・ベルトレ・ルージュ』では、テラス席でドリンクを飲みながら研究者との会話を楽しむU-Talkなどのイベントがあり、知の交流場になっています。

キッチンカー

キャンパス各所では日替わりのキッチンカーが営業しています。パエリア、オムライス、インドカレー、しらす丼などさまざまな料理がテイクアウトでき、キャンパスのベンチで食べることができます。

どんなアルバイトをしているの？





※2023年度学生生活実態調査による

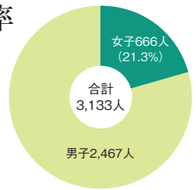
女性の進学促進

詳細はこちらへ▶

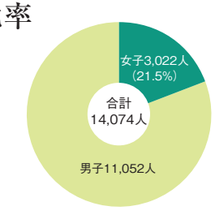
東京大学にはじめて19名の女子学生が入学したのは1946年のことでした。
本学では男女共同参画の実現を最も重要な課題の一つとして、2006年に男女共同参画室を設置し、女子の進学促進及び女子学生比率向上に向けた様々な取組を実施してきました。さらに、2021年9月に基本方針として「UTokyo Compass」を公表、2022年6月に「D&I宣言」を策定し、学生における女子比率を高めるための取組や目標を定めるとともに、本学の多様性・包摂性推進の姿勢を明確にし、取組を加速しています。2024年4月には、多様性包摂共創センターを設置し、多様な学生構成の実現、学内環境づくりの推進を強化していきます。

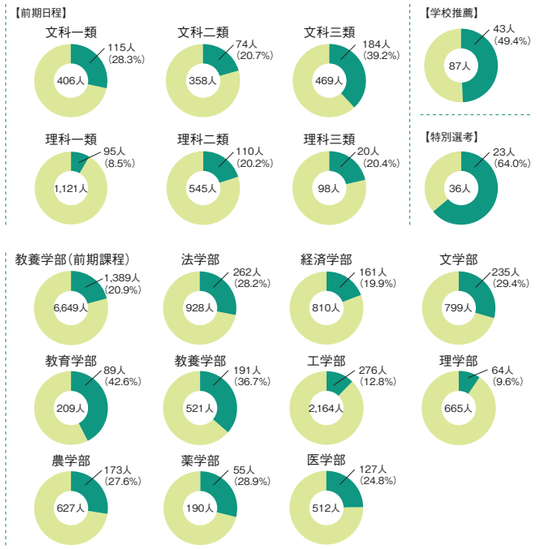
2025年度合格者数・女子比率

(4月入学者分)



各学部 学生数・女子比率





女子学生向けの住まい支援

本学に入学する自宅からの通学が困難な女子学生のために、キャンパス至近で本学が提携する民間賃貸物件及び本学目白台インターナショナル・ビレッジに居室を用意し、家賃支援を行います。

【対象】2026年4月に本学教養学部前期課程に入学する女子学生で、自宅から本学(駒場キャンパス)までの通学時間が90分以上であること
【支援内容】月額家賃の一部補助(最大30,000円／月)
【支援期間】2026年4月1日から最長2年間を補助(最大720,000円の補助)
支援の詳細は、本学WEBサイト等で2025年7月中旬頃にご案内する予定です。
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/welfare/h04_11.html

女子中高生のための東京大学説明会を開催

例年、「女子中高生のための東京大学説明会」を開催しています。在学女性学生によるパネルディスカッション等、先輩の生の声を聞くことができます。2020年からオンラインでの開催となり、全国どこからでも参加できるので、ぜひ積極的な参加をお待ちしています。

在学女性学生による学校訪問

2010年度から、在学女性学生が母校を訪問し、東京大学説明会を実施しています。また、2025年度より、説明会の開催を希望する母校以外の学校への訪問もはじめました。

女子中高生向け冊子『Perspectives』

女子中高生の皆さんに、もっと東大女性学生の姿を知ってもらおう、という目的で作成されたのが「Perspectives」です。女性学生と女性教員による座談会や、多様なロールモデルとなる在学学生や卒業生の声などを掲載しています。下記Webサイトで公開していますので、ぜひ一度ご覧ください。

https://www.u-tokyo.ac.jp/kyodo-sankaku/ja/activities/perspectives.html

女子中高生向け進路選択支援活動

近年、女子の大学進学率は男子と遜色ないものになってきましたが、東京大学の学部・大学院の学生における女性比率は未だ非常に低い状態にとどまっています。東京大学ではジェンダー・エクイティ推進オフィスが中心となり、学部・研究科・附置研究所が連携して、中学・高校の女子生徒やその保護者、先生を対象に、進路を考えるきっかけとなるような催しを企画しています。

家族でナットク!
理系最前線
東京大学 女子中高生理系進路支援

https://www.u-tokyo.ac.jp/kyodo-sankaku/ja/activities/rikei-program/

女子中高生向けシンポジウム

比較の視点がひらく法学の魅力　女性研究者の声

大学院法学政治学研究科 教授
大西 楠テア おおにし なみ・てあ

PROFILE
2005年 東京大学法学部卒業
2007年 東京大学法学政治学研究科総合法政専攻修士課程修了
2007年 東京大学法学政治学研究科助教
2013年 駒澤大学法学部講師
2016年 専修大学法学部准教授
2022年 専修大学法学部教授
2024年 東京大学法学政治学研究科准教授

私は比較法(ドイツ法)を専門にしています。特にグローバル化やヨーロッパ統合の進展によって「社会と法がどう変化しているのか」に興味を持って研究しています。

国境を越える人々と法

国民国家が成立した19世紀において、国家は、国境で人々を囲いこみ、領域内に滞在する人に「国民」としての地位を割り振って、様々な権利を保障するとともに義務を課しました。しかしながら、移動手段が発達した現代においては、人の移動はますます活発になり、出身国以外で人生の多くの時間を過ごす人々も珍しいものではなくなってきています。それゆえ、国境を越えて移動する人たちをどう取り扱い、彼らの権利をどう保障するか、国境を越えて形成される社会関係を法がどのように規律するかが新しい問題として立ち現れてきています。

例えば、ヨーロッパでは「EU市民権」という新しい考え方が生まれるなど、従来の国民国家の枠組みだけでは捉えきれない様々な発展があります。私は、こうした変化を「人の移動」という視点から読み解き、私たちが暮らす社会がどう変わり、法がどう対応しているのかを研究しています。

女性の視点

国際・移動する人のうち女性の割合が高まってきていることを「移民の女性化」と呼びます。男性の移動に家族として帯同する人もいれば、ケア労働者(介護・家事労働者など)として移動する女性もいます。特に後者については、先進国でケア労働が外部化されるのに伴って、ジェンダー役割分業が国境を越えて再生産されているという面もあるので注意が必要です。

世界とつながる研究

私の研究は、日本だけでなく世界中の研究者と国際学会などを通じて協力しながら進めています。これまでの日本の法学研究は、明治期における法継受の経験もあったことから欧米に偏りがちでした。しかしこれからはアジアなど今まであまり注目されてこなかった地域の法も比較対象にしながら、グローバル社会が抱える問題に多角的にアプローチしていきたいと考えています。

「グローバル化と法」をテーマに様々な法分野の先生が集まって行う共同研究に参加させてもらいました。10年にわたる研究プロジェクトの成果の第三弾です。

基礎法学から移動と帰属を論じた編著です。基礎法学系学会連合が行うシンポジウムの成果でもあります。

選択の先にあった広い世界　女子学生の声

東京大学法学部第2類(法律プロフェッション・コース) 3年
神谷 朱里 かみや あかり

PROFILE
2023年4月 前期教養学部文科一類入学
2025年4月 法学部第2類
(法律プロフェッション・コース)進学

「地元に残る」と言い続けた普通の高校生が、突然志望校を変え、東京大学の学校推薦型選抜に出願を決めました。ドタバタな受験生生活を乗り越え、右も左も分からず一人で上京した先にあるのが、今の私です。

「今を乗り越えられない人に、未来を叶える資格はない」

目の前の明日も、先に見える未来も、まだ見えない夢の実現も、全ては「今」の延長線上。日常の一瞬一瞬を大切に過ごすことで、未来は形を成していく、私はそう信じています。

私ももう3年生、受験生時代の記憶は未だ鮮明で、大学生活の短さを痛感します。大学での学びや生活は、時の流れの速さに到底釣り合わないほど濃く、充実したものです。前期課程は「やりたいことはなんでもできる」そういった学びと活動の空間です。今しかできない、自由で広い学びを楽しむ場所。仲間とのつながりや多種多様な活動を満喫する場所。直感的に、興味の向くままに、思い切ってチャレンジして、そうして踏み出す一歩が自分の視野や興味関心を広げる大きなきっかけになると思います。

私自身、大学に入学して、多様な価値観を知り、広い世界を見ることができたと実感しています。

文理問わず履修し、ゼミや学内プログラム、五月祭・駒場祭に参加し、留学生と交流し、サークル活動に勤しみ、思い切って外国に飛び、できること、やりたいことに積極的に取り組みました。そして様々なものに触れる中で、自分は何をやりたいのか、自分に真剣に向き合って考えました。前期課程の2年間で得た経験、学び、仲間は、私にとってかけがえのないものです。

私は高校時代より社会問題に関心があり、特に「特権」というテーマを重視しています。個人の持つアイデンティティに起因する社会的優位性の差に問題意識を持ち、今は女子中高生の進路実現を支援する団体で、私のように「東大を夢見た人」の力になれるよう、活動に取り組んでいます。

東大に「なんとなく」で来るのはもったいない。憧れや夢、目標を持つ人が、理想を現実に変えられる場所、それが東京大学です。進路選択はどこに行くにも、何をするにも自分次第ですが、東京大学での生活は、皆さんの人生においてかけがえのない時間となることは間違いないでしょう。

オーストラリアの広い海を目の前に。初めての海外は、全てが新しい経験で満ち溢れていました!一緒にプログラムに参加した仲間とは今も交流が続いています。

英語ディベートサークルの活動で、国際大会に運営として参加しましたにこまで大規模なイベントの実現にかかわったのは初めてでした。

自分のフィールドを探す時間　女子学生の声

理学系研究科生物科学専攻修了
富永 慶子 とみなが けいこ

PROFILE
2019年4月 前期教養学部理科二類入学
2021年4月 理学部生物化学科進学
2023年3月 理学部生物化学科卒業
2023年4月 理学系研究科生物科学専攻進学
2025年3月 理学系研究科生物科学専攻修了
2025年4月 金融機関勤務

小さい頃から海が大好きでした。

ハワイの海で見たイルカの美しさに魅せられ、小学校、中学校の自由研究では決まってイルカなどの海棲哺乳類の生態を取り上げました。その後もマクロ、ミクロの生物学に興味を持ち、高校時代の志望はもちろん理科二類。家族や友人、恩師に支えられ、晴れて合格することができました。念願のイルカの研究者になれる!勉強も研究も頑張るぞ!と期待に胸を膨らませて入学したことを昨日のように思い出します。

そんな私を待ち受けていたのは途方もなく広い世界でした。高校時代までは、学校と塾で世界が完結していました。それが、サークル、部活、留学、研究室、自主ゼミ、起業、アルバイト、インターン…
提示される選択肢の多さに圧倒され、全てを完璧にやれないことで自分を責める日々が続きました。

その時、ある先生から、「自分がここでなら1番じゃなくてもやっていけるというフィールドを見つけられるように」、という言葉を頂きました。そこからは、多様な選択肢に相変わらず戸惑いながらも、楽しんで、飛び込んでゆけるようになりました。幅広い講義(東大には文理の研究最前線からアントレプレナーシップ、果ては座禅の講義まであります)を受け、国際交流に参加し、自分の気持ちに問いつづけました。大学院に入ってからは2年間、ショウジョウバエの発達期の神経細胞に関する研究を行いました。

東京大学は、学生が、迷い、立ち止まり、チャレンジし、様々な分野を訪ねることを、全方面からサポートしてくれる環境が整った場所です。すでに突き詰めたいことが決まっている方も、迷っている方も、ぜひあなたのこれからの時間を、東京大学で過ごしてみてください。想像よりずっと広い選択肢に体当たりでぶつかる時間は、あなたのこの分野を突き詰めたいという想いをさらに肯定してくれ、あるいは、全く思いもよらない分野への扉を開いてくれることと思います。

理学部附属の三崎臨海実験所での実習。実際に海で採取した生物のDNAを調べ、系統樹を作成しました。

スウェーデン研修で仲良くなった現地の学生が東大に来てくれました。
学年も専攻も様々な人と関わることができた貴重な機会でした。

国際教育（在学中の海外留学・海外体験）

詳細はこちらへ▶

社会のグローバル化が急速に進み、国際競争が激しさを増している現在、国際化は東京大学が最も力を注いでいる分野の一つです。東京大学は世界トップレベルの教育研究拠点として、国際的な学術交流を推し進めています。特に、在学生には、国際的学習・研究の体験の推奨をしており、積極的にそのような機会を提供しています。ここでは、本学の主な取り組みについて紹介します。

Go Globalウェブサイト:https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/

1学期～1年間の留学

（1）交換留学

東京大学では海外の協定校（学生交流の覚書を締結している大学等）に、1学期から1年間の留学をするプログラムを実施しています。東京大学の学生全員が応募できるプログラム（全学交換留学）と、学部・研究科内で募集が行われるプログラム（部局間交換留学）があります。

令和5年度は全学交換留学と部局間交換留学を合わせて329名の学生（学部及び大学院）が留学しました。

■交換留学には、以下のようなメリットがあります。

①東京大学の協定校への留学だから安心

東京大学の協定校は、すべて世界的に評価の高い研究教育機関です。協定校との連携により、事前に多くの情報が得られるほか、実際に派遣された学生の報告書も公開されています。

②留学先での授業料の支払いが不要

留学中も東京大学へ授業料を納付することになり、留学先での授業料の支払いが不要です。海外の大学には、大変高額な授業料が必要な場合もありますので、これは非常に大きなメリットと言えます。

③留学先での手厚いサポート

交換留学生には、宿舎を優先的に確保してもらえるなど、特別な配慮をしてもらえるケースがあります。

④留学先で取得した単位を互換

認定の基準は、所属する学部・研究科によりますが、留学先で取得した単位を東京大学の単位に認定できる場合があります。

⑤留学期間が卒業に必要な在学期間に含められる

留学期間は、東京大学卒業のために必要な在学期間に算入することができますので、留学をしても所定の年限で卒業できる場合があります。

⑥奨学金の支給

東京大学では、交換留学により海外の大学に派遣される学生のための様々な給付型奨学金（返還の必要なし）を用意しています。令和6年度は、ほぼすべての全学交換留学参加学生が本学や奨学財団等からの奨学金を受給しました。

※交換留学の協定校リスト・詳細情報等については以下のURLより、Go Globalガイドブック 2025（以下「ガイドブック」）をダウンロードしご覧ください。
https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/top-sitemap_00001.html

（2）その他

交換留学以外にも、以下のようなプログラム（例）があります。授業料は留学先に納付し、休学が必要な場合もあります。単位認定については交換留学と同様に各学部・研究科の判断によります。

①UC派遣プログラム
（カリフォルニア大学バークレー校・デービス校）

カリフォルニア大学2校との協力により、1学期～1年間留学するプログラムです。東京大学を通じて応募することになります。

②海外大学のVisiting Studentプログラム

海外の大学では、Visiting Studentの身分（それぞれの大学で呼称が違う場合があります）で、他の大学の学生を1学期～1年間受け入れるプログラムを設置している場合があります。このようなプログラムに個人で応募することも可能です。

PEAK - Undergraduate Degree Programs in English

PEAK（学部英語コース: Programs in English at Komaba）は世界中から人材の集うグローバル・キャンパスを創ることをめざして、教養学部で2012年10月からスタートしたプログラムです。初等・中等教育の大半を日本語以外で履修した学生を対象にしたもので、学位取得までのすべての授業が原則英語で行われます。2012年度の創設以降、13年間で392名の学生が入学しました。在学生の国籍・地域は日本、インド、韓国、シンガポール、台湾、中国、フィリピン、マレーシア、バングラデシュ、アメリカ、イギリス、ドイツなど約18にのぼります。PEAKの学生は最初の2年間は教養学部前期課程の「国際教養コース」で学修し、その後、同学部後期課程の「国際日本研究コース」または「国際環境学コース」のいずれかに進学し、国際性・学際性豊かな東京大学の特色を生かした勉強や研究に取り組みます。

PEAKの前期課程授業の大半は4月入学の学生も履修できます。また後期課程の両コースには4月入学生も進学できます。英語で開講される授業に出席し、世界中から集まってきた学生たちとともに学び、議論をしてみてください。また教養学部にはPEAK生をはじめとする留学生との交流を深めるTGIF（Todai Global Interaction Friends）という学生組織があり、さまざまな課外活動を行っています。授業の内外でPEAK生らと交流し、異なる文化や価値観に触れて、在学中に自身の視野を一層広げて欲しいと願っています。

＊PEAKは2026年度をもって学生募集停止、4月入学生のPEAK後期課程への進学は2028年度進学まで。

PEAKに関する情報
http://peak.c.u-tokyo.ac.jp/

3ヶ月未満の留学・国際教育

3ヶ月未満の留学には、語学力の向上を目指すプログラム、アカデミックな講義・ディスカッションを行うプログラム、フィールドワーク、インターンシップあるいは、これらを複合したものなど、様々なプログラムがあります。

（1）サマー・ウインタープログラム

主に夏季や冬季に行われる短期（約1週間～2、3ヶ月）のプログラム（対面またはオンライン）です。東京大学では、本学学生向けに協定校等と協力して開催するプログラム、協定校等が主催するプログラムへ学生を派遣する事業なども行っています。

また、本学が実施するUTokyo Global Unit Courses（UTokyo GUC）への参加も可能です。

https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/guc.html

（2）海外インターンシップ・ボランティア

海外の企業、国際機関、または教育機関等で研修生として働くインターンシップや、世界各国における経済・社会の発展、復興への寄与、友好親善・相互理解等を目的としたボランティアに参加する学生も増加しています。これらの機会については、Go Global ウェブサイト・ガイドブック等で情報を提供しています。

その他の海外留学等の機会

東京大学では、先に紹介したもののほか、以下のような特徴あるプログラムが実施されています。詳しくは是非ウェブサイトを参照してください。

（1）「国際研修」（主題科目）

教養学部前期課程で開講されている授業です。授業内容としては（1）海外教育機関との共同プログラム、（2）現地の学生との合同見学・合同実習等を含む短期の海外研修、（3）海外の学生との合同国内研修、等です。

https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/outbound/study_abroad_programs/globalpraxis/

（2）体験活動プログラム

体験活動プログラムは、学部学生および大学院学生を対象とした体験型の教育プログラムです。学内の学びとは異なる文化や価値観に触れる機会を提供する、本学独自の取り組みとして、2012年度より実施しています。

フィールドは国内外を問わず、ボランティアなどの社会貢献活動や国際交流体験、農林水産業や地域体験、学内研究室での研究体験など、多岐にわたります。2024年度は、88件のプログラムが実施され、延べ540名を超える学生が参加しました。うち、海外プログラムには過去最多の200名を超える学生が参加しました。2025年度は、プログラム数をさらに拡充し、101件実施予定です。アフリカや中東、スイス、米国など、さまざまな地域での企画を予定しています。本プログラムでは、交通費や宿泊費の一部をサポートする奨励金を支給しています。

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html

（3）グローバル・インターンシップ・プログラム（UGIP）

グローバル・インターンシップ・プログラムは、東京大学の学部学生・大学院学生がビジネスの最先端を体験するプログラムです。2025年度は本学の協創企業3社が受入先となり、3つのプログラムを実施します。参加学生は2週間程度の海外拠点でのインターンシップを通じて調査やビジネス提案などに取り組みます。

プログラム参加費用は原則として企業側が負担します。

東京大学グローバル教育センターでは、先に記載したウェブサイト・ガイドブックのほか、大規模な春の留学フェア、学務システムの掲示板、メール配信等で随時情報発信を行っています。リアルタイムの情報を是非ご参照ください。

国際総合力認定制度（Go Global Gateway）

東京大学では、皆さんが大学生活を通じて、世界の多様な人々と共に生き、共に働く力（国際総合力）を身につけられるよう、学部生全員が国際総合力認定制度（Go Global Gateway）に登録することになっています。この制度は、皆さんの国際的な学習や交流の機会への参加を後押しする制度です。

まず、東京大学の国際的な活動・修学に関するオンデマンド型の基礎講座を受講します。基礎講座を通じて、国際的な活動に取り組む動機付けを行いましょう。また、前期課程の修了要件でもある外国語学修や、グローバル教育センターが後期課程学生を対象に開講するグローバル教養科目等を通じて、外国語による授業科目の履修に取り組みます。さらに、こうした活動を通して身に着けた国際感覚をもとに、短期のサマープログラムや交換留学に参加して、国際的な学びを深めましょう。

基礎講座の受講、外国語学修、そして、自身の第一言語以外による授業科目の履修または海外での活動への参加を完了すると、国際総合力を認定されます。また、グローバルリーダー育成プログラム-I（GLP-I）・グローバルリーダー育成プログラム-II（トライリンガル・プログラム）（GLP-II（TLP））（いずれも9ページ参照）を完了すると、GGG＋（プラス）が認定されます。

国際総合力認定制度に関する情報: https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/ggg.html

留学経験者の声

世界各地の大学へ留学する日本人学生の数も、世界各国各地域から訪れる外国人留学生の数も、年々増加しています。語学習得のみならずグローバルな感覚、真に異文化を理解する感性と国際的キャリアを拓くことができるのは海外留学の大きな魅力です。東京大学は教育の国際化を推進し、多くの学生が世界各国で友好の輪を広げています。

学びと出会い、そして拓かれた未来

情報理工学系研究科 電子情報学専攻 2025年3月修了
江頭 和希　えがしら かずき

修士1年の秋から10ヶ月間、全学交換留学の制度でスイスのETH Zurichに留学しました。Computer Science専攻として、世界トップレベルの環境に身を置く貴重な機会を得ました。

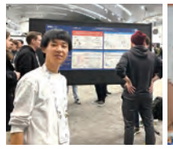
人工知能(AI)とその安全性に関心があり、それに関連する授業を中心に履修しました。最先端の内容が整理された刺激的な講義が多かったです。宿題は論文の再現実装や証明が中心で、授業と研究活動の密接な結びつきを感じました。東大の学部で培った「広く浅い」知識を土台にし、「狭く深い」知識を身につけられたと感じます。日本では「学部生は授業履修、修士学生は研究が主」という傾向がありますが、ETHをはじめ海外の多くの大学では、修士課程でも授業履修が主体であり、それに伴い発展的な授業が充実している印象を受けました。

学業の傍ら、旅行で計10カ国を訪れました。他国への移動は非常に便利で、例えばチューリッヒからロンドンまでは片道2時間弱、約5000円のフライトで移動できます。ミュンヘンでの本場のオクトーバーフェスト参加、日本人選手が活躍するブライトンやソシエダのサッカー観戦、2週間での弾丸イタリア縦断旅行など、多くの都市を巡りました。

留学中に出会った人々の存在も欠かせません。授業でチーム課題に取り組んだ仲間、寮で共に過ごした友人、現地の日本人コミュニティの方々とは、今でも連絡を取り合っています。

学術面の話に戻ると、ETHでは、PhD学生の指導のもと研究プロジェクトを体験する授業も用意されています。私もこれを履修し、そこで行った研究がAI分野のトップ国際会議であるNeurIPSに採択されました。また、この成果を主たる業績とし、東大の情報理工学系研究科より研究科長賞を受賞しました。さらに、プロジェクトの指導教員から誘いを受け、2025年夏からETHで博士課程に進学することになりました。

留学前には想像もしていなかった展開が待っていました。留学を通じて得られるものは多岐にわたりますが、その経験が間近な未来を予想外の形で切り拓く可能性があるということも、留学を検討する動機の一つにしていただければと思います。



留学中の成果を国際会議にて発表@バンクーバー

日本人会@チューリッヒ

ビッグベンと赤い電話ボックス@ロンドン

寮のイベントでリンボーダンス

挑戦と出逢いの一年 ー無限に広がる世界へ

教養学部 教養学科 総合社会科学分科 国際関係論コース 4年
堆 美優　あくつ みう

私は学部3年の秋から1年間、ドイツ・ミュンヘン大学(LMU)に留学しました。「海外で暮らすことで、自分の常識や人生観を見つめ直したい」「国際関係論が、他国ではどのように学ばれているのか知りたい」ーそんな想いから、留学を決意しました。留学先にドイツを選んだのは、難民問題に関心があり、また大学で学んできたドイツ語を自分の強みにしたいと考えたからです。

現地では政治学科に所属し、国際政治を中心に英語とドイツ語で学びました。現地の学生、世界中から集まった留学生たちと活発な議論を交わす日々。国際的な課題に対して「日本人として自分は何を語れるのか」を自分自身に問いかけ続ける、かけがえのない時間となりました。

世界中から集まった学生たちとの出会いは、物事を異なる視点から見るという経験の連続でもありました。なかでも印象に残っているのは、国際紛争の当事国出身の友人たちとの対話。立場が違えば、同じ出来事も受け止め方がまったく異なることを知り、大きな衝撃を受けました。またある日、政情が不安定な国から来た友人に「政治のことを考えずに済むなんて、日本人は本当に幸せだね」と言われました。日本人の政治への関心の薄さを恥ずかしく感じていた私は、当たり前だと思っていた日常のありがたさに気づかされました。

学業の傍ら、難民支援のボランティア活動にも取り組みました。理想と現実のギャップに葛藤を覚えることもありましたが、「人はなぜ争うのか」「どうすれば和解し、共存できるのか」という、私が将来、人生をかけて向き合っていきたい問いに出会うきっかけにもなりました。

交換留学の1年は、瞬く間に過ぎていきます。だからこそ、現地で挑戦したいことを事前に考え、積極的にチャンスを掴みにいく姿勢が何より大切です。私自身、東京大学が提供する充実した海外渡航プログラムや支援制度に後押しされて、この貴重な体験を得ることができました。主体性さえあれば、誰にでも世界は開かれています。

明確な目的がある人も、これから見つけたいという人も、「留学」を通して得られる学びと出会いの価値に変わりはありません。今こそ、未知の世界へ一歩を踏み出してみてください。自分の世界が無限に広がっていく感覚を、きっと味わえるはずです。そこにある達成感も、時には訪れる挫折も、そのすべてがこの先の人生を支える糧になります。皆さん一人ひとりが、希望と冒険に満ちた、かけがえのない学生生活を送られることを心から願っています。

オックスフォードのコースメンバーと

スイスの友人とスイス一周旅

ドイツの国際政治サマースクールにて

トビタテの仲間とモロッコへ

自分と向き合い、未来へ踏み出す

教育学部 比較教育社会学コース 4年
清 若菜　きよし わかな

私は、3年生の秋から1年間、フランスに留学しました。パリ政治学院で勉強し、夏休みはパリにあるUNESCO本部でインターンをしました。

当初の留学目的は、公共政策の知識を身につけることと、1年生の時から勉強してきたフランス語を磨くことでした。東大で教育格差について学ぶ中で、制度や政策を通じた社会課題への対処に関心を持ちました。そこで、パリ政治学院では公共政策の授業を履修し、教育政策や社会保障政策についての知見を深めました。フランス語での授業にも挑戦し、学生と教授による激しい議論に圧倒されながら懸命に学びました。

また、留学中に新たに芽生えた問いがあります。それは、「戦争・紛争によって日常の根幹が覆されるとき、教育は無力なのか」というものです。ウクライナから避難してきた友人や、ガザ情勢の悪化を受けて留学を中断した中東出身の友人の存在から抱いたこの葛藤に向き合うべく、UNESCO本部の「移民・避難民・緊急事態と教育課」でインターンをしました。3ヶ月間の勤務中は、上司と同僚に恵まれ、非常に多くを吸収しました。アフリカの難民を対象とした案件や、日本政府がドナーのウクライナ支援に携わる中で、自分の将来したいことが少しずつ見えてきました。

私にとって、留学は「立ち止まって自分の声に耳を澄ませ、未来への一歩を踏み出す時間」だったと思います。留学前は、学生団体での活動や学業、アルバイト等に追われ、一瞬の余暇もないほど忙しい生活を送っていました。もちろん、その全てに熱中して打ち込んではいたのですが、いつの間にか息切れを感じ、自分を見失いかけていました。そんな中、フランスでの生活は、私に心のときめきを取り戻すきっかけとなりました。勉強が好き、語学が好き、他人と対話し、多様な文化や価値観に触れることが好き。留学を通じて自分と向き合い、忘れかけていた私の「好き」や「楽しい」を1つ1つ拾い集めることができたように思います。こうして自分の声に耳を澄ませた時間と、留学先でのかけがえのない出会いたちは、私にとって生涯の財産であると確信しています。皆さんも、自分を過小評価しすぎずに、ぜひ東大が与えるあらゆる機会を活用してみてください!

UNESCOスタッフとしての日々

お誕生日を祝ってもらいました

みんなで出身国の料理を持ち寄ったパーティー

美しい街を背に、夜中までおしゃべり

「外」が近くなる

東京大学 法科大学院既修 2年
浅野 皓生　あさの こうせい

私は2023年9月から12月にかけての一学期間、プリンストン大学の政治学部に留学しました。

逆説的かもしれませんが、留学を決断した一番の理由は、東京大学での生活が快適だったことにあります。東京大学という素晴らしい学習環境で、気心の知れた友人たちに支えられながら学ぶことが、楽しくないはずがありません。でもだからこそ、一旦外に出て、自分を鍛えてみたいとも思うようになったのです。日本語が通じず、文化も異なる環境に「異邦人」として身を置くことで、もっと知的に、あるいは人間的にタフになりたい。そこで様々な人たちと出会い、交流することで、これまで以上に視野を広げ、人間として成長したい。そう思ったのです。

予想通り、留学先のプリンストン大学での生活は大変なものでした。寮生活での苦労はもちろん、授業ではリーディングの量に圧倒され、教授の流暢すぎる英語を聴き取れず、自分の意見を問われてもうまく英語で表現できなかったりと、最初の数週間は正直、かなり苦しかったです。

それでも生活に慣れていくにつれ、ストレスがぐんぐん減っていき、英語も少しずつマシになっていき、そうすると授業の面白さがどんどんと分かってきて、いつの間にか、刺激に満ちた毎日が楽しくて仕方なくなりました。それから、沢山の友人に恵まれたことも、自分にとっての幸運でした。火鍋を食べに郊外の町へ繰り出したり、夜中までアニメ鑑賞会をしたり、ニューヨークまで行ったのに、何をするでもなく歩きまわったり——あれほど楽しい時間を過ごせるなどとは、留学に行く前には想像もしていませんでした。彼らとは今でも頻繁に連絡を取り合っており、自分の帰国後に日本を訪れてくれる。これからも大切にしていきたい関係です。

留学を通じた学びは枚挙に暇がありませんが、確実に言えるのは、「日本の外」がより近く感じられるようになったこと、そして、各々の文化的背景にかかわらず、互いに互いを尊重することができれば、深い信頼関係を築くことができるという当然の事実を、肌身をもって実感できたことです。ここには書き切れない沢山の思い出を振り返りながら、留学に行ってよかったなと、改めて思います。

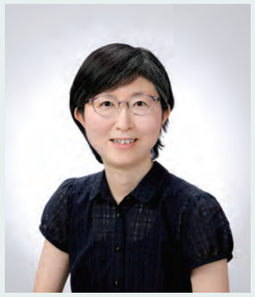
いつも勉強していたFirestone Library

休日にニューヨークへ

帰国前にプレゼントを持ってきてくれた友人たちと

先輩からのメッセージ

理学部数学科で得たこと



川室 圭子 かわむろ けいこ
アイオワ大学教授

PROFILE
1993年 東京大学教養学部理科一類入学
1995年 東京大学理学部数学科進学
1997年 東京大学理学部数学科卒業
2006年 Columbia University, Ph.D.
2006年 Rice University, G.C. Evans Instructor
2009年 University of Iowa, Assistant Professor
2015年 University of Iowa, Associate Professor
2020年 University of Iowa, Professor

東京大学での収穫は、素晴らしい先生方や友人に出会うことができたことです。私は、中学生の頃から数学の研究をする職業につきたいと思っていました。東大教養学部では線形代数と微積分を習いましたが、身近にずっと専門的な本を読んでいる人もかなりいて感心しまた刺激も受けました。自分でも背伸びをして高価な本を買って勉強しようと試みましたが今から振り返ると浅い理解しか得られなかったし、分からないところを人に聞いて教えてもらったり、もっとじっくり時間をかけるべきだったと思います。

東大の先生方は皆、国内外で有名な数学者ばかりなのだ、という事実も友人が教えてくれました。その中の一人の河東泰之先生にルベーグ積分の授業を受けたのが始まりで今でもお世話になっています。河東先生は、講義を何もノートなど見ずにするとか、授業が始まる前に部屋の外で待機していて時間通りに授業を始めるとか、複素関数論の授業ではアールフォースの本を全部終わらせてしまったなど圧倒されるエピソードを聞いていました。

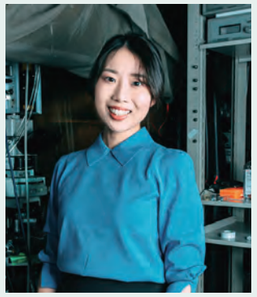
それまでの私は、定理の証明とか読んでいて、ぼーっと難しいなーと感じていても、自分が何をわかっていないのかを深く突き詰めようとはしていませんでした。河東先生のセミナーで学んだ大切なことは数学の本や論文を読む方法です。分かったと本当に思えるまで何回も読んで考えて、質問したり参考文献などもあたり、例なども自分で作ってみる、何も見ないで理解したことを紙に書いてみるなどです。今、アイオワ大学で大学院生の指導をしているとあの頃の自分と同じ状態の人がたくさんいてニヤリとしてしまいます。河東先生は私が米国に行って結び目理論を学ぶことも後押ししてくださり現在の自分があると思っています。

東大にいると研究費が潤沢で世界から一流の数学者が訪れ講演を生で聞くことができますが、それが普通でないと知ったのは米国の地方都市に職を得てからでした。数理図書館の充実度も世界最高です。東大は最高レベルの研究者や将来の研究者との交流を通し私を成長させてくれたと感謝しています。

アイオワ大学トポロジーグループ

指導した学生の博士号授与式で

脳に秘められた可能性に迫る



吉本 愛梨 よしもと あいり
Stanford University Postdoc Fellow
東京大学大学院 薬学系研究科・薬学博士課程

PROFILE
2021年 東京大学大学院薬学系研究科博士課程に進学
2022年 日本学術振興会特別研究員（DC1）
2025年 東京大学大学院薬学系研究科薬学博士課程修了
令和５年度東京大学総長大賞受賞
現在、Stanford大学生物学科ポスドク研究員、
日本学術振興会海外特別研究員

東京大学大学院で過ごした日々は、私の研究者としての礎を築いただけでなく、生命現象の美しさに触れる貴重な時間でした。博士課程で取り組んだ研究は、ある意味で「不可能」とされていたことへの挑戦でした。

私たちの体には、自分の意志で動かせる部位と、そうでない部位があります。手足を自在に動かすことはできても、心臓や胃腸を好きなタイミングで動かすことはできません。しかし特殊な訓練を積めば、その垣根を跳び越えることができるのではないか—この問いが私の研究の出発点でした。

私は実験動物ラットにこの訓練をさせる実験パラダイムを構築し、ラットが心拍数を意識的に制御できるようになることを示しました。驚くべきことに、わずか5日間の訓練で約50%もの心拍減少を達成することができたのです。この状態は2週間以上継続し、その間ラットの不安行動は低減し、また赤血球数は血液循環の低下を補うように増加しました。さらにこの実験パラダイムを用いることで、脳から心臓に司令が送られるしくみを明らかにしました。本研究がヒトでも応用可能かを検討し、心拍数の自己調節能力を向上させることで、不安の軽減、メンタルヘルスの向上、アスリートのパフォーマンス向上といった可能性を探っています。

この研究は様々な実験技術を結集することで実現しました。これが可能となったのは、東京大学で出会った尊敬する研究者の皆様のおかげです。自由な研究活動を見守りつつも的確にご指南いただいた先生方や、追い求める真理に対して心ゆくまで議論した学友、そして東京大学の恵まれた研究環境があったからこそ、このような挑戦的な研究に取り組むことができました。

所属していた薬品作用学教室は、池谷裕二教授が主宰する全国でも有数の大型研究室です。薬学のみならず、物理、生物、情報科学など、多様なバックグラウンドを持つ約50人の学生や研究者が在籍し、複合的な技術やノウハウが凝集されたユニークな研究を展開しています。その原動力は『せっかく脳を持って生まれて来たのだから、ありきたりな脳の使用法に縛られて一生を終えるなんてモッタイない』という信念です。私たちが感じている世界とは何か、脳はどこまで開拓できるのか—そんな哲学的な問いを胸に、今後も世間の知的好奇心を刺激する研究を続けていきたいと思います。

東京大学で芽生えた好奇心と探究心は、これからも私の研究人生を支える礎となることでしょう。未来の東大生の皆さんにも、この素晴らしい環境で、自分だけの問いを見つけ、探究する喜びを味わってほしいと願っています。

指導教員の池谷裕二先生

所属していた薬品作用学教室のメンバー

これからの人生のために

岩田 凌汰 いわた りょうた
株式会社NTTドコモ、アイ・ピース株式会社（兼務）

PROFILE
2016年 東京大学教養学部理科一類入学
2021年 東京大学文学部人文学科英語英米文学専修課程卒業
2021年 東京大学大学院人文社会系研究科
欧米系文化研究専攻英語英米文学専門分野進学
2024年 東京大学大学院人文社会系研究科
欧米系文化研究専攻英語英米文学専門分野修了

大人になるということは、過去をもつということである。その過去は喜ばしい思い出でも、嘆かわしい記憶でもありえる。上京、挫折、結婚といった社会的な儀礼でもよいし、後悔や苦悩など内省的な活動をもたらす出来事でもよい。ささやかな暮らしに基づく経験でも、歴史的な文脈を反映した非個人的な体験でもよく、大小を問わず、一度しか起こらないとは限らない。「過去」がなだらかな変調をもたらすのか、やにわにそれまでの生活を転覆させるのかは一様でないが、しかし、それによって引き起こされる変化は成長として理解される傾向にある。そうであるとするならば、自らの過去を引き受けた結果として、自らの過去を始点として伸びていくのが、その人の人生と呼べるのかもしれない。

高校生のあなたたちには、そのような過去をもたない、あるいは、経験をしていても、そのようには意識していない人が大半であろうと思う。おそらく見据えているのは過去などでなく、未来であろう。あなたたちは、将来どのように生きていくのかと想像を膨らませられる時期にある。そして、この文章を読んでいるならば、進学を考えていることになる。

就職活動や学歴や周りの大人たちを喜ばせるために東京大学に進まなくてもよいが、いくつかの点で利点はある。一つには、ノスタルジアに回収させることになく「過去」と向き合う精神的思考の忍耐力が得られる。もう一つには、「過去」を踏まえて変化する際に、選択肢と運が与えられ、これは世間的な評価によるところが大きい。

少なくとも私は、東京大学英文科で学んだ時間は自らの過去を理解する役に立っていると言える。教養学部理科一類で入学し、英文科に転学し、アカデミアに進むと考えていたが、結果として社会に出て果てには二つの仕事を抱えているように、十年前の、あなたたちの年齢の頃には想像していなかった変化を経験したが、自らの人生がこうであると相対的な言葉を理解することができるようになったと思う。なにもそれが目指すところだとは言わないが、自分の過去が人生の腑に落ちるというのは心地よい感覚でもある。

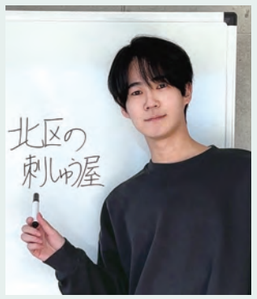
過去がいつやってくるのかは誰にもわからない。なので、その時のために備えておく必要がある。自分が学びたいと思えることをとことんまで考えておくことは助けになるし、それを叶えさせてくれる懐の深さがこの大学にはある。それに世の中での生き易さも少しはついてくる。

学部の卒業論文はPhilip RothのPortnoy's Complaint(1969)を、修士論文はCarson McCullersの主要作品を取り扱った

本郷キャンパス正門前の喫茶店「こころ」:授業前は必ずここでテクストを読んでいた

本郷三丁目駅にある「加賀屋」:この居酒屋でさまざまなことを語り相談した

ゴチャゴチャ言わない！エンジン全開まず東大！



田中 優輝 たなか ゆうき
株式会社Take Risk代表取締役

PROFILE
2019年 東京大学教養学部文科二類入学
2021年 東京大学経済学部金融学科進学
2023年 東京大学経済学部金融学科卒業
2023年 外資系投資銀行入社
2024年 株式会社Take Risk創業、
「北区の刺しゅう屋」の運営開始

「東大だからって幸せになれるわけじゃない」
「将来安泰だとは限らない」、、
そんなこと！東大を目指そうか悩んでる君なら！もうなんとなく分かってるはず！東大を志望したのは独自の進振り制度があるから、、ごにょごにょ、、いいえ！私が目指したのは東大に入ったらなんかかっこいいかなと思ったから！でもそれで、いい！「東大入ったらなんかかっこよくね？」その直感最高。物心ついてまだ十数年だよね！ほぼ赤ちゃん、思い立ったら、まず走る！

だけどね、本気で東大を目指して走り出すと、不思議なことが起こる。勉強がしんどいとき、一緒に夜まで残って問題を解いた仲間。模試の判定が悪くて悔しくて泣いた夜、陰で支えてくれた親や先生。その全部が今、宝物だ。

大学受験は実は、ただの通過点ではない。「自分の力でやりきった！」って胸を張れる成功体験を、人生で初めて掴めるかもしれない瞬間なんだ。東大に届くかどうかは結果論。でも、そこを本気で目指す、その過程が人生を変える。

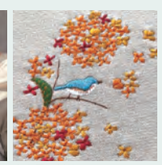
そしてね、東大に受かった仲間も、惜しくも届かなかった仲間も——今はそれぞれの場所で、誇りを持って、自分の人生を自分で選び、懸命に生きて、輝いている。その姿が、私は一番かっこいいと思う。東大はゴールではなかった。自分の人生のハンドルを自分で握る、スタートする場所である。

私はいま、株式会社Take Riskを創業して、世界的なブランドを作っている。大切な仲間と一番ワクワクすることをしている。東大の肩書きなんてもう、関係ない。

でもね、根っこには、大学受験時代に東大を本気で目指し、大切な仲間と走り抜けたあの時間が、しっかりと重なっている。

だから君にも言いたい。ゴチャゴチャ言わずに、まず走る。友人、親、教師。誰かの顔色をうかがう必要もない。「東大、かっこよくね？」。十分だ。

ブランドの象徴



金木犀の刺繍

初めて売り上げた日

会社のメンバーで花火

卒業後の進路

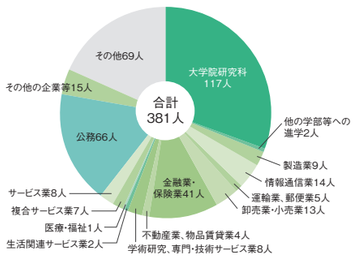
各学部を修了した学生たちは、大いなる意欲と希望に満ちて新たな扉を開き、それぞれが「自分の道」を歩き始めます。文系学部は、培った能力を社会に役立てるべく就職する学生が多く、理系学部では、将来の研究活動や就職に備えて、大多数が大学院進学の道を選択しています。

また医学部医学科の学生は臨床研修医として、医療現場での第一歩を踏み出します。就職希望者に対しては、各学部で就職支援を行っています。

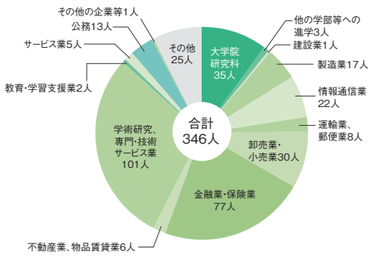
なお、その支援を補完する役割としてキャリアサポート室があり、就職情報の提供（就職活動コーナー）、キャリア相談、各種セミナーおよびイベントの企画・運営を行っています。

学部卒業者の卒業後の状況（2025年3月卒業者）

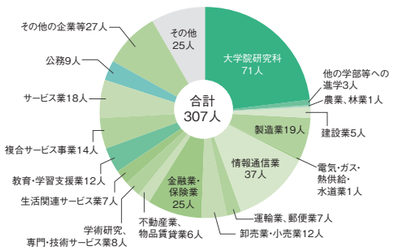
【法学部】



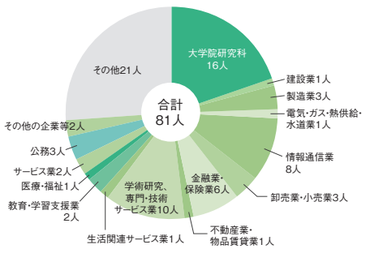
【経済学部】



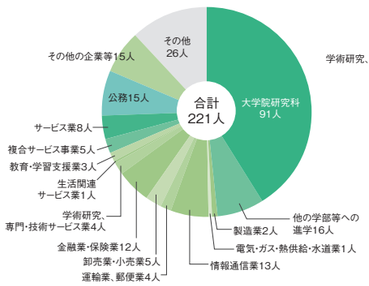
【文学部】



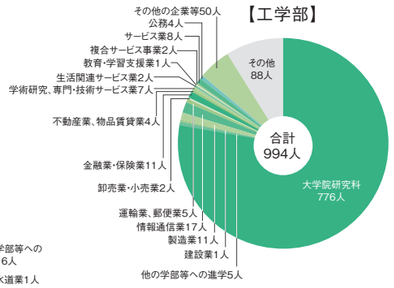
【教育学部】



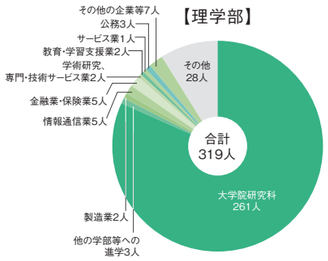
【教養学部】



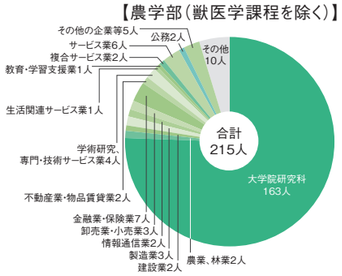
【工学部】



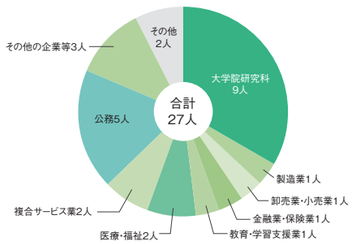
【理学部】



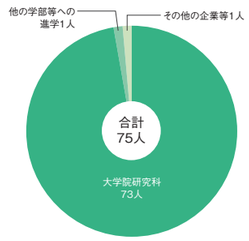
【農学部（獣医学課程を除く）】



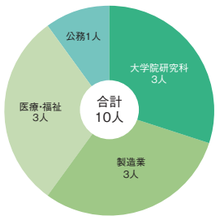
【農学部 獣医学課程】



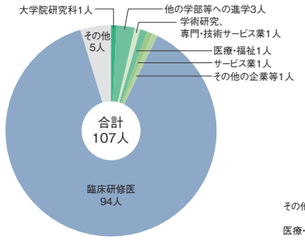
【薬学部】



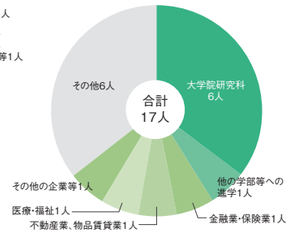
【薬学部 6年制】



【医学部 医学科】



【医学部 健康総合科学科】



（注）合計は延べ数であり、卒業者数と一致しない場合がある。

大学院修了者の修了後の状況（2025年3月修了者）

		令和6年度修了者	左記のうち満期退学者	進学者 大学院研究科	他の学部等への進学	専修学校・外国の学校等入学者	小計（進学者）	就職者 A 農業、林業	B 漁業	C 鉱業、採石業、砂利採取業	D 建設業	E 製造業	F 電気・ガス・熱供給・水道業	G 情報通信業	H 運輸業、郵便業	I 卸売業・小売業	J 金融業・保険業	K 不動産業、物品賃貸業	L 学術研究、専門・技術サービス業	M 宿泊業、飲食サービス業	N 生活関連サービス業	O 教育・学習支援業	P 医療、福祉	Q 複合サービス事業	R サービス業	S 公務	その他の企業等	小計（就職者）	その他 臨床研修医	その他	合計
人文社会系	修	123	–	72	–	2	74	1	–	–	–	3	1	5	1	3	–	–	11	–	3	5	1	–	4	3	1	42	–	7	123
	博	91	49	–	–	5	5	–	–	–	–	1	–	–	1	–	1	1	25	–	–	27	1	–	2	1	1	61	–	25	91
教育学	修	92	–	24	–	–	24	–	–	–	–	–	–	3	–	–	1	–	3	–	–	13	7	1	3	3	7	41	–	27	92
	博	57	29	–	–	–	0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	1	–	–	16	1	–	1	–	–	20	–	37	57
法学政治学	修	12	–	6	–	–	6	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	1	–	–	–	–	–	–	–	1	3	–	3	12
	博	24	9	–	–	–	0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	6	–	–	2	–	–	–	1	2	12	–	12	24
	専	175	–	2	–	–	2	–	–	–	–	1	–	–	–	–	1	1	8	–	–	–	–	–	1	2	1	15	–	158	175
経済学	修	87	–	27	–	1	28	–	–	–	1	5	1	4	–	1	20	–	9	1	–	–	–	3	3	3	5	56	–	3	87
	博	13	5	–	–	–	0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	3	–	–	–	–	–	1	–	–	5	–	8	13
総合文化	修	217	–	70	–	2	72	–	–	–	–	17	–	31	2	2	6	1	7	2	5	3	–	5	8	5	19	113	–	32	217
	博	144	56	1	–	1	2	–	–	–	–	6	–	3	1	–	1	–	32	–	–	18	–	–	1	3	4	69	–	73	144
理学系	修	361	–	205	–	5	210	–	–	1	1	33	1	24	–	2	17	–	11	1	2	1	1	2	6	3	17	123	–	28	361
	博	193	34	1	–	–	1	–	–	–	–	28	2	13	1	1	7	–	64	–	–	2	4	2	–	3	5	132	–	60	193
工学系	修	1013	–	221	1	13	235	–	–	3	59	209	17	105	24	9	39	22	51	–	8	3	4	14	24	28	69	688	–	90	1013
	博	392	52	27	–	4	31	1	–	1	8	89	4	22	–	2	7	–	105	–	–	13	6	2	1	3	10	274	–	87	392
	専	13	–	–	–	–	0	–	–	–	–	1	9	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	11	–	2	13
農学生命科学	修	286	–	78	–	2	80	3	–	–	8	57	–	19	2	5	9	1	11	1	2	3	3	4	9	9	17	163	–	43	286
	博	104	23	1	–	1	2	3	1	–	–	6	–	3	–	–	–	–	36	–	–	2	1	–	–	1	5	58	–	44	104
	獣	8	–	–	–	–	0	–	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–	3	–	–	–	1	–	–	–	–	7	–	1	8
医学系	修	50	–	15	–	–	15	–	–	–	–	3	–	1	–	–	–	–	2	–	–	–	3	–	–	–	5	14	–	21	50
	博	25	8	–	–	–	0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5	–	–	6	–	–	–	–	–	11	–	14	25
	医	180	19	4	–	–	4	–	–	–	–	3	–	2	–	–	–	–	14	–	–	1	53	–	1	–	–	74	1	101	180
	専	39	–	12	–	1	13	–	–	–	–	–	–	1	–	–	1	–	3	–	1	–	7	–	2	2	2	19	–	7	39
薬学系	修	80	–	41	–	–	41	–	–	–	–	16	1	2	1	1	2	–	2	–	–	–	2	–	3	1	8	39	–	1	81
	博	44	2	–	–	1	1	–	–	–	–	15	–	1	–	–	–	–	13	–	–	2	4	–	–	1	4	40	–	3	44
	薬	4	–	–	–	–	0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	3	4	–	–	4
数理科学	修	34	–	23	–	–	23	–	–	–	–	–	–	6	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	9	–	2	34
	博	23	3	–	–	–	0	–	–	–	–	2	–	5	–	–	2	–	7	–	–	1	–	–	–	–	–	17	–	6	23
新領域創成科学	修	417	–	116	–	9	125	1	–	1	8	82	6	45	6	5	16	4	20	–	3	2	4	8	13	16	16	256	–	36	417
	博	182	37	–	–	–	0	1	–	1	4	38	–	10	–	–	3	–	59	1	–	9	3	–	–	1	2	132	–	50	182
情報理工学系	修	265	–	46	1	6	53	–	–	–	1	28	2	77	–	3	15	–	5	–	2	–	–	5	5	3	10	156	–	56	265
	博	65	13	2	–	–	2	–	–	–	–	2	–	13	–	–	1	–	21	–	–	1	1	–	1	–	2	42	–	21	65
学際情報	修	110	–	25	–	1	26	–	–	–	–	9	–	20	1	1	2	1	8	–	5	3	3	6	3	4	10	76	–	10	112
	博	38	19	1	–	–	1	–	–	–	–	1	–	4	2	–	–	–	8	–	–	2	–	1	–	–	1	19	–	18	38
公共政策	博	3	1	–	–	–	0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	1	3
	専	134	–	8	–	10	18	–	–	–	–	1	1	3	4	–	11	2	25	–	–	2	–	3	4	34	9	99	–	17	134
大学院合計	修	3147	–	969	2	41	1012	5	0	5	78	462	29	342	37	32	130	29	141	5	30	33	28	48	81	78	186	1779	0	359	3150
	博	1590	359	37	0	12	49	5	1	2	12	194	6	76	5	3	25	1	405	1	0	102	75	5	8	14	39	979	1	561	1590
	専	361	–	22	0	11	33	0	0	0	0	3	10	4	4	0	13	3	36	0	1	2	7	3	7	38	13	144	0	184	361

東京大学では以下の専攻を専門職学位課程としています。
- 法学政治学研究科 法曹養成専攻
- 公共政策学教育部 公共政策学専攻
- 工学系研究科 原子力専攻
- 医学系研究科 公共健康医学専攻

医学系の内訳については以下の通りです。
- 修……健康科学・看護学専攻、国際保健学専攻、医科学専攻
- 博……健康科学・看護学専攻、国際保健学専攻
- 医……医学博士課程
- 専……公共健康医学専攻

（注）1．「修」は修士課程、「博」は博士課程及び「専」は専門職学位課程を示す。
2．修了者数には、退学後論文を提出して学位を授与された者と満期退学者を含む。
3．農学生命科学研究科のうち、「博」は博士後期課程を、「獣」は獣医学博士課程を示す。
4．医学系研究科のうち、「博」は博士後期課程を、「医」は医学博士課程を示す。
5．薬学系研究科のうち、「博」は博士後期課程を、「薬」は薬学博士課程を示す。
6．合計は延べ数であり、修了者数と一致しない場合がある。

入試情報

詳細はこちらへ▶

入学者選抜試験には、一般選抜と学校推薦型選抜、特別選考があります。一般選抜は、分離分割方式（前期日程）により、第2次学力試験を実施します。前期日程ではいずれか一つの科類での出願となります。入学者の選抜は、学力試験（大学入学共通テストと第2次学力試験）と調査書によって行います。

■一般選抜の概要

東京大学では、アドミッション・ポリシーを実現するために、一般選抜（前期日程試験）では、主として総合学力で選抜する試験を実施しています。詳細は必ず「選抜要項」または「募集要項」で確認してください。

詳細はこちらへ▶

募集人員

科類	文科一類	文科二類	文科三類	理科一類	理科二類	理科三類
前期日程	401人	353人	469人	1,108人	532人	95人※

合計
2,958人

※現在、理科三類の2人の募集人員増（95人から97人）について、文部科学省に認可申請中であり、変更があり得る。なお、認可後あらためて本学Webサイト等で周知する。

試験期日　2026年2月25日（水）・26日（木）・27日（金）
試験会場　〔文科各類〕東京大学駒場Iキャンパス（東京都目黒区駒場）
〔理科各類〕東京大学本郷地区キャンパス（東京都文京区本郷及び弥生）

■学校推薦型選抜の概要

東京大学の学校推薦型選抜は、学部学生の多様性を促進し、それによって学部教育の更なる活性化を図ることに主眼を置いて実施します。実施に当たっては、日本の中等教育における先進的取組を積極的に評価し、高等学校等の生徒の潜在的多様性を掘り起こすという観点から、日本の高等学校等との連携を重視します。

東京大学学校推薦型選抜webサイト：https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_26.html

詳細はこちらへ▶

募集人員（合計100人程度）

- 法学部 …… 10人程度
- 文学部 …… 10人程度
- 教養学部 …… 5人程度
- 理学部 …… 10人程度
- 薬学部 …… 5人程度
- 医学部 …… 5人程度（うち、医学科3人程度、健康総合科学科2人程度）
- 経済学部 …… 10人程度
- 教育学部 …… 5人程度
- 工学部 …… 30人程度
- 農学部 …… 10人程度

推薦要件

学校長の推薦で、各校より合計4名（男女各3名以内、同一学部（医学部については各学科）への推薦は男女各1名以内）が出願できます。推薦要件は各学部ごとに異なります。

推薦要件に合致することを具体的に証明する書類として、例えば以下のようなものを求めます。

- 在学中に執筆・発表した論文や「総合的な学習の時間」による成果など
- 各種コンテストにおける成績など
- 外国語 語学力証明 TOEFL・英検・IELTS TestDaf・DALF・HSKなど
- 留学経験、国際通用性のある入学資格試験の成績 国際バカロレア・SATなど

※その他、社会貢献、芸術・文化・スポーツなどでの意欲的な活動など

試験期日（面接等）　2025年12月13日（土）・14日（日）

入学者選抜方法

合否判定は、出願書類の内容、面接等の審査結果および大学入学共通テストの成績を総合的に評価して行います。

なお、大学入学共通テストは、入学後の学修を円滑に行い得る基礎学力を有しているかどうかを判断する観点から、概ね8割以上の得点であることを目安としています。

学校推薦型選抜の流れ

2025年	7月中	入学者選抜要項、募集要項の公表
	10月中旬	インターネット入学志願票作成開始
	11月上旬	出願受付
	11月中旬	書類審査
	12月上旬	第1次選考合格者の発表
	12月中旬	面接等実施
2026年	1月	大学入学共通テスト
	2月中旬	最終合格者発表

入学後の学修

学校推薦型選抜で入学した学生が本学、ひいてはグローバル社会の活力の源として活躍することを期待しています。

文科一類・文科二類・文科三類・理科一類・理科二類・理科三類の6つの科類のうち、志望学部が指定する科類に分かれ、教養学部に所属して前期課程の学修を行います。

前期課程では、志望分野に対する関心や学ぶ意欲にきめ細かく応えることが可能となるよう、早期に専門教育に触れる機会の提供や、教員から個別に助言、支援を受けられる学修環境が用意されます。

■特別選考の概要

東京大学は、多様性を活力とするキャンパスづくりを目指して、外国の学校を卒業した者等を対象として特別の入学者選抜を実施します。

詳細はこちらへ▶

第1種（私費留学生）
試験期日　2026年2月25日（水）・3月4日（水）
募集人員　若干名

第2種（帰国生徒）
試験期日　2026年2月25日（水）・26日（木）・3月4日（水）
募集人員　若干名

※第1種、第2種の他に国費等と学部英語コース（PEAK）の特別選考があります。

学校推薦型選抜Q&A

東京大学では、多様な学生構成の実現と学部教育のさらなる活性化をめざし、2016年度入学者選抜から学校推薦型選抜を実施しました。この学校推薦型選抜について、寄せられた代表的な質問とその回答をご紹介します。

学校推薦型選抜の目的について

Q. なぜ学校推薦型選抜を導入したのですか?

本学の学校推薦型選抜は、学部学生の多様性を促進し、それによって学部教育のさらなる活性化を図ることに主眼をおいて実施します。

選抜に当たっては、受験対策を超えた多様な取組を教育の一環として行う高等学校等が近年増え続けていることを視野に入れ、その成果を適切に評価していきたいと考えています。

前期日程試験との関係について

Q. 学校推薦型選抜に不合格になった場合は、東京大学の前期日程試験を受験できますか?

受験可能です。ただし、学校推薦型選抜の合格発表は2月中旬ですが、前期日程試験の出願期間は1月下旬から2月上旬のため、学校推薦型選抜に不合格になった場合に備えて、予め本学の前期日程試験に出願する必要があります。なお、学校推薦型選抜に合格した場合は、前期日程試験の合格者とはなりません。

出願資格について

Q. 外国の高等学校の卒業生は、この学校推薦型選抜には応募できないのですか?

学校推薦型選抜では日本の高等学校等（文部科学大臣が認定した在外教育施設を含む）との連携を重視していることから、外国学校の卒業生については出願資格がないものとしています。なお、外国学校卒業学生を対象とした特別選考を別に実施しています。

書類選考について

Q. 書類選考を経て面接等を受けられるのはどの程度の人数になりますか?

募集要項や本学の学校推薦型選抜Webサイトにて、過去の合格者数を公開しておりますので、参考にご覧ください。

提出書類について

Q. 学部が求める書類・資料に記載されているものでないと、推薦要件に合致することを具体的に証明できる書類・資料とならないのですか?

各学部が求める書類・資料については、「例えば」と記載のある学部の場合は、「例示」となってますので、推薦要件に合致することを具体的に証明できる書類・資料であれば、記載されている以外の書類・資料とすることができます。

大学入学共通テストについて

Q. なぜ大学入学共通テストを課すのですか?書類選考と面接等のみで選考することはできないのですか?

本学の教育理念として、幅広いリベラル・アーツの学修を前提としており、そのためには、現在の大学入学共通テストで課されている程度の基礎学力は必要と考えています。

合否判定は、出願書類の内容、面接等の審査結果、大学入学共通テストの成績の3つを総合的に評価して決定します。合否判定に当たっては、大学入学共通テストの成績のみを重視することは考えておらず、また、成績の利用方法としても、1点刻みではなく、入学後の学修を円滑に行い得る基礎学力を有しているかどうかを判定する観点から、大学入学共通テストを課しています。

入学後の学修について

Q. 学校推薦型選抜での入学者については、進学選択制度の対象にならないという理解で良いのですか?また、入学後に進学先を変更することはできますか?

学校推薦型選抜によって入学した者については、進学選択制度の対象にはなりません。また、原則として出願時に志望した学部等へ進学することとなります。

海外留学経験について

Q. 海外留学経験を積極的に評価する学部があるのはなぜですか?

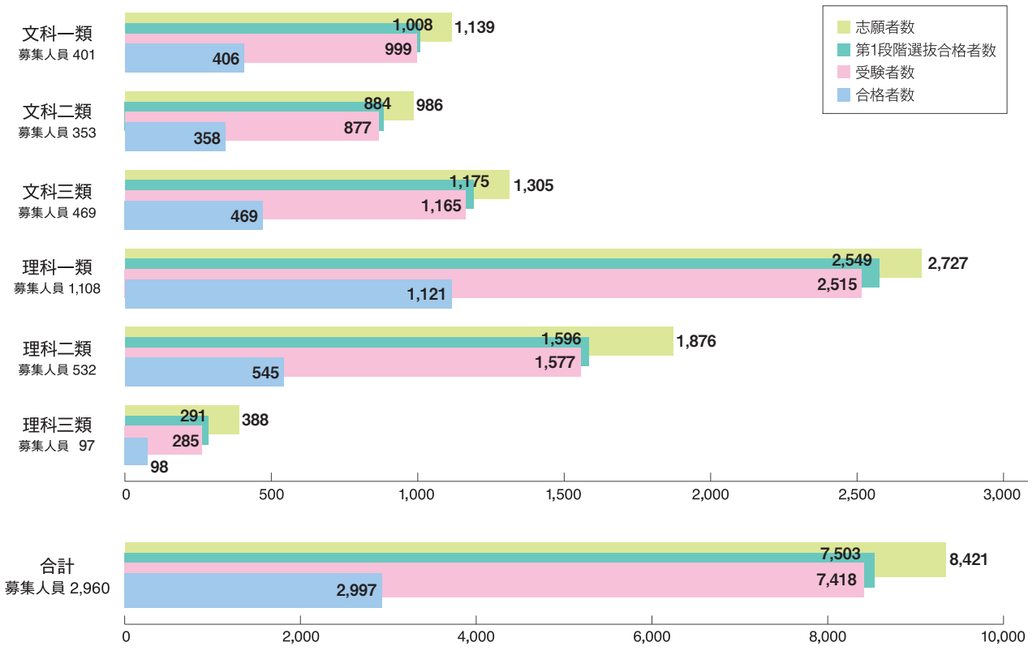
本学の基本姿勢として、海外留学経験を積むことは、視野を拡げ、知的関心を刺激し、精神面の成長を助けるなど、好ましい効果が期待できるという判断があります。ただし、海外留学をしていればただちに有利になるというものではなく、あくまで、その経験による成果が評価の材料の１つとなるものです。したがって、海外留学経験のない受験生が一方的に不利になるというものではありません。

詳細はこちらへ▶

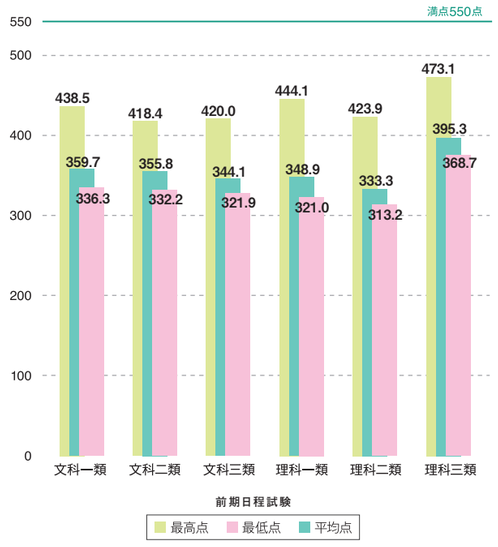
学校推薦型選抜に関する情報
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_26.html

入試データ［令和7（2025）年度入試］

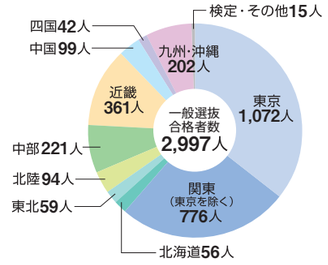
■ 一般選抜（前期日程試験）募集人員・合格者数等

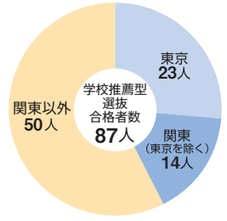


■ 一般選抜（前期日程試験）合格者科類別成績

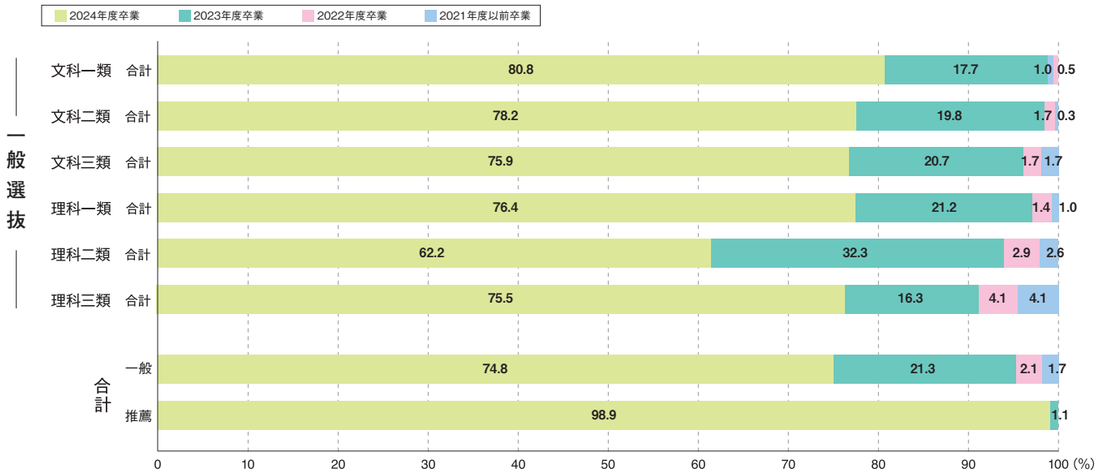


■ 出身校所在地別合格者数



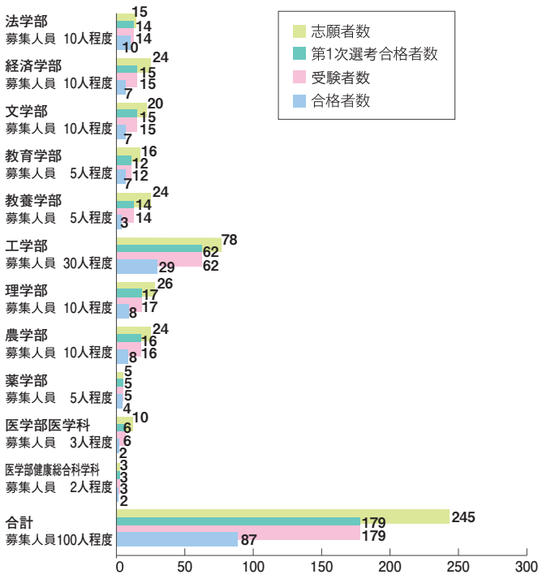


■ 高校卒業年度別合格比率



（注）外国学校卒業学生特別選考を除く。

■ 学校推薦型選抜　募集人員・合格者数等



■ 外国学校卒業学生特別選考志願者数・合格者数

科　類	区分／種別	志願者数	第1次選考合格者数	合格者数
文科一類	第1種	21	7	4
	第2種	16	7	4
文科二類	第1種	27	6	2
	第2種	12	9	5
文科三類	第1種	37	10	6
	第2種	8	4	3
理科一類	第1種	49	12	4
	第2種	13	4	2
理科二類	第1種	32	11	6
	第2種	2	2	0
理科三類	第1種	1	0	0
	第2種	5	2	0
合　計	第1種	167	46	22
	第2種	56	28	14

（注）第1種：私費留学生／第2種：帰国生徒

■ 入学者数

科　類	一般選抜	学校推薦型選抜	特別選考（第1種）	特別選考（第2種）	特別選考（国費等）	入学者総数
文科一類	406	10	4	4	2	426
文科二類	358	7	2	5	0	372
文科三類	467	16	6	3	3	495
理科一類	1,117	36	4	2	6	1,165
理科二類	541	16	5	0	2	564
理科三類	98	2	0	0	0	100
合　計	2,987	87	21	14	13	3,122

東京大学進学Q&A

大学への進学は、人生にとって大きなイベントです。学部の教育内容や入試に関する情報、さまざまな制度や学費についての疑問が生じることと思います。さらに、地方から進学する場合は、受験時の宿泊先や合格後の生活にかかる費用等も気になるのではないでしょうか。ここでは、東京大学入試事務室に寄せられた代表的な質問とその答えを「受験」「教育」「学生生活」「就職」の4つに分けてご紹介します。

受験について

Q. 東京大学や各学部について、もっと詳しく知りたい。

東京大学では、1年を通して高校生等が参加できる各種イベントを開催しています。主なものとして、オープンキャンパス(8月)や学生ガイドによるキャンパスツアーがありますが、その他にも、五月祭(5月)や駒場祭(11月)があります。
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/

また、教養学部の「高校生のための金曜特別講座(夏・冬学期)」等、体験授業などを開催しているところがあります。学部が独自に作成しているパンフレットやWEBサイトをご覧ください。
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/schools-orgs/

Q. 募集要項を入手したい。

各選抜とも紙での配布はしていませんので、本学WEBサイトからダウンロードをしてください。

Q. 入学前に、東京大学の教員と話をする機会はありますか?

オープンキャンパス、大学説明会や、学部等で行われている体験授業等に参加すると、教員と直接話をする機会があります。自分がやりたいことが東京大学にあるか、探しにきてください。

Q. 年齢が高い人や浪人生は不利ですか?

一般選抜において年齢が高いという理由で不利になることはありません。また、浪人生という理由で不利になることもありません。他の選抜については、募集要項の出願要件等を確認してください。

Q. 試験日・会場を教えてほしい。

【一般選抜(前期日程試験)】
・期日:2026年2月25日(水)、26日(木)、27日(金)
・会場:駒場キャンパス(文科各類)/本郷キャンパス(理科各類)
【学校推薦型選抜】
・期日:2025年12月13日(土)、14日(日)
・会場:駒場キャンパス(教養学部)/本郷キャンパス(教養学部以外の学部)
【外国学校卒業学生特別選考】
・期日:2026年2月25日(水)、26日(木)、3月4日(水)
・会場:本郷キャンパス

なお、詳細は募集要項で確認してください。
試験会場を間違えた場合、その会場では受験することができません。駒場キャンパスと本郷キャンパスのそれぞれの最寄り駅間の所要時間は、約50分です。

Q. 受験時の宿泊先を斡旋していますか?

東京大学入試事務室では斡旋しておりませんので、東大生協や旅行会社をご活用ください。例えば東大生協では、9月下旬頃から斡旋を行っています。詳しくは下記WEBサイトをご覧ください。なお、試験会場周辺には十分な宿泊施設がありませんので、お気を付けください。
▶東京大学生協「受験生・新入生応援サイト」
https://text.univ.coop/puk/START/utcoop/

Q. 一般選抜の出願状況を知ることはできますか?

出願期間(2026年1月26日〜2月4日)中、以下のサイトで確認できます。
▶ホームページ https://www.u-tokyo.ac.jp/
(出願期間中は、土日祝日を除き、毎日15時頃に更新予定)。

Q. 一般選抜の合否結果はどのように知ることができますか?

本学WEBサイトに掲載するとともに、受験者は「ウェブ合否照会」から合否確認することが可能です。詳細は、11月に配布開始する募集要項で確認してください。

教育について

Q. 進学選択とはなんですか、また「指定科類」枠、「全科類」枠とはなんですか?

東京大学では、学校推薦型選抜の合格者等を除き、原則として入学時にはどの学部・学科に所属するのかは決まっていません。1・2年生時にはすべての入学者が、駒場キャンパスにある教養学部前期課程に所属し、専門に特化しない幅広い授業を受けることになります。そして2年生のS2ターム終了時点で、3年生で進学する学部・学科等を本人の志望と、それまでの学修成績等によって決定します。この手続きを進学選択と呼んできます。

進学選択は、特定の科類からの進学枠を指定した「指定科類」枠と、科類を指定しない「全科類」枠の二つの枠によって行われます。

(1)「指定科類」枠
・主として進学できる学部(11ページ参照)にある科類枠
・主として進学できる学部ではないが、特定の科類から一定数を学部として受け入れる場合の枠
(2)「全科類」枠
すべての科類に開かれた進学枠

Q. 1・2年生から専門的な勉強をすることはできますか、また3年次に進学する各学部の専門科目は、いつごろから開講されますか?

教養学部前期課程(1・2年)の選択科目として、専門的な内容を含む科目も開講されています。ただし、後期課程の各学部の専門科目が開講されるのは法学部、文学部、教育学部では2年生のS1タームから、それ以外では2年生のA1タームとなります。

教養学部前期課程では、幅広い教養や視点を修得するというだけでなく、各学部、大学院へと進学したときに基礎となる学問的力量を身につけることも要求されています。

Q. 興味の範囲が広く、さまざまな分野を学びたいのですが?

教養学部前期課程(1・2年)の選択科目は、科類に関係なく履修ができるため、複数の分野の基礎を学ぶことは十分に可能です。まずは、東京大学の特色であるリベラル・アーツ教育(12ページ参照)でさまざまな学問分野を体験した上で、自らの進む道をある程度絞り、進学する学部・学科を一つ選ぶことになります。

後期課程(3・4年)において所属できる学部・学科は一つだけですが、自分が所属していない学部・学科の科目でも履修できます。また、それらの科目が卒業に必要な単位として認定される場合もあります。

学生生活について

Q. 奨学金や授業料免除について知りたい。

39ページを参照してください。代表的な奨学金である日本学生支援機構の奨学生の募集は、毎年春と秋に行われます。WEBサイト等で周知しますので、見落としのないようにしてください。

大学入学前に申し込める予約奨学生制度もあります。詳細は、在籍/卒業高校や日本学生支援機構にお問い合わせください。

東京大学の行う授業料免除については、40ページ、WEBサイトを参照してください。
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/tuition-fees/h01_02.html

Q. 日本学生支援機構給付奨学生として採用され、第Ⅱ区分または第Ⅲ区分に認定されています。授業料は全額免除にならないのですか。

日本学生支援機構の給付奨学生で、第Ⅰ区分または多子世帯に認定されている場合は、国の「高等教育の修学支援新制度」により授業料が全額免除されます。さらに、東京大学では独自の支援として、第Ⅱ区分及び第Ⅲ区分に認定された者についても、大学の予算を用いて授業料を全額免除しています。

詳しくは40ページやWEBサイトをご参照ください。
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/tuition-fees/h01_02.html

Q. 入学にかかる費用はどのくらいですか、また一人暮らしの費用はどのくらいですか?

入学料として282,000円、授業料(年額)として642,960円かかります。どちらも2025年度の金額です。

学生生活実態調査(2023年)によれば、46.8%の学生が自宅外で暮らしており、単身者の生活費は月平均で116,250円となっています。

Q. 住まいの紹介をしてほしい。

アパート・賃貸物件の紹介は、東大生協が扱っています。住まい探しに関わる資料を作成しており、WEBパンフレットもしくは無料で資料を送付するサービスを行っています。例年、新入生のために駒場キャンパス等で「住まい相談会」を開催しています。資料請求および相談会に関する連絡先は下記のとおりです。
▶東京大学生協「東大生協のお部屋発見」
https://utcoop.re-ws.jp/

Q. 在学中にインターンシップをすることはできますか?

インターンシップは学業に支障が出ない範囲で参加できます。インターンシップといってもいろいろな種類のものがありますので、詳しくは各学部の窓口、キャリアサポート室(41ページ参照)等にお問い合わせください。また、学部や学科によっては、独自のインターンシップ制度を行っているところもあります。

Q. 課外活動にはどのようなものがありますか?

課外活動団体のうち、東京大学運動会に加入している運動部、大学へ設立・継続の届出を行っているサークル等については、この冊子(47ページ)で一部を紹介しているほか、WEBサイトでは一覧を掲載しています。
http://www.undou-kai.com/club_introduction/
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/clubs/h09_01.html

この他にも、学生の自主的・自律的な運営のもと、多彩な課外活動が展開されています。

Q. 東京大学の学生は、アルバイトをしていますか、また大学でアルバイトの紹介を受けることができますか?

学生生活実態調査(2023年度)によれば、83.8%の学生がアルバイトをしていると回答しています。また、アルバイトをする主な理由は、生活費を稼ぐためだけではなく、「学生生活を楽しむため」であり「社会経験のため」と答えています。

東京大学では、家庭教師・塾講師・学内の実験参加者募集など、大学生にとって好ましいと判断されるアルバイトを紹介しています。駒場キャンパスの学生支援課厚生チーム窓口で紹介を受けることができます。

Q. 東京大学は女子学生が少ないのですか?

現在、東京大学で学ぶ女子学生は、学部生3,022名、大学院生4,195名で学生全体の約25%です。東京大学では、もっと沢山の女子高校生に入学してもらえるよう、いろいろな取組みを行っています。例えば、女子高校生と在学女子学生との交流会を開催していますし、2006年12月には女子高校生を対象とした大学説明会をスタートさせ、今年は10月25日に開催する予定です。学部単位でも、女子高校生向けの体験授業等を開催しています。

就職や進学といった場面では、OGの団体や現役学生のサークルも女子学生を応援しています。

これらの機会を積極的に利用してください。

就職について

Q. 学部卒業後の主な就職先について知りたい。

58〜59ページに掲載してあります。さらに詳しく知りたい場合は、学科・専修・コースといった単位で卒業生の就職先を公表しているところもありますので、WEBサイト、パンフレット等で調べてみてください。

Q. 卒業生と知り合うチャンスはありますか?

様々な場面で知り合う機会があります。課外活動団体やOBOG会を通じて出会ったり、学部によっては、就職活動サポート行事の一環として、卒業生を招くイベントを実施しているところもあります。

また、キャリアサポート室ではOBOG座談会も実施しています。就職活動にあたってOBOG訪問を行う際は、キャリアサポート室で情報を得ることができます。
https://www.careersupport.adm.u-tokyo.ac.jp/

駒場地区キャンパス

東京大学に入学した学生全員が、前期課程の2年間を過ごすのが駒場地区キャンパスです。駒場東大駅前を降りるとすぐに広がる緑豊かなキャンパスには、正門から真正面に見えるゴシック様式の時計台（1号館）を中心に、数々の教育棟や研究棟が充実しています。一般に開放されている駒場博物館、それと対をなすデザインの900番教室（講堂）等歴史的価値のある建造物も多数あります。また広いグラウンドやラグビー場、テニスコート、野球場など体育施設も万全です。1･2年生が多い駒場にはサークル棟があり、学生生活を彩るサークル活動の基地としての機能も果たしています。

駒場Ⅱ・駒場Ⅲキャンパス

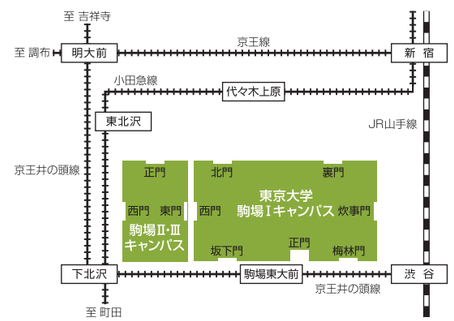
1 正門	19 先端科学技術研究センター3号館南棟
2 車庫棟	20 先端科学技術研究センター3号館
3 1号館（風洞実験棟）	21 試作工場
4 生産技術研究所研究棟（B～F棟）	22 設備センター
5 東門	23 埋蔵文化財調査室
6 先端科学技術研究センター13号館	24 生協食堂
7 先端科学技術研究センター14号館	25 西門
8 15号館	26 テニスコート
9 生産技術研究所総合研究実験棟（An棟）	27 インターナショナル・ロッジ 駒場ロッジ別館
コンベンションホール	28 ロッジ多目的ホール
10 生産技術研究所総合研究実験棟（As棟）	29 駒場オープンラボラトリー
11 生産技術研究所研究棟（T棟）	30 ユニバーシティ広場
12 生産技術研究所図書棟	31 インターナショナル・ロッジ駒場ロッジ本館
13 テニスコート	32 インターナショナル・ロッジ駒場ロッジA棟
14 59号館	33 インターナショナル・ロッジ駒場ロッジB棟
15 生産技術研究所研究棟（S棟）（60年記念館）	34 インターナショナル・ロッジ駒場ロッジC･D棟
16 連携研究棟（CCR棟）	
17 生産技術研究所食堂・会議室	
18 先端科学技術研究センター4号館	

駒場Ⅰキャンパス

1 正門	17 駒場ファカルティハウス	35 10号館
2 坂下門	18 2号館	駒場アカデミック・ライティング・センター（CAWK）
3 西門	19 12号館	36 18号館
4 北門	20 11号館	37 8号館
5 裏門	21 13号館	多様性包摂共創センター バリアフリー推進オフィス駒場支所
6 炊事門	22 14号館	38 9号館
7 梅林門	23 三昧堂	39 21 Komaba Center for Educational Excellence (21 KOMCEE)
8 アドミニストレーション棟	24 15号館	a. West
9 駒場博物館	25 16号館	グローバル教育センター駒場支部
10 101号館	26 駒場国際教育研究棟（KIBER）	グローバリゼーションオフィス
11 1号館	27 17号館	b. East
学生相談所	28 3号館	40 課外活動共用施設
進学情報センター	29 温室	41 学生会館
12 情報教育棟A	30 5号館	42 ロッカー棟
13 情報教育棟B	31 アドバンスト・リサーチ・ラボラトリー	43 19号館
14 駒場保健センター	32 格技場	44 全学共同利用施設
15 102号館	33 弓道場	45 第2体育館
ハラスメント相談所（駒場相談室）	34 7号館	46 第1体育館
16 講堂		47 男女共同参画支援施設

48 キャンパスプラザA棟
49 キャンパスプラザB棟
50 多目的ホール
51 駒場図書館
52 柏蔭舎
53 数理科学研究科棟
54 第二グラウンド
55 テニスコート
56 テニスコート
57 野球場
58 ラグビー場
59 第一グラウンド
60 テニスコート
61 駒場コミュニケーション・プラザ
a. 北館
b. 南館
c. 和館
62 初年次活動センター
63 数理アネックス

東京大学 駒場地区キャンパスへのアクセス



駒場Ⅰキャンパスへの経路
- 渋谷駅（JR山手線等）より
  京王井の頭線（吉祥寺方面行）
  →「駒場東大前」駅下車
- 下北沢駅（小田急線）および
  明大前駅（京王線）より
  京王井の頭線（渋谷方面行）
  →「駒場東大前」駅下車

駒場Ⅱ・駒場Ⅲキャンパスへの経路
- 代々木上原駅（小田急線・東京メトロ千代田線）
  より徒歩12分
- 東北沢駅（小田急線）より徒歩8分
- 駒場東大前駅西口（京王井の頭線）より徒歩10分
- 池ノ上駅（京王井の頭線）より徒歩10分

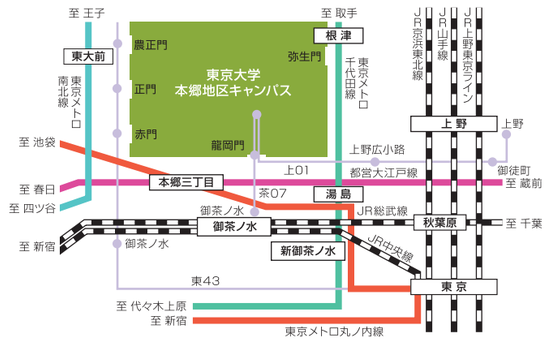
本郷地区キャンパス

赤門、安田講堂、銀杏並木に三四郎池…。東京大学を象徴する風景が広がる本郷地区キャンパスには、国の重要文化財や登録有形文化財が多数あります。積み重ねられてきた圧倒的な時間。そして最新の研究から紡がれていく未来。学生たちにとって、この二つが同居するキャンパスを、自らの学びの本拠地とすること自体が大きな誇りです。本郷は「東京大学キャンパス計画」の三極（本郷・駒場・柏）構造の重心をなすキャンパスでもあります。後期課程から大学院におよぶ教育と研究を行い、未来を担うアカデミックプランを実現していく中心的役割を担っています。

本郷地区キャンパス

1 安田講堂	26 テニスコート	53 病院・入院棟A	86 工12号館別館	116 農学部9号館
2 山上会館	27 アントレプレナープラザ	54 病院・入院棟B	87 工13号館	119 フードサイエンス棟
3 三四郎池（育徳園心字池）	28 向ヶ岡ファカルティハウス	55 病院・中央棟北	88 工14号館	120 生命科学総合研究棟B
4 中央食堂（地下）	29 伊藤国際学術研究センター	56 病院・中央棟東	89 武田先端知ビル	121 蛋白質研究棟
5 第2食堂	伊藤謝恩ホール	57 病院・中央棟南	武田ホール	122 情報学環・学際情報学府
6 本部棟	エグゼクティブ・マネジメント・プログラム室	58 病院・中央診療棟1	90 工・船舶運動性能試験水槽	123 情報学環・福武ホール
多様性包摂共創センター ジェンダー・エクイティ推進オフィス	未来ビジョン研究センター	59 病院・中央診療棟2	91 工・船型試験水槽	124 情報学環・ダイワユビキタス学術研究館
7 総合図書館本館	30 法文1号館	60 病院・臨床研究棟西	92 工・キャビテーションタンネル	125 地震研究所1号館
8 総合図書館別館	31 法文2号館	61 病院・臨床研究棟東	93 工・ものづくり実験工房	126 地震研究所2号館
9 七徳堂	32 法3号館	62 分子ライフイノベーション棟	94 工・動力実験装置室	127 地震研究所3号館
10 第2本部棟	33 法4号館	63 病院・管理・研究棟	95 工・風工学実験室	128 定量生命科学研究所
グローバル教育センター	34 総合研究棟	64 病院・臨床研究棟A	96 工・超高圧電子顕微鏡室	129 東洋文化研究所
大学総合教育研究センター	35 法学政治学系総合教育棟	65 病院・南研究棟	97 I-REF棟	130 社会科学研究所
本郷保健センター	36 文3号館	66 病院・臨床試験棟	98 理1号館（東棟）	131 史料編纂所
未来ビジョン研究センター	37 赤門総合研究棟	67 病院・臨床研究棟北	グローバル教育センター	132 総合研究博物館
東京カレッジ	38 経済学研究科棟	68 病院・設備管理棟	99 理1号館（中央棟）・小柴ホール	133 タンデム加速器研究棟
11 懐徳館	39 国際学術総合研究棟	69 薬学部本館	100 理1号館（西棟）	134 環境安全研究センター
12 育徳堂（弓道場）	公共政策学連携研究部・教育部	70 薬学系総合研究棟	素粒子物理国際研究センター	135 環境安全研究センターアネックス
13 プレハブ研究A棟（第二食堂隣）	40 経済学研究科学術交流棟・小島ホール	71 薬学部資料館	101 理2号館	136 アイソトープ総合センター
相談支援研究開発センター	41 教育学部	72 先端創薬棟	102 理3号館	137 情報基盤センター
14 弥生講堂	42 医1号館	73 工・列品館	103 理4号館	138 情報基盤センター別館
15 弥生講堂アネックス	文書館	74 工1号館	104 理7号館	139 低温科学研究センター
16 広報センター	ハラスメント相談所	75 工2号館	105 理・化学館	
17 山上会館龍岡門別館	高大接続研究開発センター	76 工3号館	106 農1号館	
18 産学連携プラザ	ニューロインテリジェンス国際研究機構	77 工4号館	107 農2号館	
19 御殿下グラウンド	43 医2号館本館	78 工5号館	108 農2号館別館	
20 硬式野球場	44 医・総合中央館（図書館）	79 工6号館	109 農3号館	
21 農学部グラウンド	45 医3号館	80 工7号館	110 農5号館	
22 御殿下記念館	46 医3号館別棟	81 工8号館	111 農6号館	
学生支援センター	47 医・生命科学実験棟	82 工9号館	112 農7号館A棟	
多様性包摂共創センター バリアフリー推進オフィス本郷支所	48 医4号館	総合研究機構	113 農7号館B棟	
キャリアサポート室	49 医5号館	83 工10号館	114 農学生命科学図書館	
23 コミュニケーションセンター	50 医・教育研究棟	84 工11号館	115 農学資料館	
24 陸橋	51 医・国際共同研究棟	HASEKO-KUMA HALL	116 生命科学総合研究棟A	
25 テニスコート	52 病院・外来診療棟	85 工12号館	117 動物医療センター	

東京大学 本郷地区キャンパスへのアクセス



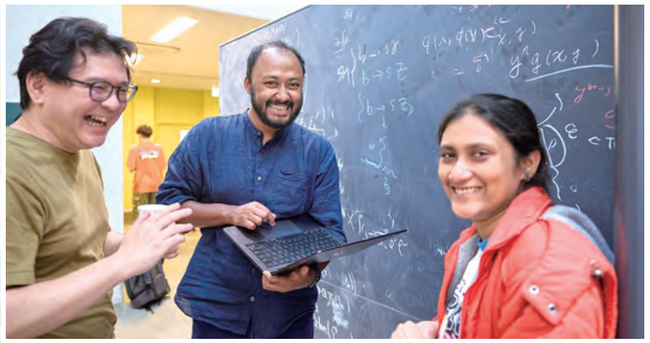
- ●本郷三丁目駅（東京メトロ丸の内線）より徒歩8分
- ●本郷三丁目駅（都営地下鉄大江戸線）より徒歩6分
- ●湯島駅又は、根津駅（東京メトロ千代田線）より徒歩8分
- ●東大前駅（東京メトロ南北線）より徒歩1分
- ●春日駅（都営地下鉄三田線）より徒歩10分
- ●御茶ノ水駅（JR中央線、総武線）より
  〈地下鉄利用〉東京メトロ丸ノ内線（池袋行）→「本郷三丁目」駅下車
  東京メトロ千代田線（取手方面行）→「湯島」駅又は「根津」駅下車
  〈都バス利用〉茶51駒込駅南口又は、東43荒川土手操車所前行→
  「東大赤門前、東大正門前、東大農学部前」下車
  茶07東大構内行→「龍岡門、東大病院前、東大構内」下車
- ●上野駅（JR山手線等）より
  〈都バス利用〉上01東大構内行「上野公園山下」→
  →「龍岡門、東大病院前、東大構内」下車
- ●御徒町駅（JR山手線等）より
  〈都バス利用〉都02大塚駅前又は、上69小滝橋車庫前行
  →「湯島四丁目、本郷三丁目駅前」下車

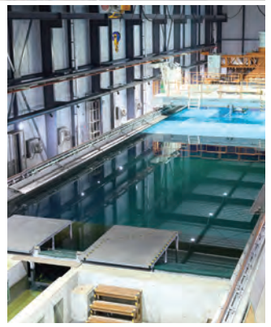
柏地区キャンパス

東京大学の第三極として、教育・研究の新たな展開の場となっているのが柏地区キャンパスです。柏キャンパスは、広大な敷地に、大学院新領域創成科学研究科、宇宙線研究所、物性研究所、大気海洋研究所、国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構、空間情報科学研究センター、情報基盤センター（一部）、生産技術研究所（一部）などがあり、大学院や研究所等を中心とする拠点となっています。ここでは、知の冒険を通じて、既存の枠を超えた新しい学問領域の創造が展開されており、最先端・大型の特殊実験施設が整備されています。また、近接した「柏IIキャンパス」には情報基盤センターや産学官民連携棟、インターナショナルロッジ（柏ロッジ）が、柏の葉キャンパス駅前には、周辺施設との協働を通じた都市環境の魅力向上に寄与する「柏の葉キャンパス駅前サテライト」を設置するなど、キャンパス全体が挑戦的な研究の場らしい開放感にあふれています。

柏キャンパス

- 1 中央口
- 2 柏図書館
- 3 大気海洋研究所
- 4 大気海洋研加速器実験棟
- 5 大気海洋研海洋観測機器棟
- 6 新領域環境棟
  - グローバル教育センター柏支部
  - サステイナブル社会デザインセンター
  - 学生相談所
  - ピアサポートルーム
- 7 新領域生命棟
  - 生命データサイエンスセンター
- 8 新領域基盤棟
  - 多様性包摂共創センター
  - バリアフリー推進オフィス本郷支所柏分室
- 9 新領域基盤科学実験棟
  - フュージョンエネルギー学際研究センター
- 10 物性研究所
  - 柏地区共通事務センター
- 11 物性研低温・多重極限実験棟
- 12 物性研ショートパルス強磁場実験棟
- 13 物性研先端分光実験棟
- 14 物性研ロングパルス強磁場実験棟
- 15 物性研極限光科学実験棟
- 16 カブリ数物連携宇宙研究機構
- 17 宇宙線研究所
- 18 総合研究棟
  - 空間情報科学研究センター
  - （新領域）メディカル情報生命専攻
  - （大海研）気候システム研究系
  - 文書館（柏分館）
  - ハラスメント相談所（柏相談室）
- 19 第2総合研究棟
- 20 共同利用棟
- 21 新領域情報生命科学実験棟
  - 生命データサイエンスセンター
- 22 環境安全研究センター柏支所
- 23 生産技術研究所研究実験棟I
- 24 生産技術研究所研究実験棟II
- 25 生産技術研究所テンセグリティ構造モデルスペース／ホワイトライン/II
- 26 柏保健センター
- 27 食堂（お魚倶楽部はま）
- 28 食堂（プラザ憩い）
- 29 売店（生協）
- 30 売店・食堂（生協）
- 31 食堂（カフェテリア）
- 32 柏ゲストハウス
- 33 東京大学　丸和　柏FUSIONフィールド





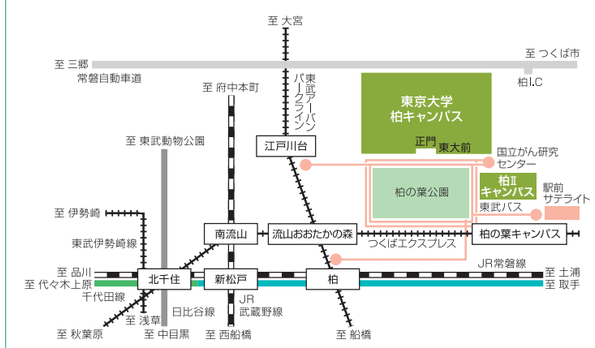
柏IIキャンパス

- 34 産学官民連携棟
- 35 情報基盤センター
- 36 （産総研）AIデータセンター棟
- 37 （産総研）社会イノベーション棟
- 38 国立情報学研究所 柏分館
- 39 特高変電所
- 40 インターナショナル・ロッジ柏ロッジ
- 41 新世代感染症センター

柏の葉駅前キャンパス

- 42 柏の葉キャンパス駅前サテライト

東京大学 柏地区キャンパスへのアクセス



- ●柏の葉キャンパス駅西口（つくばエクスプレス線）より
  〈東武バス利用〉西柏03柏の葉公園循環、東大西行、十余二行→「東大前」、「東大西」下車／西柏04江戸川台駅東口行（国立がん研究センター経由）→「東大前」、「東大西」下車／西柏10江戸川台駅東口行（みどり台中央経由）→「東大前」、「東大西」、「東大西門前」下車
  〈　徒　歩　〉約25分
- ●柏駅西口（JR常磐線、東武アーバンパークライン）より
  〈東武バス利用〉西柏01国立がん研究センター行（県民プラザ経由）
  →「東大西」、「東大前」下車
  柏44国立がん研究センター行（柏の葉公園中央経由）
  →「国立がん研究センター」下車
- ●江戸川台駅東口（東武アーバンパークライン）より
  〈東武バス利用〉西柏04柏の葉キャンパス駅西口行（国立がん研究センター経由）→「東大西」、「東大前」下車／西柏10柏の葉キャンパス駅西口行（みどり台中央経由）→「東大西門前」、「東大西」、「東大前」下車
- ●常磐自動車道
  柏I.C千葉方面出口から国道16号線へ500m先「十余二工業団地入口」交差点を右折

キミの東大
UTokyo. your university

高校生・受験生が
東京大学をもっと知るためのサイト

「キミの東大」は、高校生・受験生が東大生になった自分自身をイメージできるよう、
様々な情報を伝えるウェブサイトです。

まずは東大の基本情報を知ろう！

●東大の進学選択制度や歴史を紹介

東京大学の基本的な情報を知りたい方は、ぜひ「東大ことはじめ」をご覧ください。東大の歴史や授業、大学の施設や課外活動まで、東大生の先輩が幅広く紹介しています。

先輩たちはなぜ東大を受験したの？東大生ってどんな人たち？

なぜ東大を目指したの？学校推薦型選抜にチャレンジしたのはなぜ？東大で何をしているの？そんな疑問に答えるインタビュー記事が多数あります。

新入生へのインタビュー

受験勉強で感じた都会と地方の教育格差を縮めるため、経済学の視点から現状を捉え、解決方法を模索していきたい。
（文科二類）

広域な知識を身につけ、専門分野である医学をベースにして、異なる分野と融合した研究がしたい。
（理科三類）

推薦生へのインタビュー

平和をめざす国際法としての世界遺産条約の研究から、東大で幅広く法を学び、さらなる国際法理解につなげたい。
（法学部）

身近な科学としての薬への関心。創薬研究者として新薬の開発に貢献していきたい。
（薬学部）

未来の東大女子へ

東大の女子学生は、どのような高校生活を送り、東大ではどんな学校生活を過ごしているの？東大を目指している受験生はもちろん、とくに未来の東大女子のみなさんに、現役の東大女子からのメッセージをお届けいたします。

東大生としての生活をどのようにスタートさせたの？

●住まい

東大の学生宿舎での暮らしや「女子学生向けの住まい支援」を活用している学生の住まいを紹介。東大生がどんなところに住んでいるか、わかります。

●食生活

東大生の食生活に迫る企画では、学生生活を支える東大の学食の特徴や自炊／外食頻度といった東大生の日々の食事情を取り上げます。

キミの東大
https://kimino.ct.u-tokyo.ac.jp

東大での学びを知ろう！

●東大ではさまざまな外国語を学べます ～東大生、語学を楽しむ～

第２外国語を選んだ理由や授業の雰囲気、言語を学んで気づいたことなど、語学に対する東大生の本音を紹介します！

●教養こそが、キミの研究を加速させる ～東大式 進学選択ナビ

東大生ならば、必ず通る通過点。受験を前に不安に感じている方も多いのでは？
進学選択をクローズアップさせて、教養を学ぶ意義について、取り上げます！

東大の先生の研究を知ろう！

何をどのように研究しているの？なぜ研究者になったの？どんな人が研究に向いている？
そんな疑問に、東大の教員が答えます。

ひとつの疑問をとことん突き詰めたい人に「哲学」を
（教養学部・石原孝二教授）

建築学では基礎研究と社会に役立つ研究を行き来できます
（工学部・藤田香織教授）

人々がより健康に暮らせる社会を作る力になりたい。それが研究の原動力です
（医学部・橋本英樹教授）

東大生は何を考えているの？ 東大生をもっと身近に感じたい！

●STUDENT VOICE

東大生が東大生をインタビュー。学生目線で魅力をたっぷり紹介！

●密着！東大生の一日

東大生はどのような一日を過ごしているの？一日を密着レポート！

●東大生コラム

東大生を身近に感じ、東大生をもっと知りたくなるコラム！

SNSも発信中
【X】@KiminoUTokyo
【Instagram】@KiminoUTokyo

サイト運営：東京大学高大接続研究開発センター

企画・編集　高大接続研究開発センター
発　　行　〒113-8654 東京都文京区本郷７丁目３番１号
東京大学入試事務室　TEL.03-5841-1222
制作協力　株式会社梁プランニング
印　　刷　株式会社コームラ
2025年７月発行